

事業報告書(様式5)

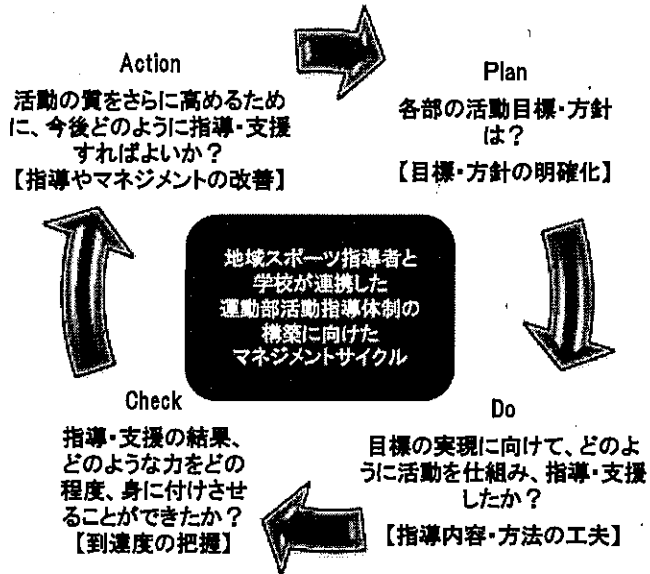
初めて剣道を行う生徒にも、打つことや技ができることの楽しさや喜びが味わえることを目指した実践例

学校名	福島市立福島第三中学校
部活動名	剣道部
部員数	10人(男子7人、女子3人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-534-3171

学校Eメールアドレス:f3chu@educet01.plala.or.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】

- (1) 外部指導者と顧問が連携を図り、稽古のメニューを決めて繰り返し技能の正しい習得ができるよう練習を重ねることができた。
- (2) 基本の稽古中、お互いの技法についてアドバイスをし合うことを意識的に行い、正しい技能の習得に結びつけてきた。
- (3) 他校との練習試合等で学んだ効果的な稽古は、自分達の練習内容に加え、技能習得の一助とした。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】

- (1) 正しい打突方法を習得することを目標に、毎日の稽古を行ったことで級審査や昇段審査で合格することができた。
- (2) 単に稽古し合うだけではなく、互いの技法について学び合う活動を取り入れていることで、部員全員の技術力向上を図ることができ、大会での成果にも結びついてきている。
- (3) 他校生との錬成会を通して、さらに上の目標を持って意欲的に稽古に励む姿が見られるようになった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】

- (1) 上半身・下半身の強化や体幹を鍛える運動などをメニューの中に取り入れ、基礎体力の強化を図る活動を継続していくこと。
- (2) 武道は技能のみではなく、心を鍛えることも大切であるため、あいさつや礼儀を大切に人を大切にする心を育て、相手と本気で真剣に向き合わせる。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1) 活動開始前の健康状態の把握をしっかりと行う。
- (2) 開始前と開始後に床のモップがけを丁寧に行い、活動中に異物を踏んでけがをすることのないようにする。
- (3) 剣道具の正しい着装に努めると共に、竹刀の点検を徹底し、稽古中のけがを防止する。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1) 事前に外部指導者へ、生徒の練習状況や他校との練習試合の状況を伝え、練習方法についての指示をいただくと共に来校時の指導に生かしていただくようにしていた。
- (2) 外部指導者の指導の下、顧問は日頃の練習メニューに技能の向上に有効な稽古を組み入れ、技能の向上が図れるようにしてきた。

基本練習の進め方

素振りの稽古において、面の基本の打ち方についての試技



技法の習得

面打ちの基本練習において、稽古途中での確認。



試合を行う際の礼法についての確認

試合場に入る際の正しい礼法についての説明



実践稽古を通しての指導

一本となる打突にするための方法についての確認



昇級・昇段審査や試合の結果

剣道部員10名全員が中学校入学後に剣道を始めた生徒である。

【本年度の昇級・昇段審査の結果】

1級合格者5名 初段合格者4名

2段合格者7名(3年生)

【試合結果】

福島支部中体連新人大会(男子団体)ベスト8 (女子団体)第5位 東北地区新人大会出場

※ 女子は今年度入部した1年生1名が参加して4名という団体メンバーの構成であったが、基本的な技を正しく習得していたことが勝ちに結びついた。

第15回フレッシュ剣道大会 男子団体優勝 女子個人戦ベスト8

先生からの指導の成果をふり返って

先生が常に生徒に伝えて下さっているのは、相手に勝てることばかりではなく、正しい打突の技術を身に付けていることが更なる技の上達に結びつくということである。生徒は試合での勝敗で自分の技能を評価しがちである。しかし、正しい打突の技法を理解して、繰り返し練習することの大切さを意識して日々の稽古を行ってきたことで、一本に結びつく打突方法の習得に結びつき、今年度の成果につながったと感じた。生徒達一人ひとりの個性に応じた言葉かけや指導をしていただいたため、それぞれが目標を持って技の習得に努力できたことも大きな成果である。

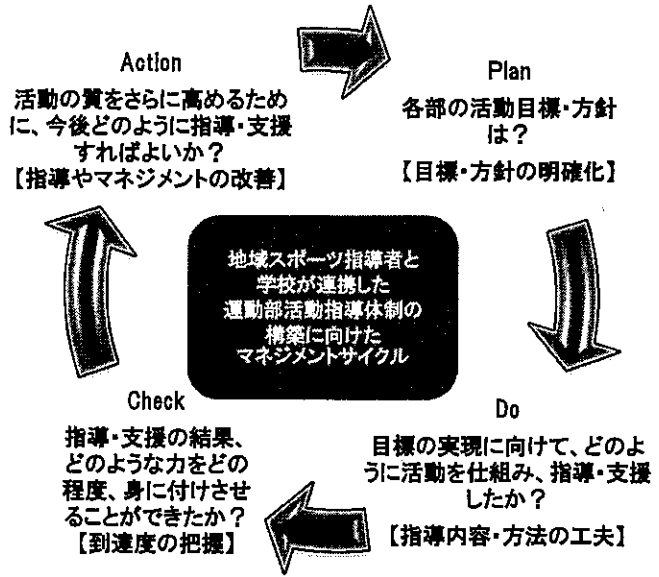
事業報告書(様式5)

顧問と外部指導者が連携し、多方面から指導に当たることで個々の生徒の技能、体力の向上を促す運動部活動を目指した実践例

学校名	福島市立西信中学校
部活動名	バスケットボール部
部員数	20人(男子10人、女子10人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:	024-593-1049
学校Eメールアドレス:	seishinj@ht-net21.ne.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】

(1)外部指導者と確認し合った練習メニューを毎日確認させ、チーム全体で目標をもって練習に取り組めるようにした。
 (2)練習試合を取り入れながら、段階的・計画的な練習の成果を確かめさせると同時に、充実感や満足感を味わえるようにした。
 (3)練習を大切に、生徒の自発的な活動となるように日常生活の中でも協力・助け合い・声を掛け合うことができるよう助言しながら指導を行っている。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】

(1)外部指導者と確認し合った練習メニューを与えたことにより、練習中の動きがスムーズになってきた。また、自分たちで自主的に活動する姿が見られるようになってきた。
 (2)練習試合により、他校の技術面・体力面・精神面が刺激となって「勝つ」ことへの意識が見られるようになった。
 (3)練習試合から得た課題がより具体化し、試合を想定した練習への取り組みができるようになった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】

(1)学校での限られた時間内だけの練習では、十分な技能・体力の向上は難しい。そのため、帰宅後の具体的な自主練習の取り組みについて指導していく。
 (2)技能向上面から練習メニューの継続も大切だが、男女別メニューでの練習を実施しながら指導することも必要と考える。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1)体調のよくない生徒(膝痛・腰痛など)は、練習前に顧問に申し出るようにしている。外部指導者には顧問と生徒本人から確実に伝え、体調に合わせて筋力トレーニングや別メニューを与えて取り組ませた。
 (2)技能のレベルの違いにあわせた個人技能習得練習からチームの技能習得練習へと段階的に指導内容を工夫した。
 (3)技能レベルにあったチーム編成をして、どの生徒も試合に出場できる経験の場を設定した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1)練習日については、学校側の部活動計画書を事前に渡し、外部指導者と時間帯を確認し合った。
 (2)外部指導者の練習日は、外部指導者が主スタッフとなり、顧問がサブスタッフとして巡回指導に当たり、連携を図った。
 (3)外部指導者の指導内容を少し変化させたメニューを作成し、それを確認しながら毎日の練習で実践している。

【外部指導者による指導】
戦術について確認しながら指導



【主体的に練習する生徒】
与えられた練習メニューに自主的に取り組む



【安全の確保と基礎体力向上について】
基礎体力向上について顧問も関わり安全確保

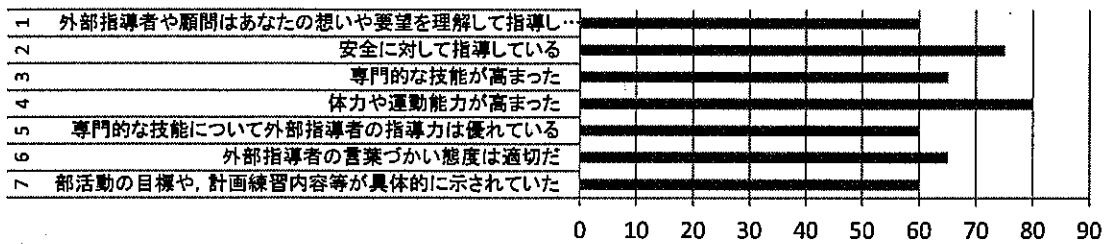


【練習内容の提示】
作成した練習メニューを実践

時間	内容	備考
10:00	集合、準備運動	
10:10	基礎体力向上メニュー	
10:20	戦術確認	
10:30	自主練習	
10:40	休憩	
10:50	戦術確認	
11:00	自主練習	
11:10	集合、解散	

【地域スポーツ人材の活用実践支援専攻生アンケート】
バスケットボール部員のアンケート調査結果

※ 外部指導者と連携し、部活動を行ったことで、生徒が自己の技能の高まりや体力の向上を実感していることが事後のアンケートからも感じられる



【今後課題と取り組む方向性】
今後の目指す方向性

- ・ 生徒は外部指導者からの高い技能レベルの練習を受け、体力の向上や技能の高まりを実感することができた。身についた技能を生かし、今後は集団の中で技能を発揮させる指導を目指して行きたい。
- ・ 技能面や安全面で練習時に注意しなければならないことを部員全員が考え、生徒自ら声かけできるようにすることで生涯スポーツにつなげられるようにしていく。
- ・ 保護者からの要望があるため、今後も継続して外部指導者の委嘱をお願いしたい。本校にバスケットボールを専門的に指導できる教員が勤務するまでは、継続して本事業を行い、生徒のニーズに応えていきたい。

事業報告書(様式5)

顧問と外部指導者が連携し、多方面から指導に当たることで個々の生徒の技能、体力の向上を促す運動部活動を目指した実践例

学校名	福島市立西信中学校
部活動名	女子卓球部
部員数	7人

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:	024-593-1049
学校Eメールアドレス:	seishinj@ht-net21.ne.jp

Action
活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？
【指導やマネジメントの改善】

Plan
各部の活動目標・方針は？
【目標・方針の明確化】



地域スポーツ指導者と学校が連携した運動部活動指導体制の構築に向けたマネジメントサイクル



Check
指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？
【到達度の把握】

Do
目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？
【指導内容・方法の工夫】

Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

- (1)外部指導者に教えていただいた練習メニューを、毎日の部活で確実に取り組ませた。
- (2)練習試合や各種大会に積極的に参加することで、個人やチームとして、練習の成果を確かめさせる機会を設けた。
- (3)団体戦で勝ち抜ける強い精神力でプレーできるように、日常生活の中でも協力・助け合い・声を掛け合うことができるよう指導を継続している。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

- (1)外部指導者に教えていただいた練習メニューを日々の練習で行ったことにより、正しいフォームが身に付き、自分の思う球が打てるようになってきている。また、自分たちで自主的に活動する姿が見られるようになってきた。
- (2)練習試合や大会での試合経験を積むことにより、他校の技術面・体力面・精神面を学び、練習への集中力が伸びてきている。
- (3)練習試合や大会から得た個人の課題が明確になり、試合を想定した練習になってきた。また、外部指導者へ自ら質問するなどの積極性も育ってきている。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

- (1)学校での部活の練習では、十分な技能・体力の向上は難しいので、自宅で取り組める体幹トレーニングの方法や、ボールに回転をかける練習方法などを具体的に指導していく。
- (2)確かな技能を向上させるための基礎練習メニューの継続も大切だが、同メニューだと次第に集中力が欠けてしまうので、練習会等で学んできた練習方法も取り入れている。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1)練習前に体調のよくない生徒は顧問に申し出るようにしている。外部指導者には顧問や生徒本人から伝え、体調に合わせた別メニューを与えて取り組ませた。
- (2)技能のレベルの違いにあわせ、個人技能の習得練習から試合形式の技能習得練習へと段階的に指導内容を工夫した。
- (3)技能レベルに合わせて試合にエントリーし、すべての生徒が試合に出場できる経験の場を設定した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1)練習日については、学校側の部活動計画書を事前に渡し、外部指導者と時間帯を確認し合った。
- (2)外部指導者の練習日は、外部指導者が主スタッフとなり、顧問がサブスタッフとして巡回指導に当たり、連携を図った。
- (3)定期的に外部指導者へ段階に応じた練習メニューを作成してもらい、毎日の練習で実践している。

【外部指導者による指導】
個人の能力に合わせた個別指導



【主体的に練習する生徒】
与えられた練習メニューに主体的に取り組む



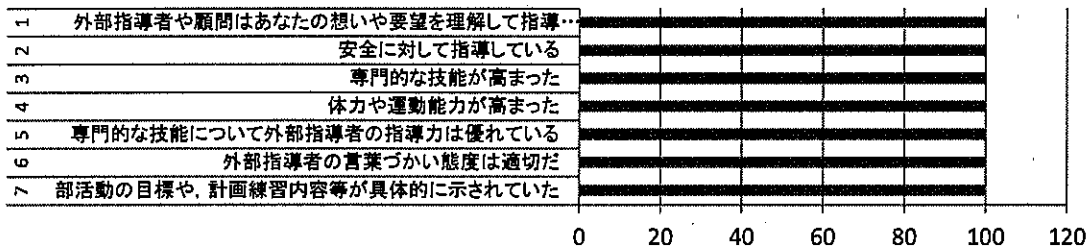
【安全の確保について】
複数の顧問がかかわり多方面から観察



【練習内容の提示】
時期によって練習メニューを工夫した



【地域スポーツ人材の活用実践支援専攻生徒アンケート】
バスケットボール部員のアンケート調査結果



【今後課題と取り組む方向性】
西信中としての目指す方向性

- ・ 生徒は外部指導者からの高い技能レベルの練習を受け、技能の高まりを実感することができた。今後はその技能をいかし集団として技能を発揮させる指導を目指して行きたい。
- ・ 練習の中で指導された技能面・安全面で注意しなければならないことを部員全員が考え、生徒自らが声かけできるようになることで、生涯スポーツにつなげていけるようにしていく。
- ・ 保護者からの強い要望があるため、今後も継続して外部指導者の委嘱をお願いしたい。学校としてもこれまで、顧問と外部指導者と連携して段階的に指導を行ってきた経緯があるため継続して本事業を行い、生徒のニーズに応じていきたい。

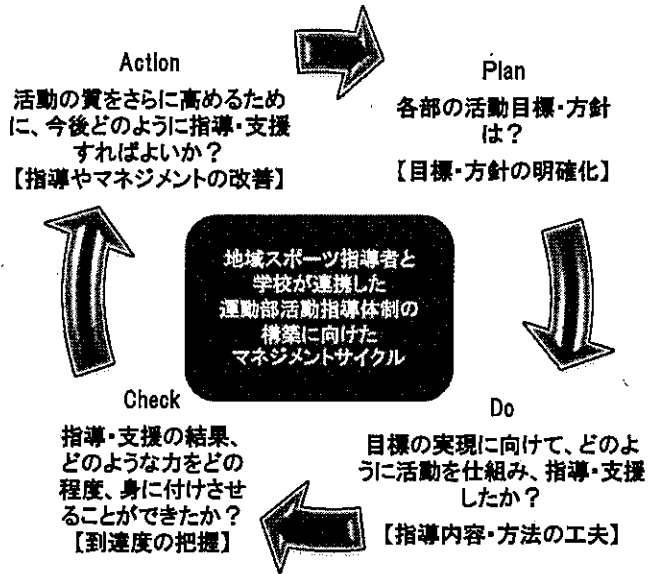
事業報告書(様式5)

顧問と外部指導者が連携し、多方面から指導に当たることで個々の生徒の技能、体力の向上を促す運動部活動を目指した実践例

学校名	福島市立西信中学校
部活動名	女子バレーボール部
部員数	15人

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:	024-593-1049
学校Eメールアドレス:	seishinj@ht-net21.ne.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】
 (1) 時期や能力によって目標の設定を行い、練習に取り組ませた。また、目標を達成できたかどうかリーダーを中心に反省をし、新たに目標を設定するなど、生徒が自ら目標を設定し意欲的に練習に取り組めるようにした。
 (2) 練習試合を定期的に取り入れ、個人としてチームとして、段階的・計画的な練習の成果を確かめさせると同時に、充実感や満足感が味わえるようにした。
 (3) 競技ではお互いにカバーし合うことが大切であることから、日常生活の中でも協力・助け合い・声を掛け合うことができるよう指導を継続している。

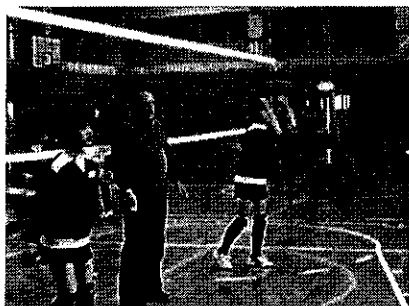
Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】
 (1) 指導者と外部指導者と連携して指導にあたったことで、きめ細やかな指導ができた。よって、基礎的な運動能力の向上とバレーボールの技術の向上が見られた。
 (2) 練習試合を定期的に行ったことにより、個人やチームの課題が確認できた。また、他校の練習や実力を目にし、良い刺激を受け、練習への意欲につながり、自主的に練習に取り組む姿が見られるようになった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】
 (1) 練習の意図や具体的な目標を明確に生徒に提示し、生徒自身が疑問に思ったり、気がついたりすることで、やられる練習ではなく、自主的・主体的な練習にしていく。
 (2) 具体的なデータを示したり、プレーをビデオに撮ったりするなどして、チームや個人の状況が視覚からもわかるように提示する。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと
 (1) 練習前の観察確認(体調・怪我等)を行うとともに、怪我や体調不良を正直に話すことができるような雰囲気づくりに気をつけた。また、怪我をしている生徒には個別にメニューを与えた。
 (2) バレーボールでは突き指、捻挫、肩を痛めることが多いため、指先や足首の強化トレーニングやストレッチを取り入れ、けがの防止に努めた。また、生徒自らが、自分やチームメイトの安全に配慮できるように指導した。
 (3) 個人の能力に配慮したポジショニングと適材適所を見極め起用をすることで、多くの生徒が練習試合や試合を経験できる場を設定した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと
 (1) 練習日について練習計画を外部指導者に渡し、連絡調整した。
 (2) 外部指導者と指導者が練習のレベル別にグループを作成し指導に当たるなど連携を図った。また、指導者と外部指導者が練習を主導する場面とサブに入る場面を意図的につくり、練習にメリハリをつけた。

【外部指導者による指導】
能力に合わせ個別指導している



【自主的に練習する生徒】
練習で教わったことを休憩時間に組み込む



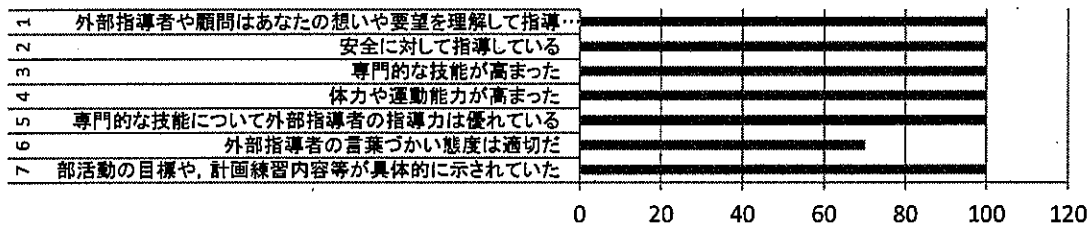
【安全の確保について】
複数の顧問がかかわり多方面から観察



【怪我の防止に配慮した練習】
肩胛骨周辺のストレッチ



【地域スポーツ人材の活用実践支援事業生徒アンケート】
バレーボール部員のアンケート調査結果



※ 外部指導者と連携し、部活動を行ったことで、生徒が自己の技能の高まりや体力の向上を実感していることが事後のアンケートか

【今後課題と取り組む方向性】
西信中としての目指す方向性

- ・ 生徒は外部指導者からの高い技能レベルの練習を受け技能の高まりを実感することができた。今後はその技能をいかし、集団として技能を発揮させる指導を目指して行きたい。
- ・ 練習の中で指導された技能面・安全面で注意しなければならないことを部員全員が考え、生徒自らで声かけできるようになることで生涯スポーツにつなげられるようにしていく。
- ・ 保護者からの強い要望があるため、今後も継続して外部指導者の委嘱をお願いしたい。学校としてもこれまで、顧問と外部指導者と連携して段階的に指導を行ってきた経緯があるため継続して本事業を行い、生徒のニーズに応じていきたい。

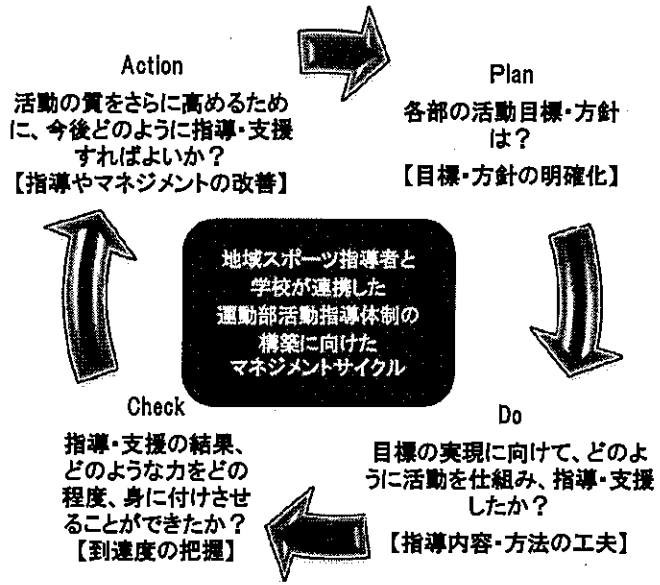
事業報告書(様式5)

外部指導者と協力して競技力向上
を目指した実践例
～フェンシング競技～

学校名	川俣中学校
部活動名	フェンシング部
部員数	8人(男子7人, 女子1人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 024-566-4111
E-mail: kawamata-chu@town.kawamata.lg.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

(1) 練習日程については、月ごとに外部指導者と打ち合わせをして計画を立てた。外部指導者による指導は、週1～2回を目安にしている。

(2) 生徒は、小学生からフェンシングを続けている生徒と中学校入学から始めた生徒がおり、技能と体力の個人差が大きいため、個人にあった指導をしていくことを確認した。

(3) 外部指導者はフェンシングに関する技能全般を指導し、中学校顧問は体力向上と健康安全面に関することを中心に指導していくことを確認した。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

(1) フェンシングは、剣を使用し、マスク、メタルジャケットなど身につける物が多いが、定期的にほころび等のチェックをすることにより、安全に対する意識を高めることができた。また、夏の熱中症対策のため、休憩、水分補給を習慣化させることができた。

(2) 生徒それぞれの資質にあった練習を繰り返していくことにより、体力、技能を向上させることができた。その結果、全員が川俣町大会・福島県総合体育大会等へ、経験者は東北少年大会、全国中学生選手権、JOCジュニアオリンピック国内予選レベルの大会へ参加できるまでに向上させることができた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

(1) 部活動の顧問と外部指導者の連絡を密にし、生徒の資質や技能にあった練習をこれからの継続していきたい。

(2) フェンシングの競技人口が少ないため、練習試合などを組むのは容易でない。そこで、今までも川俣高校フェンシング部との合同練習会を行ってきたが、今後も連携を取り定期的に取り組んでいきたい。

(3) 近隣の米沢や仙台の同じレベルのチームとも交流会を深めて、技能を高めていきたい。

(4) フェンシングは、ユニフォーム、器具等に多額の費用がかかる。その上大会等で遠征が多いため、保護者負担が大きい。川俣町からの補助等があるが、さらに援助等があれば安心して競技に専念することができる。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1) フェンシング競技は、剣を用いて相手を刺すという、非常に危険なスポーツであることを、競技している選手をはじめまわりにいる生徒も全員が認識して行動するように、繰り返し指導した。

(2) 剣、ユニフォーム等の点検を定期的に行い、古い物は廃棄し、計画的に購入していくことにした。

(3) フェンシングはマスクを付け、厚いユニフォームを着用して練習、試合に臨むので、夏は熱中症が心配される。そのため、長時間の練習にならないこと、休憩時間、水分補給時間の確保などに気をつけながら行った。

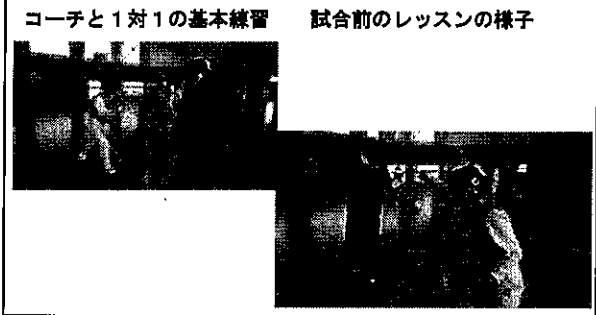
顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1) 顧問と外部指導者は、生徒の体力健康面・技能習熟の状況などについて情報交換し、練習内容の検討をした。情報交換は毎週土曜日を基本として行った。

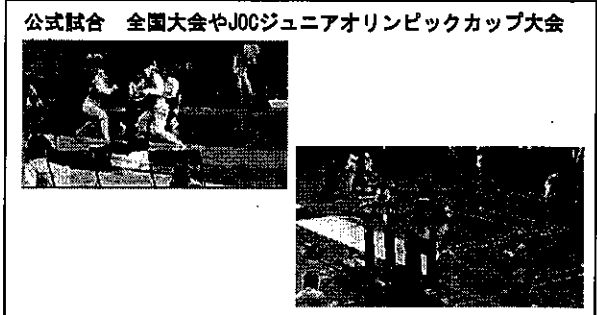
(2) フェンシングの技能面については、外部指導者を中心に指導してもらい、大会遠征や予算管理・体力づくり等について顧問が主に行うことにした。

(3) 東日本大会・全国大会・国体・JOCジュニアオリンピックカップ・東北大会などで、いかにして活躍する選手を輩出するかを念頭に置いた。年間の大会スケジュール、月ごとの練習計画を立案し、計画的に練習や公式試合に取り組めるようにした。

【基本練習の様子】
「構えの姿勢、足の運び方、剣のつきかた、声の出し方など基本の繰り返しが多い。」



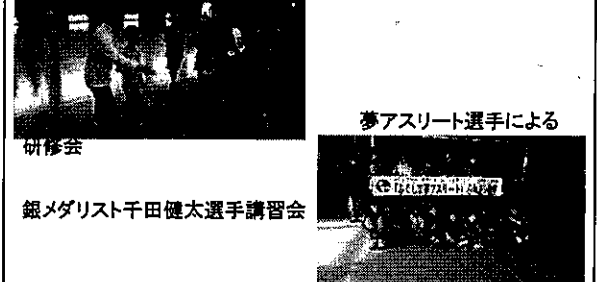
【全国大会・各種大会への参加】
「県内の中学校では、練習相手がないため、県外の公式大会に参加することは貴重な実践練習になる。」



【器具の点検】
「常に危険が伴っていることを指導し、マスク、防具等の点検を欠かさないようにしている。」

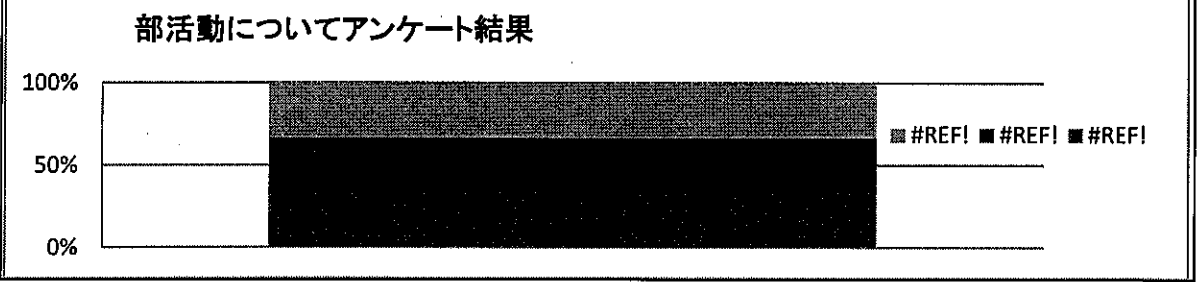


【各種講習会への参加】
「福島県フェンシング協会、川俣町、川俣高校をはじめとして、競技力向上のために開催される行事に参加している。」



【フェンシング部員へのアンケート】
アンケートの結果を見ると、指導者の技能が高く、折りに触れて熱心に指導に当たっていることがわかる。中学選手も激励に応えようと公式大会や練習に真剣に取り組むことができた。大会のたびに保護者からの指導者への感謝の気持ちは伝わっている。

- 質問項目
- 質問1 外部指導者や顧問は、あなたの部活動に対する想いや要望を理解して指導していたと思いますか。
 - 質問2 外部指導者や顧問は、活動にあたって安全に配慮して指導していたと思いますか。
 - 質問3 部活動をとおして、専門的な技能は高まったと思いますか。
 - 質問4 部活動をとおして、体力や運動能力は高まったと思いますか。
 - 質問5 部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。
 - 質問6 外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思いますか。
 - 質問7 部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示されていたと思いますか。



【フェンシング部の取り組み】
フェンシング部の現状、次年度へ向けて

- ・フェンシングが中学校の部活動として設置されているのは、福島県内では本校のみである。川俣中学校の顧問教師はフェンシングに関してはある程度の競技経験者である。教員で指導できるものは県内では、川俣高校や福島商業高校の顧問教師数人しかいない。フェンシングの特性上、危険が伴う競技であり、指導には専門的な知識、技能が不可欠である。よって、外部コーチによる指導は今後も必要不可欠である。
- ・川俣町は、ふくしま国体においてフェンシング競技が開催された経緯から、フェンシングを指導できる指導者が数名いる。また、川俣町も大会を主催するなど協力的である。全国大会や国体で活躍する選手を育てるためには、小学校や中学校のジュニア世代から競技指導をしないと、全国では明らかに通用はしない。
- ・今後も、フェンシングの競技力向上や普及のため、県フェンシング協会、川俣町、川俣高校、フェンシング競技指導者等と協力していきたい。
- ・フェンシングは、剣、マスク、ユニフォーム、試合のための器具など高価なものが必要である。また、大会への参加は県外が多くなるため旅費や宿泊費もかかる。川俣町からの補助もあるが、保護者の負担は他の競技と比較してかなり大きい。競技者を増やすためにも、負担軽減策を検討していきたい。

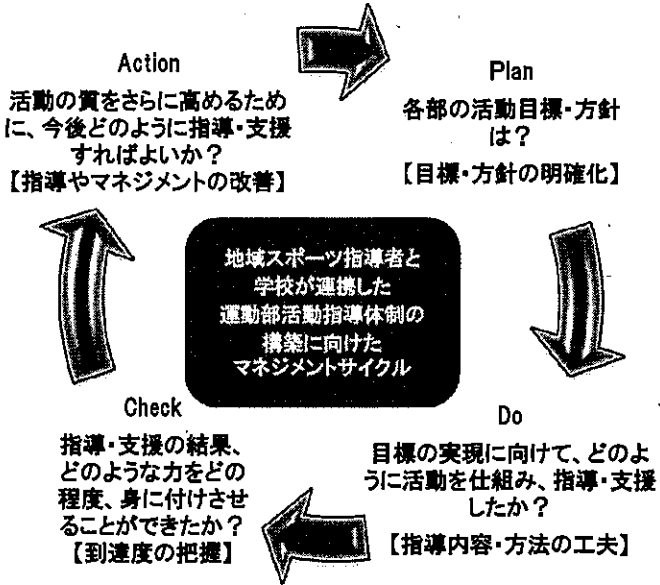
事業報告書(様式5)

地域との連携を図り、地域の伝統スポーツを継承することを目指した実践例

学校名	川俣町立山木屋中学校
部活動名	スケート部
部員数	3人(男子2人、女子1人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-538-1960
学校Eメールアドレス:yamakiya-chu@town.kawamata.lg.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

(1) スケートシーズン前にも、外部指導者の助言をもとに競技に必要な基礎体力の向上を図るトレーニングや、インラインスケートを用いて滑りのイメージをつかむ練習を行った。
 (2) オンシーズンには、大会会場となるスケートリンクに練習に出向き、基本的な技能を中心として競技上のルールやレースの組み立て等、実戦に関わる知識や技能の習得を図る活動を行った。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

(1) スケート経験が浅い部員もいるため、例年以上に競技力が高まったといえる状況ではなかったが、スケート競技に関する基本的な知識・技能を身につけ、大会に参加することのできるレベルに到達することができた。
 (2) 県大会ではリンクコンディション不良のため競技中止となってしまう、公的な記録は残せなかったが、2年生は来年度の大会参加への意欲が高まった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

(1) 専門的な指導者により、より専門的な視点からスケートに関する知識や基本的な技能について指導していただく機会を今後とも確保していく。
 (2) スケート部顧問と地域のスケートクラブ、専門的な指導者との連携をさらに密にして指導に当たる。
 (3) スケートに限らず、生徒を様々な運動に親しませ、運動や競技に対する関心を高め、日頃から体力の向上を図る取り組みを行う。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1) 氷上練習においては、各スケートリンクの使用上の注意点をしっかり理解させ、補助イスの使用や手袋の着用等の安全対策を行って活動させた。
 (2) 複数の指導者が指導に当たり、生徒の技術レベルにあわせ、個に応じた指導を行い安全を確保した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1) 顧問や管理職と外部指導者の間で、活動の目標や年間計画についての共通理解を図り、修正や変更については随時連絡を取り合った。
 (2) 専門性が必要とされる技術については主として外部指導者が指導に当たり、スケートに必要な基礎体力向上や基本的な技能の指導は、外部指導者の助言をもとに顧問が指導を行った。
 (3) 練習内容や日程については、電話やFAXだけでなく、互いに直接出向いて相談や調整を行うことにも努めた。

【郡山スケート場での氷上練習】
12月より、大会に向けた練習



【基本姿勢の練習】
ウォーミングアップをかねて、低い姿勢の維持練習



【怪我、転倒防止】
補助イスを活用し、初期段階での転倒を防ぐ



【インラインスケート】
氷上でのスケートシューズに類似した用具の活用



【スケート部生徒の感想】
本取り組みにおける生徒の意識の変化

地域スポーツ人材活用実践支援事業アンケートについては、顧問(2名)、部員(3名)共にすべての質問項目でアと回答しており、外部指導者の活用について有効であったという結果が得られている。

また、生徒からは次のような感想が得られた。

- 専門的なことを教えていただけでよかった。
- 少しずつ自分の技術が上がっていくのが分かった。
- 不安なこともあったが、教えていただく中で自信がもてるようになってきた。

【スケート部の存続に向けて】
山木屋地区伝統のスケートの継承に向けて

○ 震災から5年がたとうとしている現在も学校、家庭共に避難が続いている。山木屋地区で地域住民が整備してきたスケートリンクも平成28年1月によりやく再開することとなった。しかし、地区のスケートリンクが閉鎖された4シーズンの間、山木屋小生を含めたほとんどの山木屋の子どもたちは、日常生活の中でスケートに親しむ機会が大きく減っている。山木屋小学校も中学校も郡山アイスアリーナ、スケート場でそれぞれスケート教室を実施し、スケートへの関心や技能の向上を図ろうとしているが、スケート部への入部希望者は少なく部員の確保が難しい状況である。また、山木屋小学校児童、山木屋中学校生徒共に福島市や山木屋地区以外の川俣町内に住居を確保している家庭が相当数あるので、山木屋のスケートリンクが再開となっても避難以前のようにスケートに取り組むことができる生徒は多くないと思われる。

- 来年度もスケート教室を実施し、生徒がスケートに親しむ時間の確保に努めるとともに、スケート部に関し

事業報告書(様式5)

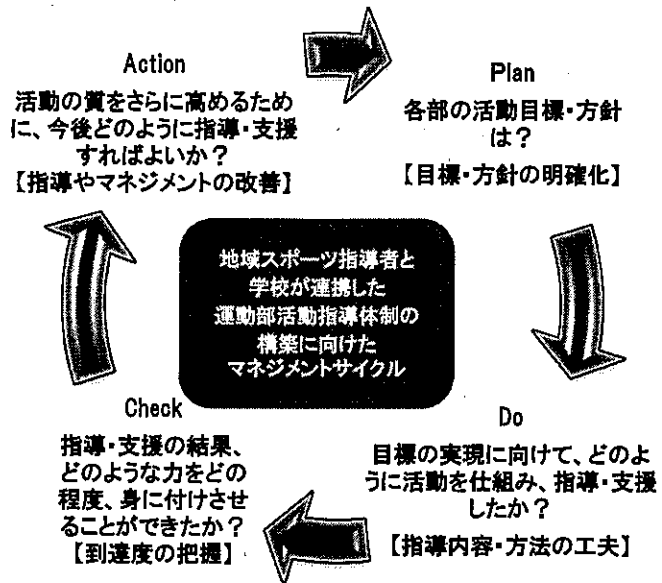
生徒一人ひとりの自主性・社会性と個性の伸長を図る部活動を目指した実践例

学校名	伊達市立桃陵中学校
部活動名	柔道部
部員数	12人(男子11人、女子1人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-576-6353

学校Eメールアドレス:school@toryo-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】

- (1) 生徒の実態を的確に把握し、顧問との協力により個々の生徒の能力を十分に生かせるように指導の方法を工夫する。
- (2) 指導者の指導・助言をもとに、生徒が自主的に活動し、運営できるようにさせる。
- (3) 生徒の主体性を重視し、活動の成果を発表しあい、活動の在り方と意義を理解させる。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】

- (1) 継続的な基礎技術の習得に向けた指導により、技術の向上が見られ、自信をもつことができた。
- (2) 指導者が地域のスポーツ少年団の指導者でもあることから、生徒の多くは小学校低学年から接しており、個に応じた段階的な指導を行うことができた。
- (3) 初心者への指導に関しても、豊富な指導経験のある指導者のもとで、一人ひとりに基本的な技能の習得が見られた。各種大会でも、上位入賞を果たすことができた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】

- (1) 専門的な指導者のもとで培った技能の習得状況を的確に評価し、今後の指導に生かすとともに、指導者の助言のもとで、試合運びや技の研究を行い、生徒の目標達成に向けて指導力の向上を図る。
- (2) 技術指導のみならず、礼儀を重んじ、周囲への思いやりを導び、あいさつを徹底する指導、さらに柔道部というチームの一員である集団意識を育てる指導を行う。
- (3) 指導者が意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努める。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1) 部員の心身の疲労回復に配慮し、毎日2時間程度の短時間集中型の練習を心掛ける。
- (2) 生徒の健康状態を的確に把握し、休憩時間を十分に確保して事故防止に努める。
- (3) 準備運動・整理運動を徹底させる。
- (4) 体調不良のものは活動させないようにする。
- (5) 基本的に日曜日を休養日にする。

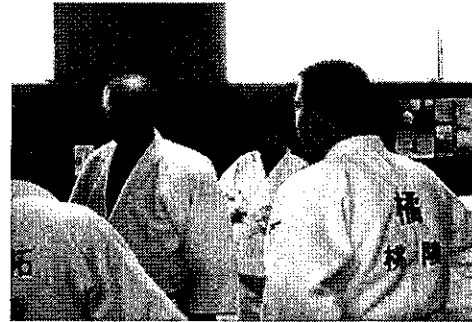
顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1) 指導スタッフ間の連携策として、メール等で連絡を密に取り合い、指導方針や指導内容の共通理解を図る。
- (2) 常に主体は顧問教師であるというスタイルを生徒に浸透させ、コーチには指導を依頼しているという関係を崩さないようにする。

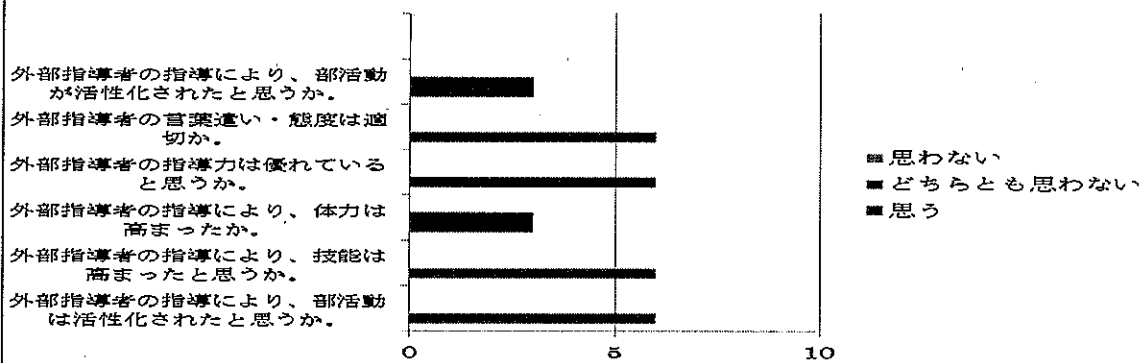
【指導の様子①】
外部指導者の模範を見て、技を学ぶ生徒



【指導の様子②】
外部指導者の指導を受け、技の研究を行う様子



【アンケート集計グラフ】
部員も外部コーチの効果を実感しています。



【外部コーチの必要性】
豊富な経験と実績のあるコーチ

専門的な知識と技術が必要な武道において、中学校の顧問が必ずしも専門家であるとは限らない。そのため、生徒の技術の向上のためにも安全性の向上のためにも専門的なコーチは必要不可欠であると思われる。また本校の外部コーチは保原スポーツ少年団の柔道の指導者としても小学校のころから生徒達を指導しており信頼も厚いことから、引き続き本コーチの指導を望む。
中学校の段階で、継続的な指導をいただけることはきわめて有効であると考えます。

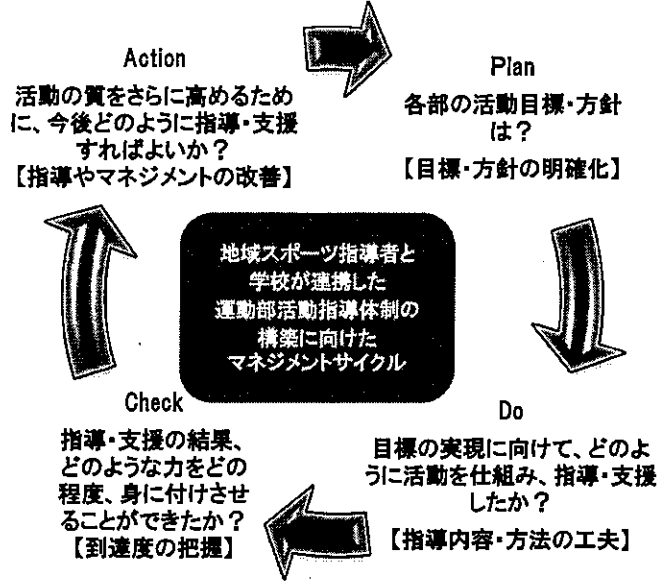
事業報告書(様式5)

学校と外部指導者、保護者会が相互に連携・協力して、生徒一人一人の充実した運動部活動を目指した実践例

学校名	伊達市立桃陵中学校
部活動名	剣道部
部員数	18人(男子12人、女子6人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-576-6353
学校Eメールアドレス:school@toryo-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

(1)剣道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく竹刀の扱い方の指導に努める。
 (2)限られた時間内で集中して気剣体の一致を目指した正しい打突を実践できるよう、個々の能力に応じて基本に忠実に練習を行わせる。
 (3)部長を中心として部員一丸となり、主体的な練習を行えるような人間関係の醸成に努めさせる。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

(1)中体連県大会の出場を目標として、各種大会で上位入賞を目指して各自が技能の向上に努めた。中体連男女団体県北大会出場、決勝トーナメント進出。
 (2)昇段審査会に合格して、有段者の資格を取得したいと考えている生徒がほとんどである。本年度昇段審査結果、剣道2段取得者4名、初段取得者3名。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

(1)外部指導者の指導日に顧問とのきめ細かい打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供の更なる充実を図る。
 (2)高段者である外部指導者から、剣道の理法や科学的根拠に基づくより効果的な練習内容や練習方法等の情報を入手し、練習に取り入れる。

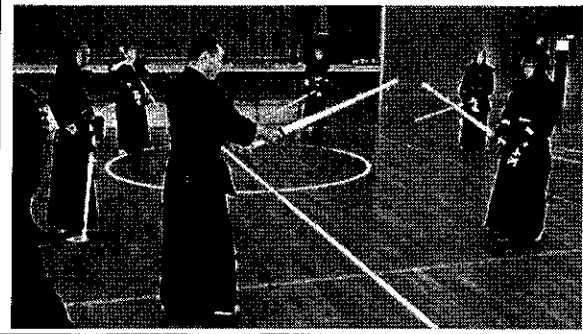
生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1)公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とした。また、週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とした。
 (2)毎週月・水・木曜日は、地区のスポーツ少年団への参加のため、部活動との重なりによる体力面を考慮し、練習内容を軽減した。
 (3)怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努めた。

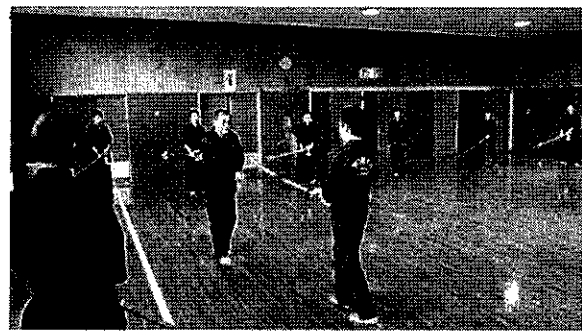
顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1)外部指導者の指導日においては、外部指導者が主体となり、生徒への指導を行った。その際、顧問は外部指導者の指導補助や、生徒の健康面の管理など、円滑に活動が実施できるようきめ細かい支援・補佐に努めた。
 (2)大会引率時においては、技術指導に加え、生徒の精神的な支えとして外部指導者にチームの監督・コーチをお願いして指導を頂いた。

【全体指導①】
生徒全員に技の注意点等を指導する様子



【全体指導②】
昇段審査会にむけた日本剣道型を指導する様子



【全体指導③】
生徒の体力面を考慮し、適切に休憩を取る様子



【個別指導】
練習終了後、本日の練習を振り返って全体指導を行う様子



外部指導者についての生徒アンケート結果
外部指導者に指導に対して、アンケート結果より、概ね良好な回答が多く、充実した活動が展開されたと認識できる結果となった

部活動への指導者派遣について(生徒回答集計)

要望の理解	安全への配慮	技能の高まり	体力の向上	指導力	適切な態度	練習内容の提示
思う 16	思う 18	思う 18	思う 18	思う 18	思う 18	思う 16
思わない 0	思わない 0	思わない 0	思わない 0	思わない 0	思わない 0	思わない 0
分からない 2	分からない 0	分からない 0	分からない 0	分からない 0	分からない 0	分からない 2

【本事業後の本校の取り組みの方向性】
本年度の外部指導者「荒井信人先生」のご指導を受けて

・ 昨年度に引き続き、本年度も外部指導者としてご指導頂いた荒井先生は、剣道教士七段(剣理に熟達し、識見優秀。錬士以下を指導する立場。日本剣道形・審判法・指導法等の知識、実技、かつ、剣道の指導および審判の経験を有する者。)であると共に、伊達地区剣道連盟会長として、広く地域の剣道の発展のためご尽力頂いている方である。また、地元の剣道スポーツ少年団「保原健武会」の指導者として、生徒が幼少期の頃よりご指導を頂いている方であるため、日本剣道形等の技術指導に加えて、生徒の精神的支えとなり、活動を力強く支援していただいた。

保護者会においても、会員に対して、部活動の運営状況や活動実績、また、外部指導者の活用等について説明し、全員より快く承諾を得ることができ、剣道部の活動全般における円滑な運営に対して、支援・協力を頂くことができた。

成果として、数多くの大会にて上位入賞を果たすとともに、昇段審査会においても受験者全員が受験段位に合格することができた。

今後も、荒井先生からご指導を頂いた内容を大切に、更なる成長・発展を目指して剣道部の活動を充実させていきたいと考える。

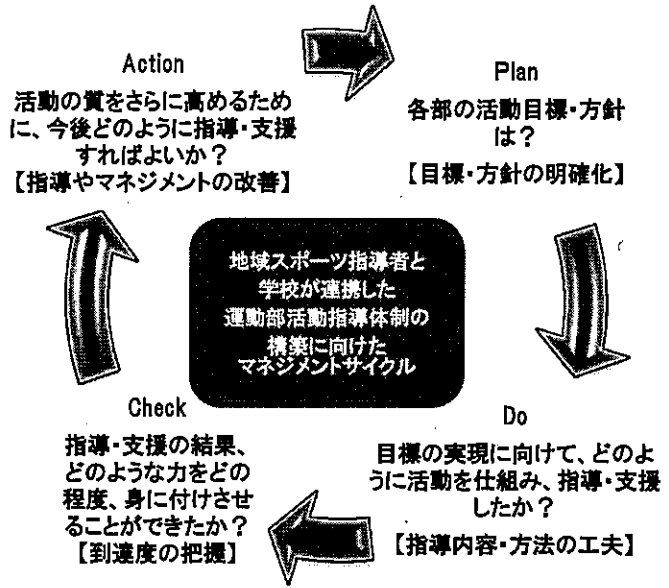
事業報告書(様式5)

学校組織を挙げて生徒が輝く運動部活動を目指した実践例

学校名	二本松市立二本松第一中学校
部活動名	柔道部
部員数	2人(男子)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0243-54-2950
 学校Eメールアドレス: school@nihonmatsu1-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】
 (1) 練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述した記録に顧問等が目を通し、指導・支援の改善に活かした。
 (2) 指導者が意識的にチャンス相談を行い、部内における部員指導上の問題等について早期把握と早期対応に努めた。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】
 (1) 柔道の安全な取り組みの仕方について細かく指導していただいたので、事故防止に効果があったと思う。
 (2) 新入部員への基本動作の指導で、試合に出ることができるまで指導していただいたと思う。
 (3) 上級生への指導においては、技の完成度を上げる指導をしていただいたため、投げ技などに切れがあったと思う。

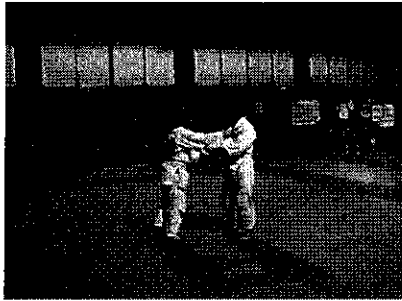
Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】
 (1) 人数が少ない状況なので、活動しやすい場(合同練習等)を積極的に設定する。
 (2) 新入生と上級生の技能レベルに大きなひらきがあるので、それぞれに適した練習内容を考える。
 (3) 実践的な練習を多く取り入れ、基礎・基本を活用することができる資質を養う。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと
 (1) 怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努めた。
 (2) 公式大会がない場合、週休日のいずれか1日を休養日とした。週休日に連続して公式大会があった場合は、翌日を休養日とした。
 (3) 生徒の健康状態の把握、施設・設備の安全確保、安全を確保した指導形態や技能の程度に応じた段階的な指導等を行うことができた。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと
 (1) 外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供をした。
 (2) 外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を得ることができた。

【取組の基本的指導】
組み手について

部活動の様子がわかる写真①



【取組の基本的指導】
背負い投げの指導

部活動の様子がわかる写真②



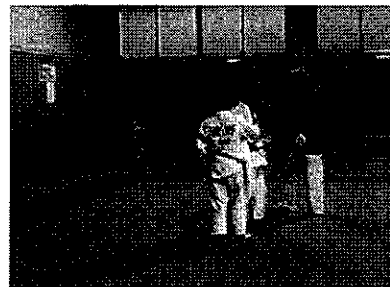
【取組の指導】
相手の関節を痛めないよう配慮した技の指導

安全確保のために配慮している場面の写真等



【取組の指導】
技の後の反省等の指導

工夫した用具や資料の写真等



【生徒に対するアンケート結果から】
今回ご指導をうけた柔道部員のアンケートから抜粋

- ①安全に配慮して指導してくれたと思う。100%
- ②専門的な技能について、指導力は優れていると思う。100%
- ③指導者の言葉遣い・態度は、指導者として適切だと思う。100%

アンケートの結果からも分かるように、生徒たちの指導者への尊敬に値する思いは大変高い。また、自己評価ではあるが柔道の技術の向上があったといえることも大変良かった。

今回の柔道の指導については、二学期後半からの短期間でのご指導をいただいたが、普段と違った雰囲気での指導であり、生徒たちにとっては大変新鮮で刺激的でもあった。ぜひ、継続的なご指導をいただければ今後にも生かしていけるとの期待が大いにある。

【今後の柔道の取り組み】

今後の柔道部の取り組みの方向性

今回の柔道の指導については、二学期の後半からの短期間でのご指導をいただいた。外部の有段者からのご指導が受けられると、部員たちは大喜びであった。教員数などから顧問の配置にも制限が有り、できれば一学期からの継続的なご指導が受けられるとありがたい。今後もぜひ、継続的なご指導をいただきたいと思います。

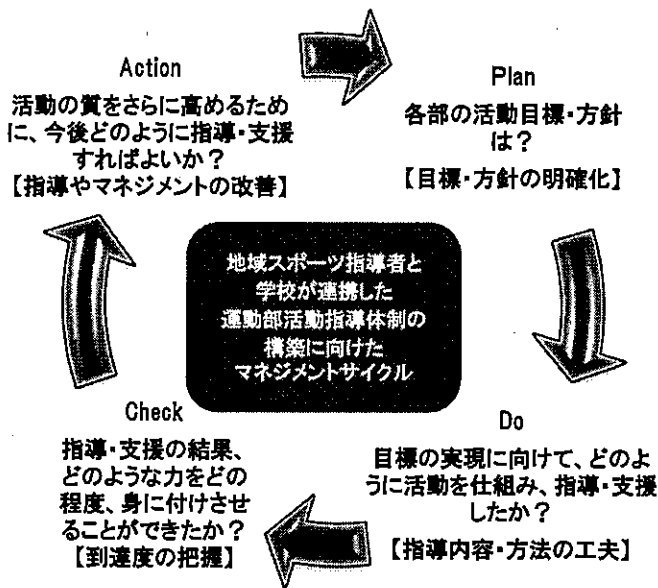
事業報告書(様式5)

どの子も思う存分活動できる部活動を目指した実践例

学校名	郡山市立明健中学校
部活動名	ソフトボール部
部員数	女子9人

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-935-1071
学校Eメールアドレス:meiken-t@edu.city.koriyama.f



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

(1)基本動作(バッティングと守備)のための指導・支援を行った。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

(1)全員が公式試合に出場して一勝することができた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

(1)今後は、審判を行ったり、自分たちでノックをしたりできるような技術が身に付くよう指導・支援いただきたい。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1)始まる前の準備運動と練習中における基本動作を行うためのスペースの確保、終了時の体調確認を行った。
- (2)サンドボールの活用により、狭い場所でも安全に練習に励むことができた。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1)始まりと終わりのミーティングでは、相互に補完するような指示や話ができるよう意識した。
- (2)技術指導の際には、次回までの練習メニューを引き継ぐなど、日常での練習が機能するよう配慮した。

技術練習(1)
トスパッティングでタイミングを学ぶ生徒

部活動の様子がわかる写真①



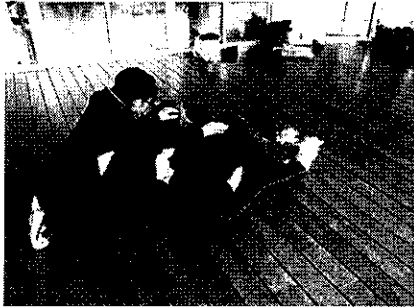
技術練習(2)
打席に入って実践練習する生徒

部活動の様子がわかる写真②



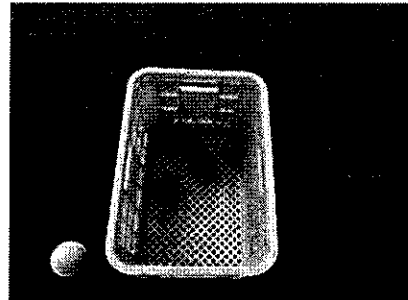
けが予防のための柔軟運動
ウッドデッキで念入りにストレッチを行う生徒

安全確保のために配慮している場面の写真等



サンドボールの活用
砂の球は重く飛ばないため狭い場所でも安全に練習できる

工夫した用具や資料の写真等



「明健中学校 生徒意識調査」より
全校調査の抜粋だが、部活動の項目において1・2年生ともに各項目が上昇した。

部活動は楽しい	1年	5月 91%	12月 91%
部活動は役に立つ		5月 92%	12月 95%
部活動は楽しい	2年	5月 87%	12月 92%
部活動は役に立つ		5月 86%	12月 94%

継続する部活動
廃部にせず存続するソフトボール部

新1年生を勧誘して部活動を存続させ、どの子も思う存分活動できる部活動を行う予定。



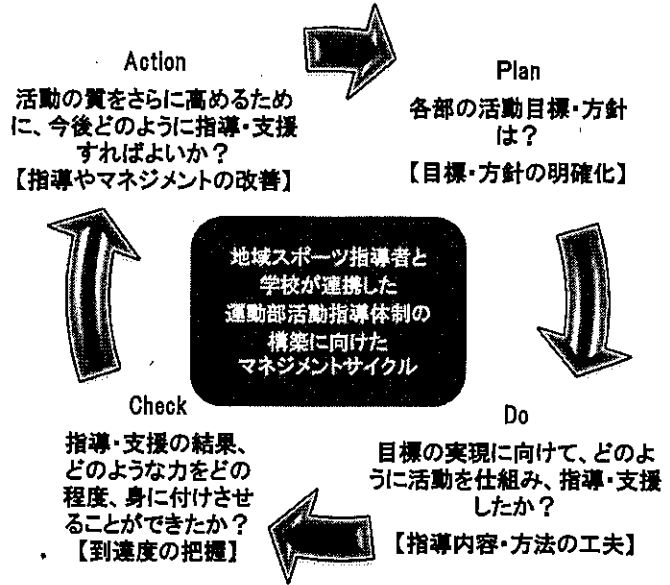
事業報告書(様式5)

地域の特性を生かした部活における地域人材(外部指導者)活用のあり方

学校名	郡山市立熱海中学校
部活動名	特設スピードスケート部
部員数	1人(男子1人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-984-3167
学校Eメールアドレス:atami-t@edu.city.koriyama.fukushima



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

- (1)スケートの技術指導とともに全国大会に向け、滑走のコース取りやレース展開を重点的に指導した。
- (2)スタミナや筋力の強化を図るため、夏以降、陸上トレーニングやウエイトトレーニング等を取り入れた。
- (3)氷上トレーニングでは、高校生などのハイレベルな選手との合同練習会を通して、選手一人一人の意識改革を行った。
- (4)大会や練習では滑りをビデオ撮影し、滑り終わった後にビデオを見ながら、課題を明確にし、次の練習に取り組みました。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

- (1)レース展開のトレーニングにより、レースの駆け引きが上達した。
- (2)スタミナ面では、前年度に比べ持久力が向上した。またスタートにおける瞬発力も向上した。
- (3)高校生などのハイレベルな選手との合同練習会を通じて、技術面や体力面はもちろんのこと、挨拶等の生活面での成長が見られた。
- (4)他の選手の滑走を参考にし、イメージトレーニングを行った結果、コーナーのテクニックの向上が図られた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

- (1)選手の本来の力を発揮させるために、レース前のアップの方法を明確にし、指導する。
- (2)選手には、家庭でも競技のために自主練習を行ったり、体のケアを行うなどについて指導を行う。

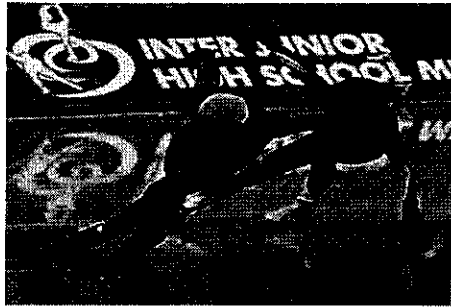
生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1)準備運動の重要性を個別に指導し、自分自身で体のケアができるよう指導した。
- (2)正しい重心移動で転倒を避けるため、身体バランス(体幹)トレーニングを行った。
- (3)身長伸びに合わせて、下腿部の筋力トレーニングを行った。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1)県内在住及び高等学校指導者、一般指導者と県内スケート部顧問との連絡協議会議を通して、指導の目的、日程、大会等のスケジュールについて話し合いを持った。
- (2)小学生、中学生、高校生の強化及び国民体育大会(少年・成年)への強化策を検討し、連盟全体で指導者を配置した。学校はその報告を受けて、福島県スケート連盟へ指導者の派遣依頼を行った。

【コーナーワーク】
コーナーワークでの左足プッシュの向上



【コーナーワーク】
上体を地面と平行に保つフォーム



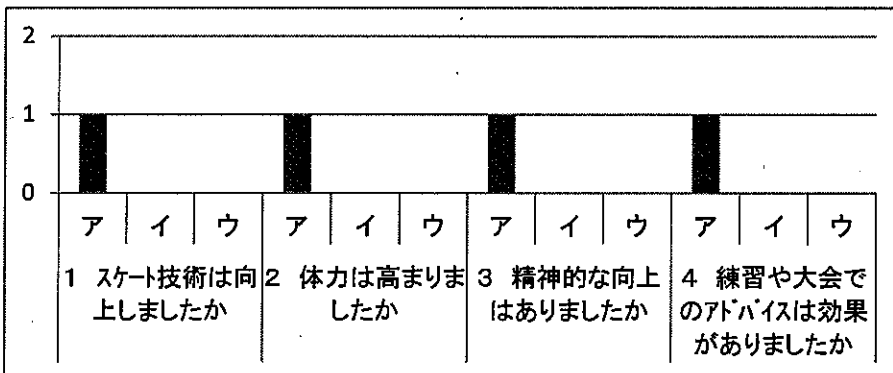
【コーナーマットの設置】
転倒時のけが防止



【スタート】
低姿勢からのスタート



【生徒の意識調査】
外部指導者の指導を受け何か変化がありましたか。



ア 思う
イ 思わない
ウ どちらとも言えない

【本校としての今後の取り組み】
全校スケート教室の実施と外部指導者の活用

学区内に郡山スケート場や磐梯熱海アイスアリーナのスポーツ施設があり、スケート競技を行う上での環境が整っている。この地域の財産であるスポーツ施設を有効利用し、今後も本校生徒の健全育成のために有効に活用を図っていききたい。スピードスケート競技については、競技人口の拡大のために、年間2回のスケート教室を実施したり、選手の競技力向上のために、外部指導者を活用したりするなどの取り組みを行っていききたい。

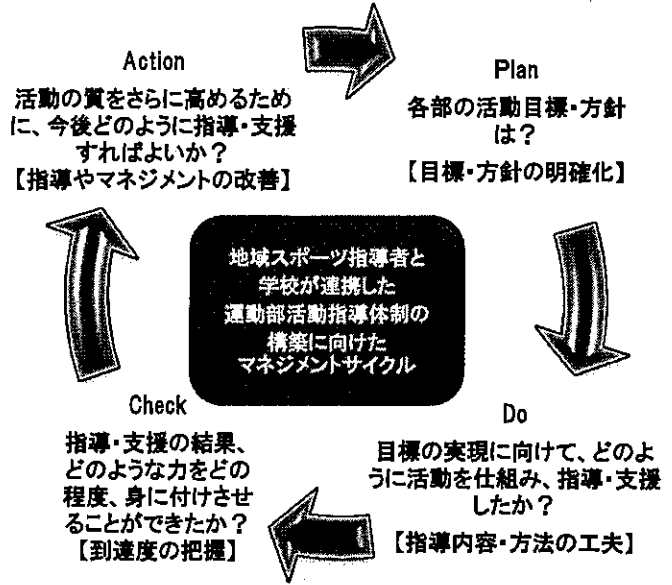
事業報告書(様式5)

東北大会、全国大会で1勝を挙げるための部活動の実践例

学校名	郡山市立熱海中学校
部活動名	特設アイスホッケー部
部員数	15人(男子15人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-984-3167
 学校Eメールアドレス:atami-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

- 生徒一人ひとりに個人目標を設定させ、どのように取り組むと目標を達成できるか考えさせた。
- チームとして、全国大会での1勝を目標に掲げ、チームとしてのきまりや方向性の統一を図った。
- 連盟の指導プログラムと連携し、小・中・高の一環プログラムを作成して指導に当たった。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

- 新潟遠征では、1年生で始めたばかりの生徒を除き、ディフェンディングゾーンの守りを確認したが、バックウォッチングが多くあり、マークを確認することができなかった。
- 東北大会では、全国大会でも成績を残せる青森県の1位と対戦して、失点をなくすディフェンスゾーンのスキル練習が生かされた。
- 全国大会では、地元群馬県と戦い、序盤リードを許したが、徐々に自分たちのペースで試合を展開できるようになり、逆転することができた。得点の取り方、ゴールキーパーのウィークポイントを指導した成果が出た。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

- 各個人のスキルアップ(スケーティング、バックハンドリング、状況判断、スタミナ)が優先課題と認識した。そのためには、氷上時間の確保と陸上でのスキル練習が必要であると考える。
- 指導者が、国体や各種東北大会等へ参加しなければならないため、指導者の不在も大きな影響がある。改善に向け指導者講習会を実施して、指導理念や指導方法を広く伝えなければならない。
- 夏場は、それぞれ部活動を抱えているため、チームとしては選抜チームと同様と考え、目的意識の共有と日常生活の改善も必要である。

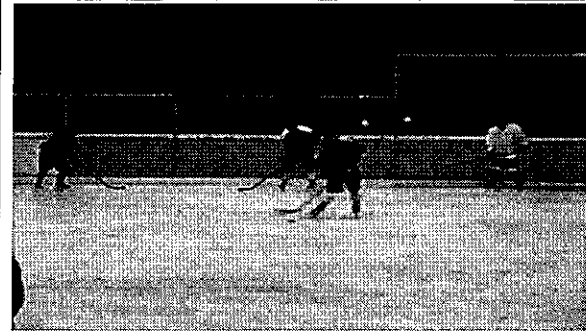
生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- 初心者から上級者まで幅広い選手層の集まりであるため、一人の指導者では難しい面を複数の指導者でカバーし、生徒の表情を確認しながら指導することができた。
- 個人スキルの向上を第一に考えた練習のため、疲労が残った状態の時には、接触プレーを極力省いた。
- 練習後半は、ストレッチングや整理運動、クーリングダウンを一人ひとりに意識させた。

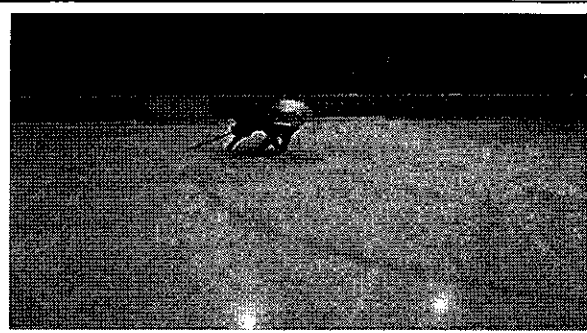
顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- 事前に個人の目標やチームの方向性を話し合い、指導プログラムを作成した。
- 日本アイスホッケー連盟のジュニア育成を模範とした、選手一人ひとりの心構えや講話を多く取り入れた。
- 国体や連盟練習などで、ジュニア世代のプログラム作りを現在でも行っている。

【バストレーニング】
パスの判断力を身につけるトレーニング



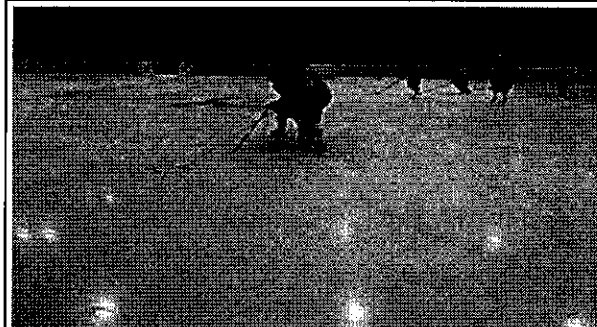
【バックコントロール練習】
バックプロテクションのトレーニング



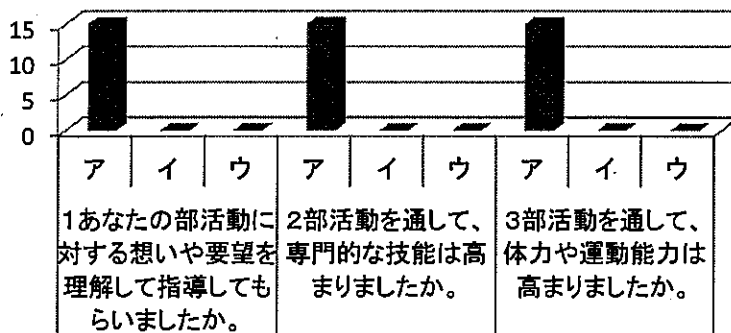
【シュート練習】
ゴールキーパーとの駆け引き練習



【1対1対人練習】
1対1の攻防



【生徒の意識調査】
外部指導者による部活動指導を受けて



ア 思う
イ 思わない
ウ どちらとも言えない

【全国大会終了後の指導の方向性】
選手層を厚くするため、個人のスキルアップとスタミナ面、メンタル面の強化を課題とした

(1)複数指導者の導入

- ・外部指導者も仕事の都合で、定期的に参加することが困難なため、複数の指導者をお願いして、指導に当たることが大切である。
- ・県内の指導者は、東北総体、国体、日本アイスホッケー連盟の指導も行っており、指導いただく時間が限られてしまう。そのため、指導力の高い他の指導者も必要である。

(2)限られた氷上練習の効率的な活用方法について

- ・互いの技能を高め合える環境作りと練習の場の設定
- ・レベルの高い選手との交流事業への積極的な参加(キッズキャンプや各種セレクションへ)

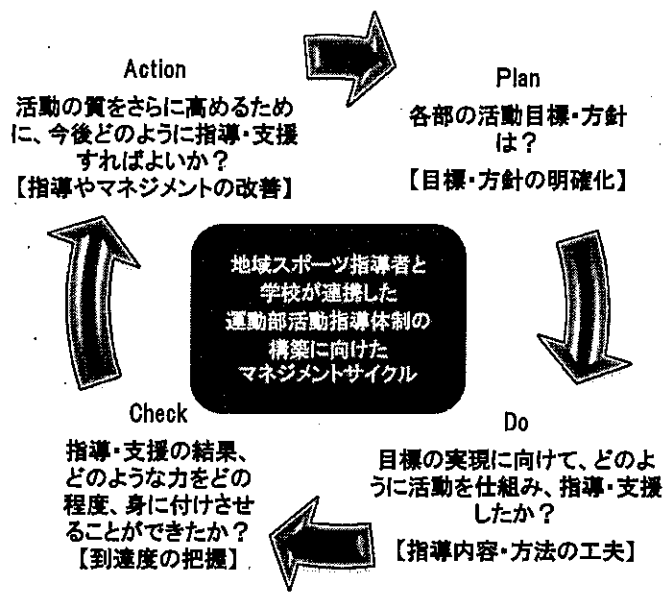
事業報告書(様式5)

地域の指導者との連携を図り、
充実した柔道の部活動を行った実践例

学校名	郡山市立守山中学校
部活動名	柔道部
部員数	10人(男子 8人、女子 2人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 024(955)3108
学校Eメールアドレス: T11-1@edu.city.koriyama.fukushima.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

- 毎日の部活動では、ケガの防止に大きな重点を置き、準備運動や基礎練習等を入念に行った。
- 寝技や立ち技では正しい姿勢で技に入る事を心掛けさせ、教師・指導者の目で見るだけではなく、鏡を使って生徒自身が正しい姿勢であることを常に意識させた。
- 立ち技では、止まった状態からの打ち込み→前後に移動しながらの打ち込み→マットを使った投げ込み→乱取りという順序を経て練習し、試合形式の練習にも慣れるように配慮した。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

- 立ち技において、姿勢良く技に入る事を意識させるようになり、技の効果が向上した。
- 試合などで、組み手をする際に、相手の攻撃を防いで自分の技をだしやすいような形を作ることができるようになった。
- 寝技などで、相手に攻撃された場合でも逃げられるようになり、相手を押さえることが多くなった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

- 寝技・立ち技に入る際に、もっと素早く入れるように指導していく。
- 生徒が部活動に集中できるよう、毎日の生活や授業の様子を把握し、適切にアドバイスを与える。
- 体力の向上を図るとともに、基礎・基本をしっかりと身に付けさせる。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- 準備運動や補強運動を、活動のたびに欠かさず行い、各関節の可動域を広げ、筋肉の柔軟性を高めるようにした。
- 立ち技で、相手を投げる「投げ込み」の練習では、マットを使って投げることにした。
- 前受け身、後受け身などの受け身がしっかりできる生徒だけを、立ち技の練習に参加させるようにし、受け身が不十分な生徒は、受け身が身に付くまで何度も練習させた。
- 相手のためにも、「投げ放つ」のではなく、「投げ切る」ことを強く意識させた。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- 指導に来た際に打合せを行い、その日の練習内容の確認を行いつつ、基本的な指導は顧問が行い、顧問と外部指導者とで生徒一人ひとりの指導を行った。
- 新たな寝技や立ち技の指導、効果的な技のかけ方などの指導を、外部指導者と協力して行った。
- 大会の様子を外部指導者に見てもらい、生徒一人ひとりにアドバイスを頂いた。

【タイトル：練習風景】
 説明文：外部指導者からの助言を聞きながら練習を行う。



【タイトル：練習風景】
 説明文：立ち技をの練習の様子。



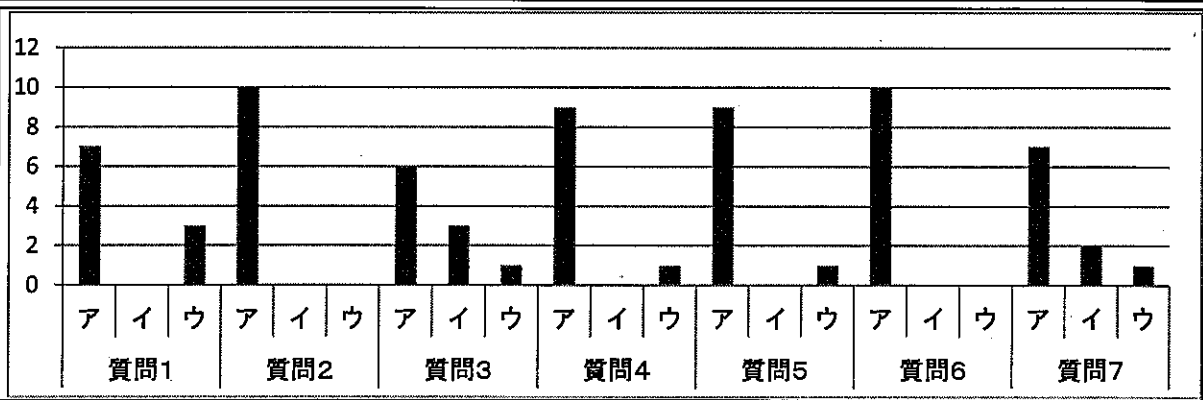
【タイトル：受け身】
 説明文：安全な正しい受け身を身につける。



【タイトル：鏡を使った乱取り】
 説明文：乱取りの際の姿勢を確認するため、鏡を使って行う。



【タイトル：アンケート結果】
 説明文：グラフからもわかるように、外部指導者による指導は効果的であった。



【タイトル：今後の取り組み】
 説明文：今年度の反省を生かして、来期の活躍につなげる。

- 経験豊富な外部指導者に指導していただいたことは、大変有意義なことであった。来年度は今年度の成果と反省を生かし、部活動の指導をしていきたい。
- 今後、練習が進んで行くと、練習内容が厳しくなったり、乱取りなどでも全力で取り組むようになるため、ケガが起こる可能性が高まってくると思われる。
 柔道という競技上ケガが付きものように考えられている風潮があるが、安全に配慮した練習を行いながら、生徒の力量を向上させていきたい。
- 柔道は「礼に始まり礼に終わる」と言われている。外部指導者からも礼法について講話や指導があった。顧問として毎年礼法についての指導をしているが、今後も礼法指導を続け、生徒に礼儀作法を身につけさせたい。

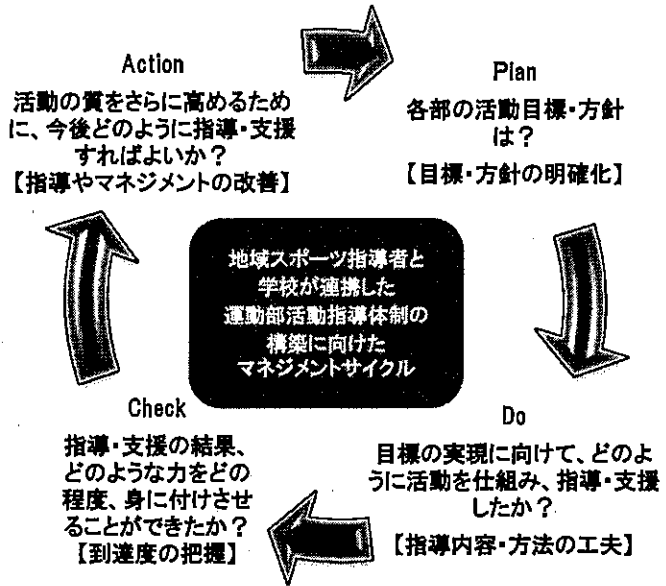
事業報告書(様式5)

地域の指導者との連携を図り、充実した柔道の部活動を行った実践例

学校名	郡山市立守山中学校
部活動名	柔道部
部員数	10人(男子 8人、女子 2人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 024(955)3108
学校Eメールアドレス: T11-1@edu.city.koriyama.fukushima.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】

- (1) 毎日の部活動では、ケガの防止に大きな重点を置き、準備運動や基礎練習等を入念に行った。
- (2) 寝技や立ち技では正しい姿勢で技に入る事を心掛けさせ、教師・指導者の目で見ただけではなく、鏡を使って生徒自身が正しい姿勢であることを常に意識させた。
- (3) 立ち技では、止まった状態からの打ち込み→前後に移動しながらの打ち込み→マットを使った投げ込み→乱取りという順序を経て練習し、試合形式の練習にも慣れるように配慮した。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】

- (1) 立ち技において、姿勢良く技に入る事を意識させるようになり、技の効果が向上した。
- (2) 試合などで、組み手をする際に、相手の攻撃を防いで自分の技をだしやすいような形を作ることができるようになった。
- (3) 寝技などで、相手に攻撃された場合でも逃げられるようになったり、相手を押さえることが多くなった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】

- (1) 寝技・立ち技に入る際に、もっと素早く入れるように指導していく。
- (2) 生徒が部活動に集中できるよう、毎日の生活や授業の様子を把握し、適切にアドバイスを与える。
- (3) 体力の向上を図るとともに、基礎・基本をしっかりと身に付けさせる。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1) 準備運動や補強運動を、活動のたびに欠かさず行い、各関節の可動域を広げ、筋肉の柔軟性を高めるようにした。
- (2) 立ち技で、相手を投げる「投げ込み」の練習では、マットを使って投げることにした。
- (3) 前受け身、後受け身などの受け身がしっかりできる生徒だけを、立ち技の練習に参加させるようにし、受け身が不十分な生徒は、受け身が身に付くまで何度も練習させた。
- (4) 相手のためにも、「投げ放つ」のではなく、「投げ切る」ことを強く意識させた。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1) 指導に来た際に打合せを行い、その日の練習内容の確認を行いつつ、基本的な指導は顧問が行い、顧問と外部指導者として生徒一人ひとりの指導を行った。
- (2) 新たな寝技や立ち技の指導、効果的な技のかけ方などの指導を、外部指導者と協力して行った。
- (3) 大会の様子を外部指導者に見てもらい、生徒一人ひとりにアドバイスを頂いた。

【タイトル：練習風景】
 説明文：外部指導者からの助言を聞きながら練習を行う。



【タイトル：練習風景】
 説明文：立ち技をの練習の様子。



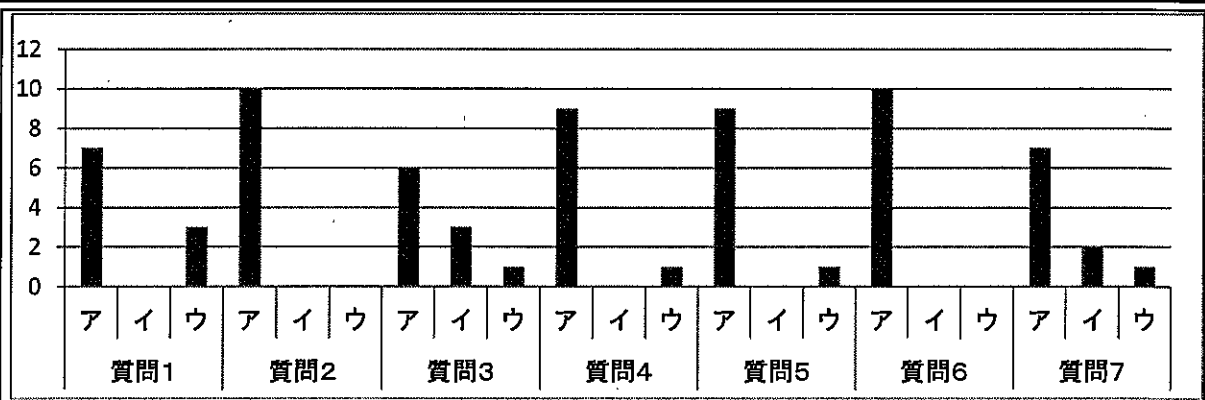
【タイトル：受け身】
 説明文：安全な正しい受け身を身につける。



【タイトル：鏡を使った乱取り】
 説明文：乱取りの際の姿勢を確認するため、鏡を使って行う。



【タイトル：アンケート結果】
 説明文：グラフからもわかるように、外部指導者による指導は効果的であった。



【タイトル：今後の取り組み】
 説明文：今年度の反省を生かして、来期の活躍につなげる。

- 経験豊富な外部指導者に指導していただいたことは、大変有意義なことであった。来年度は今年度の成果と反省を生かし、部活動の指導をしていきたい。
- 今後、練習が進んで行くと、練習内容が難しくなったり、乱取りなどでも全力で取り組むようになるため、ケガが起こる可能性が高まってくると思われる。
 柔道という競技上ケガが付きものように考えられている風潮があるが、安全に配慮した練習を行いながら、生徒の力量を向上させていきたい。
- 柔道は「礼に始まり礼に終わる」と言われている。外部指導者からも礼法について講話や指導があった。顧問として毎年礼法についての指導をしているが、今後も礼法指導を続け、生徒に礼儀作法を身につけさせたい。

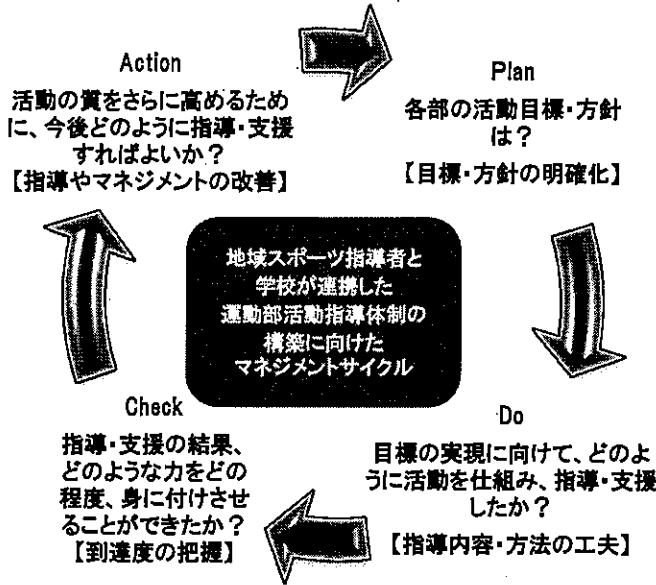
事業報告書(様式5)

地域の外部指導者との連携で教員の指導力と生徒の技術力を高めた実践例の工夫

学校名	郡山市立郡山第三中学校
部活動名	新体操部
部員数	17人(女子17人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-932-5316
学校Eメールアドレス:koriyama3-t@edu.city.koriyama.fukushima.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

(1) 個々の能力がちがうので、それぞれ具体的な目標をたてさせて、実現のために指導を行った。手具を使わない筋力や柔軟性、脚力を多く取り入れるような指導を助言した。

(2) 体育館が使用できない時は、自分たちの演技を振り返る時間を多くとった。また競技者として、ルールのしきみや申告書の書き方の学習を行った。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

(1) 地域の優秀な外部スポーツ人材を、より専門的な技術の高い新体操部の部活動の指導者として依頼することにより、教員の指導力や生徒の技能と体力、運動能力が向上し、運動に親しむ資質や能力もはぐくまれた。

(2) 指導経験が豊富な外部スポーツ人材の指導者と部活動顧問が連携・協力しながら、生徒の性格や行動性、技術に応じた望ましい指導のあり方を探り、お互いに行うことができた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

(1) きめ細かなご指導のもと、一人一人の技術・体力・心身面の向上につながり大会でも好成績をおさめたい。

(2) 課題として、上位大会につながる夏場に団体の練習指導が集中してしまった。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1) 生徒の健康状態を常に把握しながら、団体や個人の練習前に柔軟や基礎の練習の時間を多くとり、体づくりを行った。

(2) 団体では、アクロバットなどの危険を伴う技を行うことから、必ず新体操用のマットを敷いて、練習を行った。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1) 毎月部活動の予定表を渡して、練習メニューや課題や目標の設定を行った。

(2) 大会前には学校や学校外で団体や個人の細かい指導を行い、常に連絡を密にとり、連携して指導を行った。

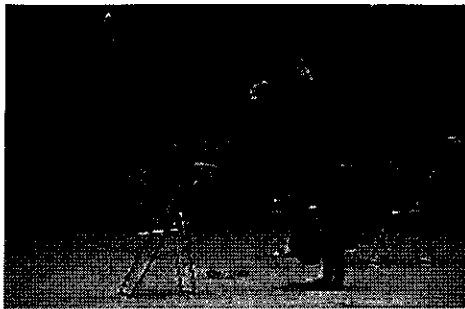
【部活動の様子①】
練習の様子



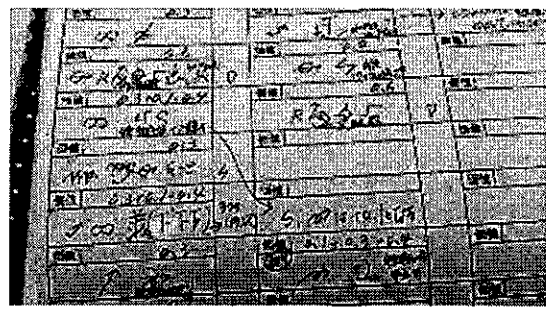
【部活動の様子②】
試技会の様子



【安全面について】
新体操のマットを敷いての柔軟の技



【ルールの学習】
自分の申告書の記号を理解して練習する



【アンケートより】
地域スポーツ人材の活用実践支援事業アンケート集計結果から部員と顧問の成果について

地域スポーツ人材の活用実践支援事業のアンケートの集計結果について

- ・運動に対する関心や技能・体力の高まり……全員高まった。
- ・指導により部活動が活性化がされた……全員活性化された。

顧問も生徒の専門的な技能や体力、運動能力は4月から比べて向上し、部活動の活性化につながった。

また外部指導者と連携して指導することで、様々な専門的な指導技術を習得することができ、毎日の練習の指導に生かすことができた。

【本事業を行って】
外部指導者を活用しての成果と課題

- 外部指導者によるより専門的なきめ細かい指導によりほとんどの生徒が年度初めに立てた目標を達成することができた。また一人ひとりの能力に合わせたメニューを考えていただき、結果として上位大会にまで進めることができた。
- 課題として、上位大会につながる夏場に団体練習を集中させてしまった。そのために練習日以外に個人の演技の構成や指導をお願いしてしまうこともあった。大変ではありますが、指導回数を増やしていただけたらありがたいと思います。
- 今回は福島県地域スポーツ人材活用実践事業の機会をいただき、ありがとうございました。新体操は、専門的なスポーツで、毎年ルールが変わるため、専門的な指導者と連携して部活動を行うことができ、助かりました。また今年からはボールに手具が変わり、基礎的な練習も多く教えていただきました。ぜひ来年度もこのような素晴らしい活用事業を活用させていただけたらと思います。

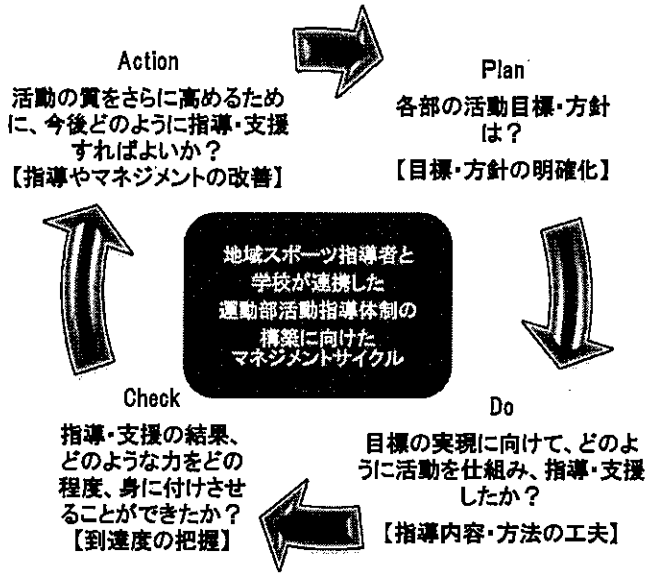
事業報告書(様式5)

剣道を通し、日本の精神文化を受け継ぐとともに、礼法、所作を正しく学ぶための部活動

学校名	郡山市立郡山第七中学校
部活動名	剣道部
部員数	24人(男子15人、女子9人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 024-951-8200
学校Eメールアドレス:



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

(1) 中学校から剣道を始めた生徒がほとんどであり、武道の心得や取り組む姿勢、足裁きなどの基本の徹底を図った。
 (2) 「心技体」の心を育てるために、自分、相手を尊重しあえるような言葉かけを全員で行った。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

(1) 互いに尊重しあえる言葉かけを部に関わる全員が行っていることもあり、休部、退部する生徒が今年もゼロである。
 (2) 昇級 昇段審査を受験する者は、100%で、部活動に対しての意欲は高い。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

(1) 日頃の社会経験等で大きな声をほとんど出したことがない。「気」の充実の意識を考えさせる。
 (2) 集団としての団結力を意識をさせる。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1) 武道では、集中力を身につけることが、怪我防止につながるので、活動時間、内容を詳細に決めて行っている。
 (2) 週に一度は休養日を入れるとともに、生徒一人ひとりの健康の状態を把握するように努めている。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1) 練習メニューを生徒の実態に合わせて決めている。
 (2) 練習での役割分担は、相互に話し合ってメイン、サブを決めている。

【足の裁き】
武道の基本である足裁きを行っている。



【打ち込みの指導】
外部指導者（齋藤先生）による実演

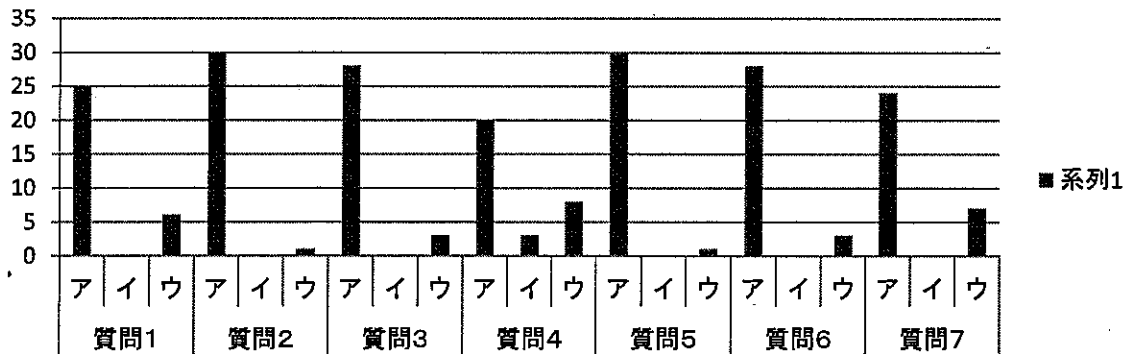


【練習計画 メニュー】
1週間のおもな予定 週1日は休みを入れている

体育館②	11:00~14:00
体育館	13:30~15:30
体育館③	14:00~17:00
体育館	13:30~15:30筋トレ 15:30~17:15体育館
体育館	15:30~17:15
インターロッキング	15:30~16:30外肩+素振り+筋トレ
体育館①	8:00~11:00
休み	休み

【剣道ノート】
学んだことを指導者が目を通すことでコミュニケーションを図る

【生徒アンケート】
外部指導者を通して学ぶべき事が多いという生徒（ア項目）がほとんどであった。



【部活方針】

地域スポーツ人材の活用実戦支援事業を通し、競技における専門性の高い指導者を招き、技術指導はもとより、精神修養など多岐にわたり指導を受けることは、生徒にとって大きく役立っていると感じた。部活動顧問としても日々の活動では見えない成長や課題が、指導員の第三者的な立場で見ていただくと、足りない指導、補うべきものがわかり、勉強になった。
部活の指導方針も、顧問1人で決めるのではなく、いろいろな方が関わることで、より良いものになることを実感できた。

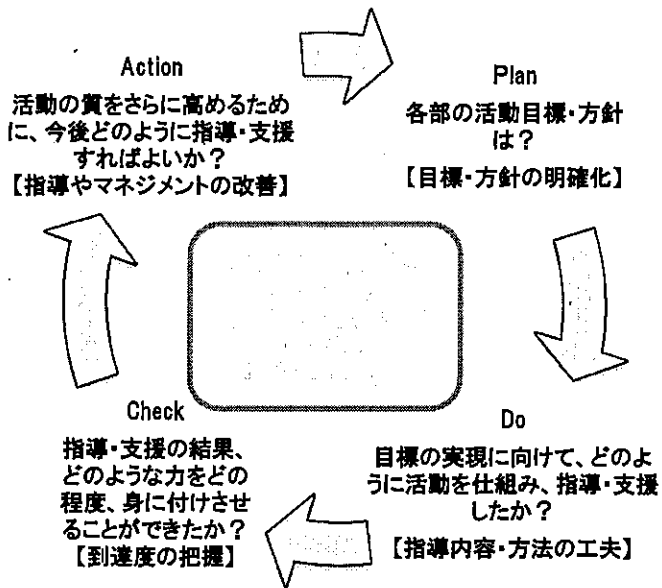
事業報告書(様式5)

地域の指導者による協力で、教員の指導の支援と生徒の技術力向上を目指した実践例

学校名	天栄村立天栄中学校
部活動名	テニス部
部員数	23人(男子16人、女子7人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号：0248-83-2222
Eメールアドレス： school@tennei-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？ 【指導内容・方法の工夫】

- 生徒の体力・技術面を部活顧問と指導者で話し合い、生徒の実態に合った練習計画を組み立て、実施することができた。
- 教員の指導が不十分な専門的な技術面のアドバイスをお願いし、生徒の技術力の向上に役立てる。
- 指導人数や生徒の技術レベルの実態に合わせて、技術指導を実施していただいた。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？ 【到達度の把握】

- 専門的な指導者から技術面のアドバイスを受けることにより、生徒の技術向上に生かすことができた。
- 今年度、女子団体戦において県春季中学生テニス選手権大会を経て東北大会に出場することができた。
- 生徒一人一人の個々の技術力が向上し、各種大会で少しずつ成果を上げてきている。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？ 【指導やマネジメントの改善】

- 連絡体制をより密にして、生徒の技術面の現状を把握し、それに見合った技術指導を行っていく。
- 個別指導時間をしっかり確保し、個々の技術面の向上を全体の向上へと結びつけていく。
- 精神面の向上を指導項目の中に設け、強い精神力をつけるためのアドバイスなども加えていく。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- 生徒の技術面の実態を十分に踏まえた上、無理のない練習計画を作成した。
- 屋外での活動においては、熱中症対策を十分に行い、蜂対策では点検を十分に行うなど配慮した。
- 練習形態には十分配慮し、練習中の事故が起きないように監視を行うとともに、無理のない練習メニューを実施した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1) 定期的に練習内容・各種大会結果についての話し合いを持ち、情報交換を密に行った。
- (2) 技術面の指導は外部指導者を中心に、精神面・生活指導を部活動顧問が中心に行い、役割分担を明確にした。
- (3) 外部指導者を通して、地域指導者を増員してもらうように働きかけを行った。

外部指導者による個別指導
個々にアドバイスをしながら、技術指導を行っている。

東北テニス選手権大会においては、
女子が東北大会に出場し、健闘することができた。

蜂対策（蜂の巣の駆除）
夏場は蜂が巣を作りやすい環境にあるため早期に駆除している。

的当て練習
狙った的に確実に当てることで試合でのサーブの確率を上げる。

成果と課題

1 外部指導者の協力によって、年間を通してテニスに対する意欲の向上と技術の向上に結びつけることができた。6月の県春季中学生テニス選手権では、女子団体が3位となって東北大会出場を果たすことができた。9月の県秋季中学生テニス選手権大会では、男女とも個人戦・団体戦で健闘し、東北大会には出場できなかったが一定の成果を上げることができた。

今後も外部指導者の支援のもと、より一層の技術力の向上を図っていきたい。

2 今後の課題としてあげられるのは、精神面の強化と、戦術面の強化である。テニスの試合ではメンタル面も非常に重要な要素である。今年の試合では試合の進め方を十分理解できていなかったために、接戦となった試合を落としたりすることがあったので、今後は外部指導者のもと、精神面・戦術面の強化を図っていく対策を考えていきたい。

今後の活動について

今年度の活動の反省を振り返り、来年度の見通しを計画する。

1 外部指導者や村テニス協会の協力をいただいて、今後も現在の指導体制を継続していきたい。来年度以降は、東北大会や全国大会が県外開催となり、これまで以上の成績をあげないと上位大会に出場できないため、より努力が必要である。また、村テニス協会との連携を図りながら、テニス部員確保にも努めていきたい。

2 春から秋までは村営のテニスコートを活用し、冬期間は室内練習場を活用することによって、年間を通して練習場が確保できるため、さらに外部指導者の協力をいただいて、生徒たちの部活動の充実に努めていきたい。

3 本校は学校の都合上、短期間で顧問が変わる場合が多いため、専門的な技術指導ができる教員が少ない。よって、来年度以降も、技術指導の観点からは外部指導者の協力が必要である。

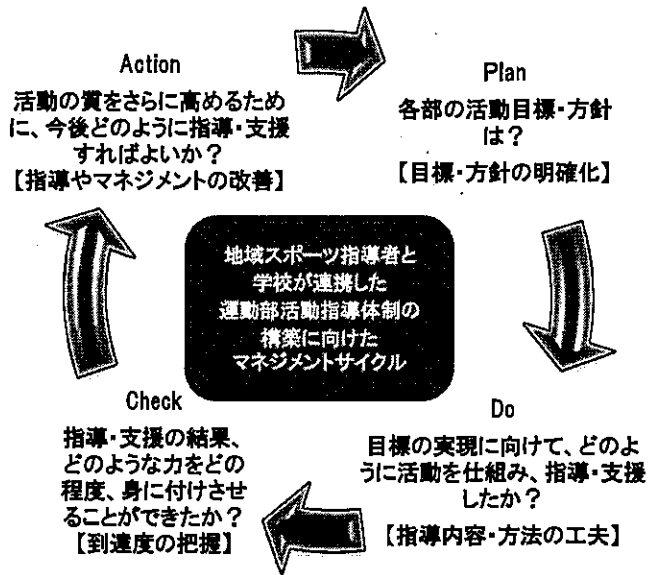
事業報告書(様式5)

地域との連携による「歓声のある部活動」を目指した実践例

学校名	石川町立石川中学校
部活動名	柔道
部員数	8

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0247-26-2315
学校Eメールアドレス:school@ishikawa-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

(1)外部コーチから柔道の練習等を通して会得した伝統文化を尊重する心を話していただき、武道の礼儀を重んじ、技術指導はもとより精神面での指導も大切に行っていく。

(2)先輩は後輩に対し礼儀や柔道の基礎を優しく教え、後輩は先輩に感謝の気持ちを礼儀で返し、またチームの応援を積極的に行えるよう支援し良好な人間関係を育成する。

(3)外部指導者と連携を図りながら生徒の実態・技能に応じた目標を設定させ、きめ細やかな指導・支援を行い、一人一人が成就感・達成感を味わえるようにする。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

(1)「日常の五心」「柔道の本義」を常に心がけ、技等の技術の向上はもとより、武道の精神や礼儀を身につけ、心の成長を図ることができた。

(2)部員同士互いに声をかけたり励ますなど先輩・後輩として節度がある中にも良好な人間関係を築くことができた。

(3)外部指導者の適切な技術指導により、着実に技術の向上を図ることができ、個人戦で全国大会1名、東北大会大会3名の出場を果たし、自分の力を存分に発揮し、達成感を味わうことができた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

(1)外部指導者との連携により、生徒の技能の向上及び心の成長を図ることができた。今後、さらに一人一人に応じたより高い目標を持たせミーティングの機会を増やし、生徒自らが練習方法の工夫を行えるよう日々の練習に取り組みせていきたい。

(2)今回の外部指導者との連携を機に、さらに地域の柔道団体の協力を得て、技能の向上を図っていきたい。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1)練習開始前に健康状態を把握するとともに、様子がおかしいときはすぐに声をかけ、相談できる体制をとった。

(2)外部指導者と練習内容を確認し、初心者に対しては基礎体力作りや受身等を確実に身につけさせ、段階を追って指導を行った。

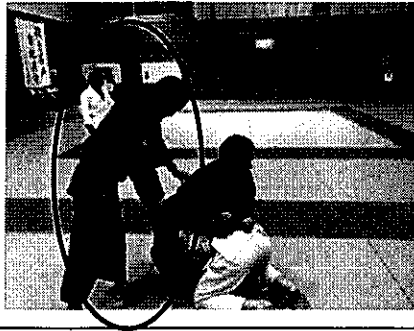
(3)顧問を2人体制とし、練習時間には必ず顧問教師1名が立ち会い健康・安全面の確保を行った。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

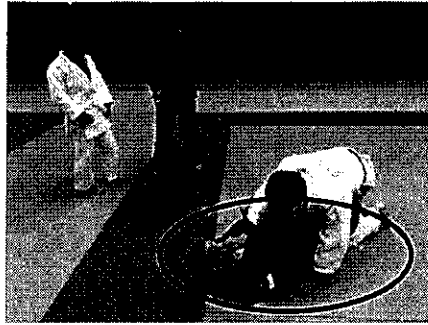
(1)昨年度に引き続きの依頼であったため顧問教師と外部指導者との連携が図りやすくなり、指導日に常に打ち合わせを行い、学校生活における状況について情報提供を行い、同一歩調で指導にあたった。

(2)外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手し、外部指導者が参加できない日の練習メニューや安全面での注意点を確認し顧問教師も助言を行った。

【活気のある部活動風景】
お互いに声をかけ意欲的な雰囲気なかで練習を行っている。



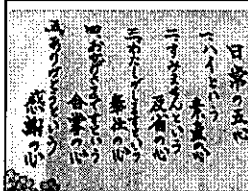
【外部指導者による適切な技術指導】
外部コーチ自ら技をかけられポイントをわかりやすく指導し範を示している。



【安全な活動のために】
顧問教師が指導者から具体的に技をかける際の注意点を聞き、怪我の防止に役立っている。



【武道の精神の育成のために】
礼儀、感謝など柔道という修行を通して育成を図っている。



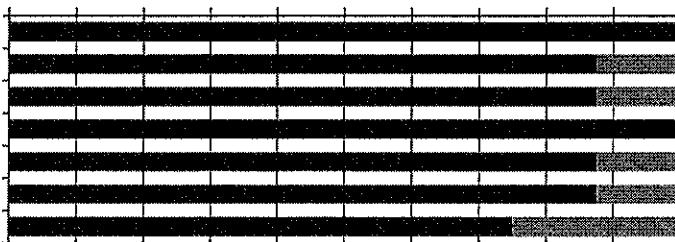
柔道の本質と修行の目的
柔道は心身の力を養い、有効に
使用する道である。その修行
は、攻撃防衛の練習に於いて
身体精神を鍛錬修業し、所重
の真髄を心得ることにあり
つ。
この道に於いては、
完成し世を補益するが、
柔道修行の究極の目的である。

【生徒のアンケート結果から】
部活動に対するニーズを把握し、技術指導ばかりなく、様々な点で適切な指導がなされていることがわかる。

■ア 思う ■イ 思わない ■ウ どちらとも言えない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

- 1 部活動に対する思いや要望を理解している。
- 2 安全に配慮して指導した。
- 3 専門的な技能は高まった。
- 4 体力や運動能力は高まった。
- 5 外部指導者の指導力は優れているか。
- 6 言葉遣いや態度は適切か。
- 7 目標や方針、計画が具体的に示されていた。



【地域のスポーツ団体との連携を深めて】
各種スポーツ団体との協体制を築き、地域をあげての活動を目指していく。

本校は、教員自らが柔道の経験者がいない中での部活動設置であり、外部コーチを招き継続して指導を受けている。今回の地域人材スポーツ活用支援事業は、大変効果的な事業であった。外部コーチと顧問の連携もしっかり取れ、生徒の柔道の技能の向上、武道を重んじる心など昨年以上に多方面で成果が表れた。今後も、柔道団体の協力を得ながら、中学校での部活動が終了後も生涯にわたって柔道に関わっていけるよう柔道の奥深さに気付かせたい。また、他の部活動においても学校だけでは不足する人材を地域の協力を得ながら連携して取り組み、地域を挙げて生徒の心身の健やかな成長につなげていきたい。

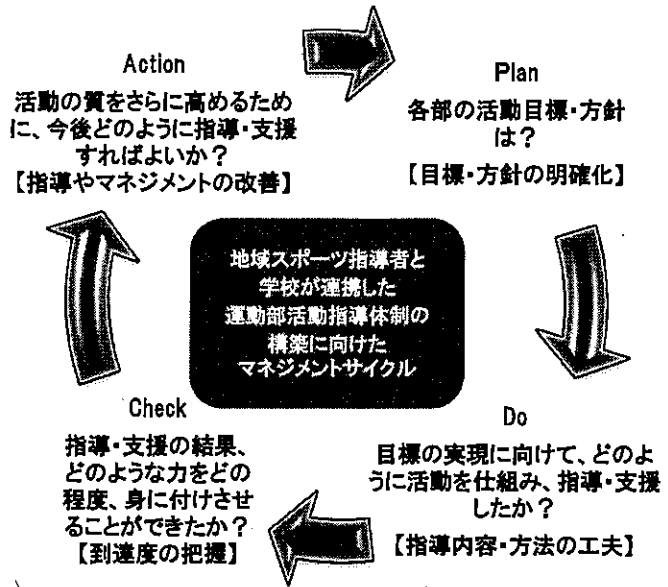
事業報告書(様式5)

地域の指導者を活用し、生徒の体力や技能の向上を図り、意欲的な運動部活動を目指した実践例

学校名	古殿町立古殿中学校
部活動名	柔道部
部員数	9人(男子7人、女子2人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0247-53-3135
学校Eメールアドレス: school@furudono-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

(1)スポーツを行う基礎体力の向上を図るため、走り込みや筋力トレーニング等を毎日継続的に行う。
 (2)技能の向上を図るため、外部指導者から立ち技・寝技のポイントの技術指導をしてもらい、毎日反復練習を行う。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

(1)駅伝大会等にむけて練習に参加したり、大会にも選手として出場する生徒が多くなり、持久力や筋力も向上して、新体力テストの結果もよくなっている。
 (2)技術指導を行ってもらったことにより、立ち技や寝技の入り方が早くなり、新しい技の習得も早くなった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

(1)新しい効果的なメニューの開発と実践により、体力の向上を図る必要がある。
 (2)生徒一人一人の課題や部活動全体の課題を細かく把握して、時期ごとに重点的に指導する。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1)生徒の疲労や体力などを考慮して、練習メニューの作成を行い、練習休みの日を設定して、ケガや熱中症などの防止を図った。
 (2)道場が狭いため、活動している人数が多いときは、打ち込みや乱取りなどでぶつかってケガをしないようにグループをわけて、活動している組を制限し、さらにやっていない生徒にはサポートに入るようにした。
 (3)生徒一人一人の技能の程度に応じて、個々の練習メニューを作成した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1)練習後に、情報交換の場をもち、練習メニューや生徒の状況の確認を行った。
 (2)顧問は日常の練習メニューの作成や技術指導の反復練習の実施とポイントの確認、外部指導者は専門的な技術指導や試合に臨む心構えの指導を行った。

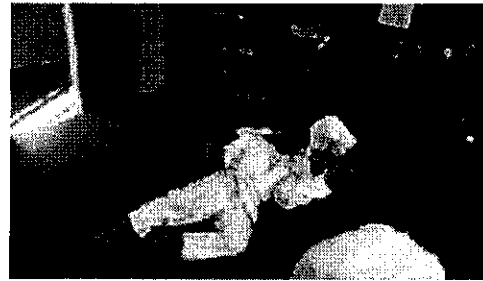
立ち技の指導
立ち技への入り方、技のポイントの指導

部活動の様子がわかる写真①



寝技の指導
寝技のポイントの確認

部活動の様子がわかる写真②



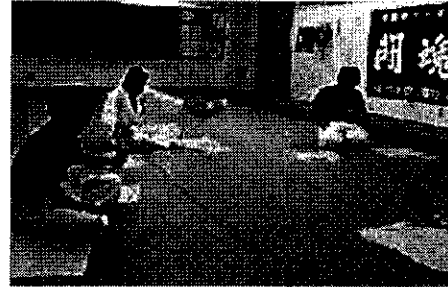
乱取りのスペースの確保
ぶつかって怪我することのないように、間に人が入る

安全確保のために配慮している場面の写真等

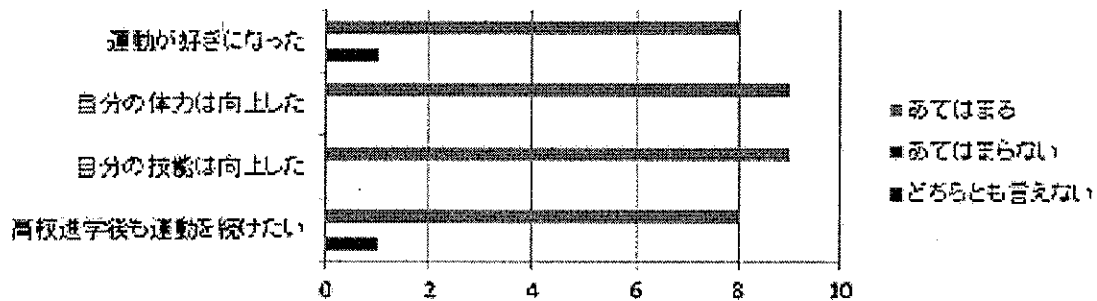


新聞紙を活用した握力の強化
握力の強化のために、新聞紙を丸める

工夫した用具や資料の写真等



生徒の感想と自己評価から見る指導の成果
自分の技能や体力の向上を実感している



生涯を通して運動に親しむ資質や能力の育成
柔道以外のスポーツにも親しめるような体力や技能の育成

今後は、柔道に限らず、あらゆる運動で親しめるように、体力の向上や技能の向上を計画的・系統的に行う。
そのために、1年間を通して実践するメニューと期間を決めて、重点的に実践するメニューを作成し、練習を行う。
また、柔道以外の種目にも挑戦し、それぞれのスポーツの良さを体験し、柔道の練習に活かしていく。

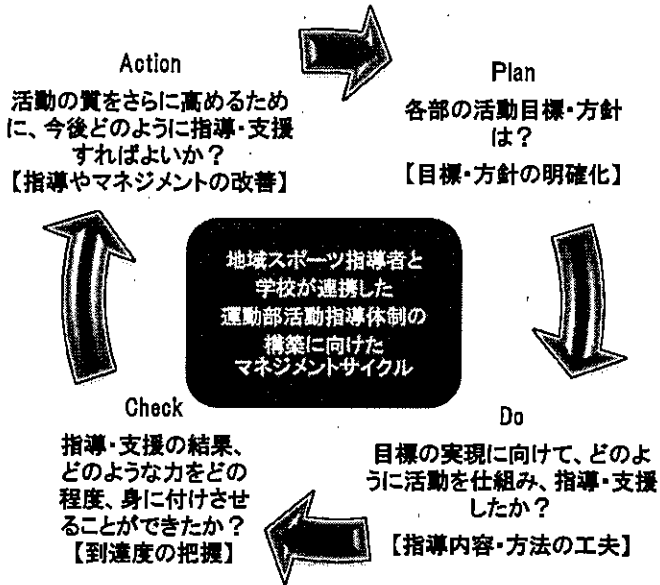
事業報告書(様式5)

地域人材を活用した部活動の運営

学校名	田村市立常葉中学校
部活動名	卓球部
部員数	21人(男子11人、女子10人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0247-77-2330
学校Eメールアドレス:school@tokiwa-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

- 顧問が外部コーチと練習方法等に付いて、綿密に打合せを行った。
- 技術力向上のために自分の目標を週別・月別で設定し、課題解決に向けた練習を行った。
- (2)の課題を解決するために、各自が外部指導者から個に応じた具体的な指導をしていただいた。
- 練習後のミーティングでは、外部コーチより一人ひとりに技術的なアドバイスしていただいた。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

- 具体的に自分の課題を見つけ、弱点を改善して試合に臨んだ。
- 技術を向上するだけでなく、互いに高め合ったり感謝の気持ちを持ったりするなど、スポーツマン精神が身に付いた。
- 練習会場や用具等を大切に使う等の物を大切に使う姿勢が定着してきた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

- 指導者に依存しすぎる傾向がやや見られる。生徒が自分で考え、自分で工夫し練習する姿勢を確立させたい。
- より高度な技術を習得させるために、さらに外部指導者が行う練習内容を工夫・改善する。
- 高い目的意識を持たせ、外部指導者との話し合いの場面を多く設定する。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- 練習前、卓球台等の安全確認をした。
- 生徒の健康状態の確認をする。また、準備運動やストレッチを十分に行い、ケガの防止に努めた。
- 週休日等での練習では、登下校時交通事故等に遭わないよう十分に指導した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- 顧問が外部指導者に生徒の実態を詳細に伝え、練習メニューを決定した。
- 通常の練習に加え、大会や練習試合前には、特に実践的な練習を行った。
- 練習終了後や電話で情報交換を綿密に行った。

支部中学校総合体育大会
見事、男子団体が京甲大会へ出場を決め、ベスト8に輝いた



支部中体連総合体育大会
場面、場面にに応じて適切なアドバイスを受けた



安全面の配慮
卓球台の移動には、特に注意している

安全確保のために配慮している場面の写真等



部活動ノート
部活動終了後に、部活動ノートを付けている

試合結果表	試合結果表																																				
<table border="1"> <tr><td>対戦相手</td><td></td></tr> <tr><td>試合日時</td><td></td></tr> <tr><td>試合場所</td><td></td></tr> <tr><td>試合結果</td><td></td></tr> <tr><td>試合内容</td><td></td></tr> <tr><td>選手名</td><td></td></tr> <tr><td>得点</td><td></td></tr> <tr><td>失点</td><td></td></tr> <tr><td>その他の事項</td><td></td></tr> </table>	対戦相手		試合日時		試合場所		試合結果		試合内容		選手名		得点		失点		その他の事項		<table border="1"> <tr><td>対戦相手</td><td></td></tr> <tr><td>試合日時</td><td></td></tr> <tr><td>試合場所</td><td></td></tr> <tr><td>試合結果</td><td></td></tr> <tr><td>試合内容</td><td></td></tr> <tr><td>選手名</td><td></td></tr> <tr><td>得点</td><td></td></tr> <tr><td>失点</td><td></td></tr> <tr><td>その他の事項</td><td></td></tr> </table>	対戦相手		試合日時		試合場所		試合結果		試合内容		選手名		得点		失点		その他の事項	
対戦相手																																					
試合日時																																					
試合場所																																					
試合結果																																					
試合内容																																					
選手名																																					
得点																																					
失点																																					
その他の事項																																					
対戦相手																																					
試合日時																																					
試合場所																																					
試合結果																																					
試合内容																																					
選手名																																					
得点																																					
失点																																					
その他の事項																																					

生徒の意識調査
8月と11月のアンケートの結果から

アンケート、「ア思う」数値の変化

	8月	12月
1 質問2 外部指導者や顧問は、活動に当たって安全に配慮して指導していたか。	15名	19名 (+4)
2 質問3 部活動をとおして、専門的な技能は高まったか。	17名	19名 (+2)
4 質問5 部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れているか。	16名	19名 (+3)
5 質問6 部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に指示されていたか。	16名	18名 (+2)

- 質問1～質問7すべての項目で8月と12月を比較して「ア思う」の人数が増えている。特に、質問2、5、6では、日頃の練習で、外部指導者や顧問が連携を図りながら指導に当たってことが生徒に評価された。
- 質問3では、外部指導者から、専門的な指導を受け、生徒は自分の技術が向上したことを実感している。

外部指導者の活用
外部指導者により、生徒の意識に変化が見られた。

- 生徒は、外部指導者から、より高度な技術や戦術等を直接学ぶことにより、技術が向上した。
- 「勝つ喜び」を味わうことにより、自分自身に自信が持てるようになり、何事にも前向きになってきた。
- 本校の外部指導者は、地域住民でもありまた長年本校卓球部の指導に携わり、生徒からの信頼も厚い。
- 顧問は、外部指導者より指導法や技術面のアドバイスを受けることで、自分の指導に自信がもてるようになっている。
- 本校の外部指導者は技術面の指導だけでなく精神的な面まで指導している。そのため、社会性や道徳性も徐々に身に付いてきた。

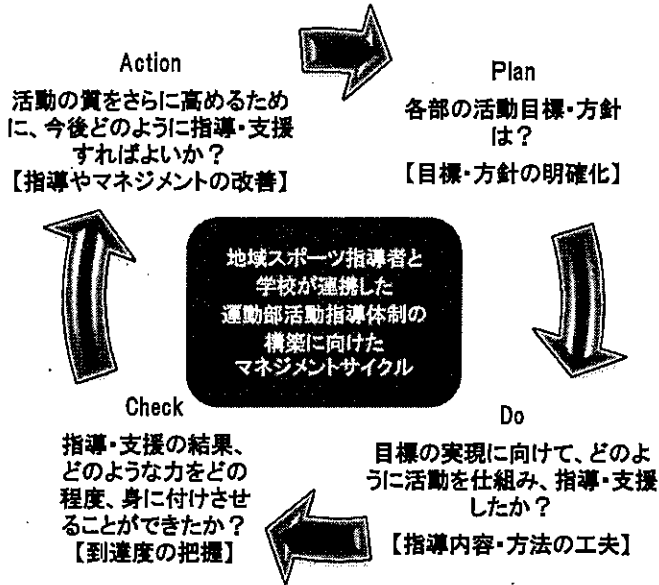
事業報告書(様式5)

地域の指導者により、部活動(柔道)へ取り組む姿勢を高めた事例

学校名	田村市立船引中学校
部活動名	柔道部
部員数	7人(男子 7人、女子 0人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:	0247-82-0102
学校Eメールアドレス:	school@funehiki-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】

(1)昨年度から引き続き指導していただいている、経験が豊富で専門的な指導に優れている地域の外部スポーツ人材に、部活動指導への協力を仰ぎ、柔道部員に柔道の技能や体力の向上を図るとともに、柔道を通して礼儀作法を身につけさせる。
 (2)顧問と外部スポーツ人材が連携・協力しながら、柔道部員一人一人の体力や技能に応じた練習を計画し、柔道部員一人一人の到達目標が達成できるように指導する。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】

(1)柔道に対する意欲、技能の高まりから中体連などの大会で上位大会に出場。
 外部スポーツ人材の専門的な指導により、柔道に取り組む姿勢が意欲的になるとともに、技能や体力も向上してきている。中体連などでは地区大会を上位の成績で通過し、県中大会・県大会に出場する生徒が多くなった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】

(1)外部スポーツ人材の協力を得た部活動の推進。
 ① 柔道の経験のある指導者を、柔道協会の協力を得て依頼していく。
 ② 柔道の基本である、受身を反復練習し、ケガ防止のための配慮を徹底させる。
 (2)継続的な柔道指導を行うための工夫
 ① 外部スポーツ人材から習得した内容を、教師が指導する場面でも継続して指導する。
 ② 柔道の歴史や礼法、柔道の基本技のイラストや写真を格技場に掲示し、相手を尊重して練習や試合を行う姿勢を養う。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1)「ケガをさせない・ケガをしない。」「受身ができないうちは技を教えない。」「無理な体勢から強引に技をかけない。」「自分の能力に応じた練習をする。」を徹底させている。
 (2)立ち技や寝技の打込み・乱取りを行う際は、ケガの恐れが高いため、必ず顧問や外部指導者がいるときに行うように徹底させている。
 (3)立ち技の練習では、必要に応じてマットを使って投げ込みをしている。
 (4)練習前に体調を確認し、体調不良の生徒は、練習を自粛させたり、軽い運動程度で終わらせるようにしている。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1)柔道部の指導のために
 ① 校内の部活動顧問会のメンバーは、管理職・部活動正顧問・養護教諭とする。
 ② 柔道部の部活動保護者会を組織し、部活動運営への協力を仰ぐ。
 (2)外部スポーツ人材と部活動顧問教師との指導体制の確認
 ① 外部指導者と顧問教師、管理職で、部活動の指導のあり方について確認する。

【寝技の指導】
相手を制するための技の効果的なポイントを指導する。



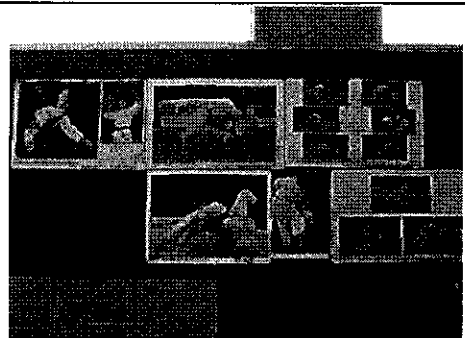
【立ち技の稽古】
技をかけるタイミングや技の入り方を指導する。



【マットを使った投げ込み】
ケガ防止のために、マットを使って投げ込みの練習をする。

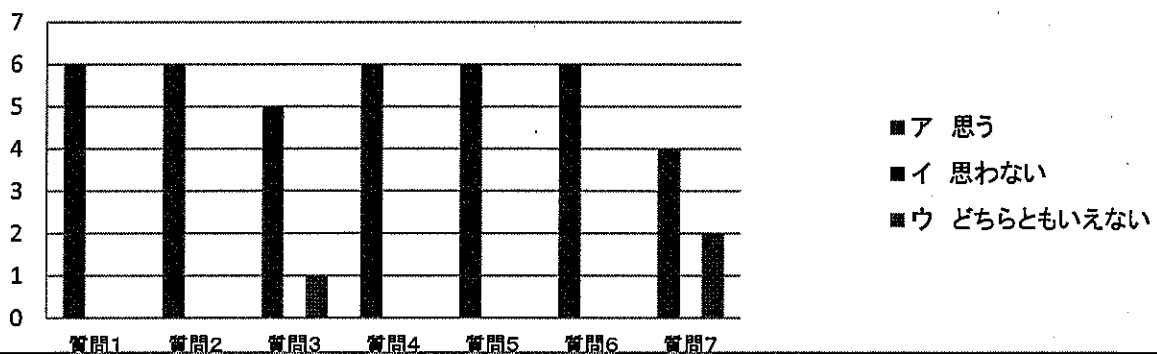


【柔道場の環境づくり】
技の解説や入り方に関する資料を掲示する。



【柔道部員へのアンケート結果】

外部指導者の指導を信頼し、自己の技能の高まりや体力の向上を実感している。



【今後の柔道部の活動】

外部指導者の継続的な関わりと指導内容の徹底

(1)事業終了後の活動

- ① 今年度の事業が終了した後も、外部指導者から指導を受けた内容を実践しようと練習に励んでいる。
- ② 冬季間の練習では、筋肉トレーニングや柔軟性を向上させる練習等を主な活動にしている。
- ③ 事業は終了したが、外部指導者がたまに顔を出してくれるので、気になっていること、指導者から見て気になることを話し合っているため、生徒も顧問も指導者も自己の振り返りができる。

(2)今後の活動方針

- ① 27年度は、外部指導者に指導されたことを繰り返し練習し、身につけていく。
- ② 今後は、外部指導者と協議をして決めた練習方法を継続していく。

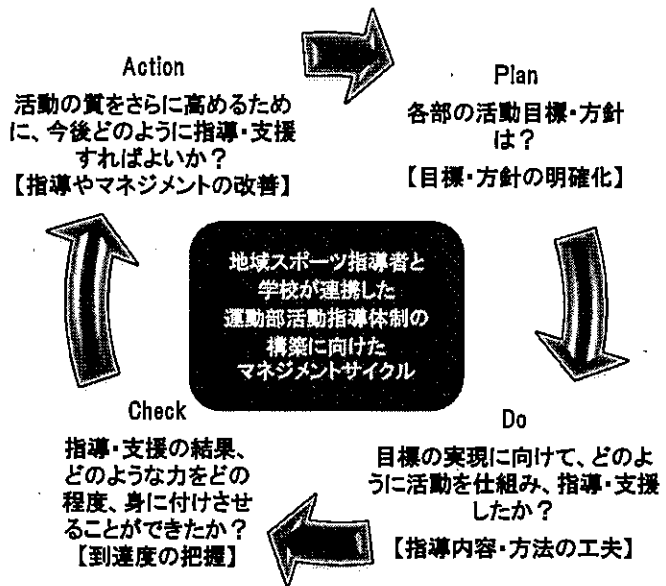
事業報告書(様式5)

外部講師を招いて、取り組む姿勢を身に付けと基本的な技術の習得を目指した部活動の実践例

学校名	三春町立三春中学校
部活動名	剣道部
部員数	19人(男子13人、女子6人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0247-62-2181
学校Eメールアドレス:school@miharu-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】
 (1) 精神的に弱い生徒が多く、少しの擦り傷でも気持ちが萎えてしまう生徒がいるため、我慢をしたり、目標へ向かって努力したりする心や技術を磨き、試合で勝利を目指す向上心を育てるよう、外部講師との連携を密にして礼儀作法面等重視して指導した。
 (2) 初心者へ配慮をしながら、竹刀ふり、足さばき、基本の打突等の基礎的な技術を身につけるよう外部講師へのメニューづくりを依頼し、実践した。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】
 (1) あいさつ、返事が大きな声でできるようになってきた。また、道場の使い方や部室の整理整頓など基本的な取り組みの姿勢を身に付けさせることができた。
 (2) 上級者が初心者に指導できる場を設定して、教え合いながら練習に取り組めるよう配慮したため、部員が同じ目標に向かって練習に取り組み、基礎的な技術の向上させることができた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】
 (1) 自分自身で考えて技術の向上を図るため、練習や試合を振り返り、感じた課題や成果を記述した部日誌を外部講師と顧問が共有できるようにしたい。このことにより、指導・支援の改善に活かしていきたい。
 (2) 外部講師と顧問とが、意図的に教育相談を行い、一人一人に向上心の育成と技術の向上の課題を助言する機会を持つ必要がある。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと
 (1) 定期的に施設・用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態把握に努めた。
 (2) AEDの設置場所の周知を行い、緊急時の対応へ備えた。
 (3) 校内に体罰・いじめ・セクハラ等の相談窓口を複数設置し、部員や保護者からの訴えを把握する体制を整備した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと
 (1) 生徒情報、指導方針、指導内容について、練習の前に短くとも時間をとるようにして連携した。時間の取れない場合は、前もって電話により打ち合わせを行うよう努めた。
 (2) 基本的には指導方針については、顧問から提案し、技術的な指導の内容・方法は、外部講師から提案するよう分擔して行った。

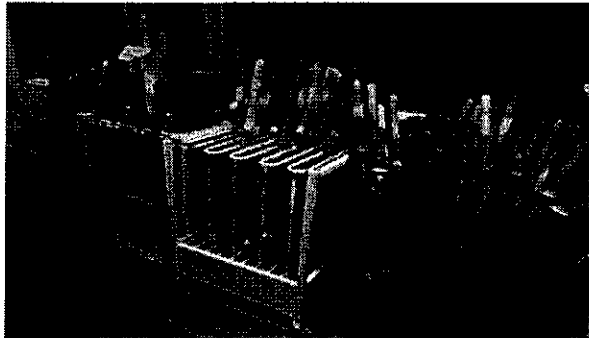
【基本的な技術の習得1】



【基本的な技術の習得2】



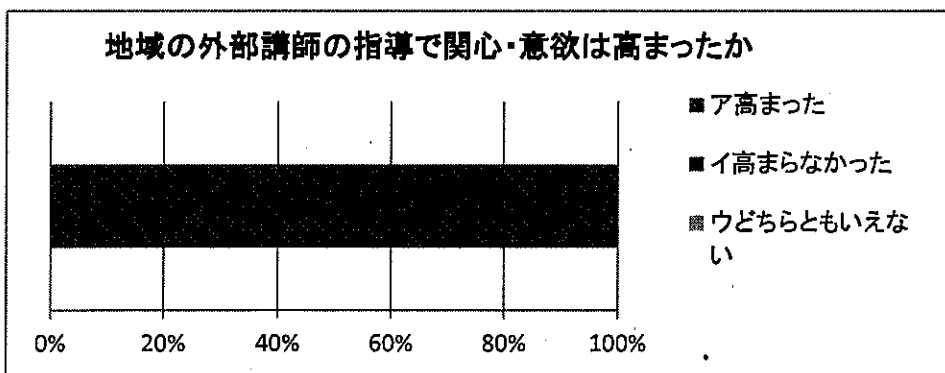
【取り組む姿勢の指導】
気構えの指導による整然とした部室の様子



【取り組む姿勢の指導】
気構えの指導により部活動への臨み方に姿容が見られた。
整頓された道場の様子。



【地域の外部講師の指導で関心・意欲は高まったか。】
全員が肯定的な回答をしており、意欲が高まったことが分かる。



【取り組む姿勢と基本的な技術習得の指導について】

地域の外部講師の専門性から生徒たちが基本技術の習得を着実に進めることができた。同時に教員にとっても基本技術の習得や指導方法の習得ができた。

地域の外部講師の方から剣道に対する臨み方の指導を受けたことにより練習への意欲の向上はもちろんのこと、指導者や仲間への感謝の気持ちや道具や道場への感謝の気持ちが育ってきた。

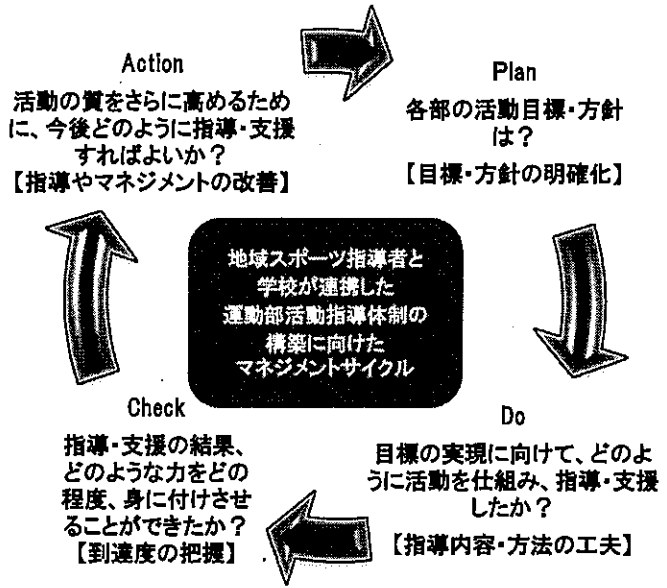
事業報告書(様式5)

ソフトテニスの楽しさを味わうとともに、技術・戦術の向上を目指した実践例

学校名	西郷村立西郷第一中学校
部活動名	ソフトテニス部
部員数	27人(男子17人、女子10人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0248-25-2135
 学校Eメールアドレス:school@nishigo1-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

(1)試合や練習試合等から、生徒の実態把握に努め、練習内容を検討した。
 (2)外部コーチの練習計画のもと、放課後や休日の練習に取り組んだ。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

(1)平成27年度全国中学校体育大会ソフトテニス競技で男子団体5位に入賞した。
 (2)新人チームでは、東北中学校インドアソフトテニス大会で3位に入賞した。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

(1)技術の指導だけでなく、メンタル面の指導をしていくことで、さらにレベルアップが図れる。
 (2)全国レベルの大会に参加し、切磋琢磨する機会を設ける。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1)練習前のアップやクールダウンに時間をかけるとともに、適度に休憩を取り入れ、集中して取り組ませることにより、事故やけがの防止に努めた。
 (2)コート上の石拾いや砂を定期的にまき、コート上の状況をできるだけよくした。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1)学校の授業や行事に支障が出ないよう、練習や大会参加等の日程調整を行った。
 (2)生徒の技術的・精神的な部分での情報交換を行い、常に生徒達の状態や状況に合わせた最善の指導を工夫した。

【生徒とサーブ・レシーブ練習】

生徒と一緒にサーブとレシーブを行っている。



【生徒とゲーム】

生徒と一緒にゲームをしながら、戦術の指導をしている。



【生徒への声かけ】

コートで声かけながら、ボールを拾わせている。



【ラインを利用】

ラインを利用して、前衛のポジション指導をしている。



【生徒のアンケート集計】

生徒のアンケートを集計した結果である。全部員がプラスになったと感じている。

- 質問1 「外部指導者や顧問は、あなたの部活動に対する想いや要望を理解して指導していたと思いますか。」(思う 27名)
質問2 「外部指導者や顧問は、活動にあたって安全に配慮して指導していたと思いますか。」(思う 27名)
質問3 「部活動をとおして、専門的な技能は高まったと思いますか。」(思う 27名)
質問4 「部活動をとおして、体力や運動能力は高まったと思いますか。」(思う 27名)
質問5 「部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。」(思う 27名)
質問6 「外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思えますか。」(思う 27名)
質問7 「部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示されていたと思えますか。」(思う 27名)

【生徒と顧問の感想】

指導を受けた生徒の感想と、顧問の感想である。

外部コーチの鈴木俊晴さんは、コーチとしてだけでなく、保護者という立場でも西郷第一中学校ソフトテニス部を支えて下さった。鈴木さん自身が、自分で手本を示して指導して下さるので、生徒もわかりやすく理解することができた。また、生徒のいいところを認め、できないところを根気強く指導して下さるので、生徒からの信頼も厚い。

顧問側としては、生徒の実態を理解し、広い心で接して下さるので、安心してお願いすることができた。また、顧問である私に対しても、戦術を指導して下さるので勉強になった。

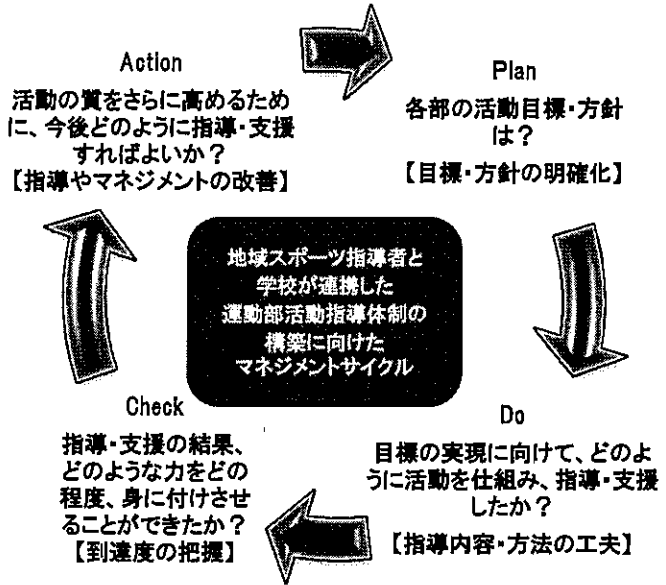
事業報告書(様式5)

ソフトテニスの楽しさを味わうとともに、技術・戦術の向上を目指した実践例

学校名	西郷村立西郷第一中学校
部活動名	ソフトテニス部
部員数	27人(男子17人、女子10人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0248-25-2135
学校Eメールアドレス: school@nishigo1-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】

(1) 試合や練習試合等から、生徒の実態把握に努め、練習内容を検討した。
 (2) 外部コーチの練習計画のもと、放課後や休日の練習に取り組んだ。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】

(1) 平成27年度全国中学校体育大会ソフトテニス競技で男子団体5位に入賞した。
 (2) 新人チームでは、東北中学校インドアソフトテニス大会で3位に入賞した。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】

(1) 技術の指導だけでなく、メンタル面の指導をしていくことで、さらにレベルアップが図れる。
 (2) 全国レベルの大会に参加し、切磋琢磨する機会を設ける。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

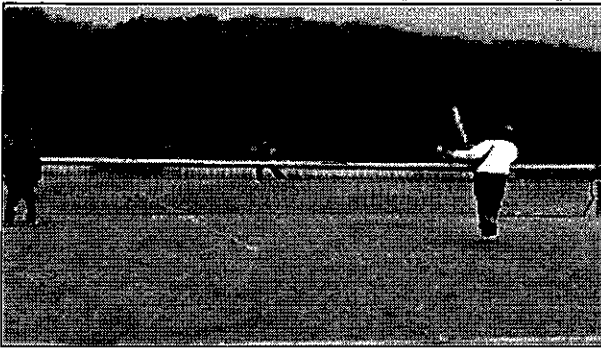
(1) 練習前のアップやクールダウンに時間をかけるとともに、適度に休憩を取り入れ、集中して取り組ませることにより事故やけがの防止に努めた。
 (2) コートの石拾いや砂を定期的にまき、コート状況をできるだけよくした。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1) 学校の授業や行事に支障が出ないよう、練習や大会参加等の日程調整を行った。
 (2) 生徒の技術的・精神的な部分での情報交換を行い、常に生徒達の状態や状況に合わせた最善の指導を工夫した。

【生徒とゲーム】

生徒と一緒にゲームをし、戦術を指導している。



【ボレー練習】

自らあげボールをし、前衛の指導をしている。



【生徒への声かけ】

声をかけて、ボールを取りに行くタイミングを指導している。



【ボールを使わない練習】

ボールを使わずに相手が立つ位置で、ポジションを教えている。



【生徒のアンケート集計】

生徒のアンケートを集計した結果である。ほとんどの生徒がプラスになったと感じている。

- 質問1 「外部指導者や顧問は、あなたの部活動に対する想いや要望を理解して指導していたと思いますか。」
(思う 25名・どちらとも言えない 2名)
- 質問2 「外部指導者や顧問は、活動にあたって安全に配慮して指導していたと思いますか。」 (思う 27名)
- 質問3 「部活動をとおして、専門的な技能は高まったと思いますか。」 (思う 27名)
- 質問4 「部活動をとおして、体力や運動能力は高まったと思いますか。」 (思う 27名)
- 質問5 「部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。」 (思う 27名)
- 質問6 「外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思いますか。」 (思う 27名)
- 質問7 「部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示されていたと思いますか。」
(思う 25名・どちらとも言えない 2名)

【生徒と顧問の感想】

指導を受けた生徒の感想と、顧問の感想である。

外部コーチの小山伸行さんは、コーチとしてだけでなく、卒業生の保護者という立場でも西郷第一中学校ソフトテニス部を支えて下さった。小山さん自身が、自分で手本を示して指導して下さるので、生徒もわかりやすく理解することができた。また、生徒のいいところを認め、できないところを根気強く指導して下さるので、生徒からの信頼も厚い。

顧問側としては、生徒の実態を理解し、広い心で接して下さるので、安心してお願いすることができた。また、顧問である私に対しても、戦術を指導して下さるので勉強になった。

事業報告書(様式5)

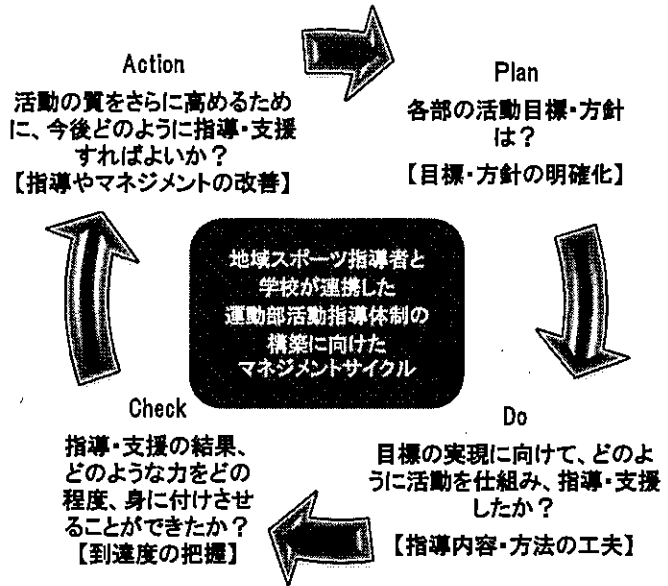
野球の指導を通して、これからの時代を生き抜く心身ともに、たくましい子どもを育成する部活動を目指した実践例

学校名	西郷村立西郷第一中学校
部活動名	野球部
部員数	34人(男子34人、女子0人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0248-25-2135

学校Eメールアドレス: school@nishigo1-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】

- (1) 試合や練習試合等から、生徒の実態把握に努め、練習内容を検討した。
- (2) 技術指導のみならず、礼儀や言葉遣い、精神的な部分の指導にも重点を置いている。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】

- (1) 第9回GIANTS杯福島県中学校野球大会 第3位
- (2) 福島県中学校新人野球大会 第3位
- (3) 県南中学校新人野球大会 優勝

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】

- (1) 東北大会や全国大会への出場を念頭に置いた指導を心掛ける。
- (2) 練習量はもとより、質的な部分も更に向上させていく。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1) ウォーミングアップを十分に行わせるとともに、練習中は集中力を切らさないように目を配り、適切な声かけを行った。
- (2) イレギュラーバウンド等でけがをしないよう、グラウンド整備を丁寧に行った。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1) 情報交換を綿密に行い、生徒の健康面や精神面の実態把握等を協同して行った。
- (2) 常に指導方針を確認し合い、共通行動をとることで、指導の方向性の相違を防ぎ、生徒が戸惑うことのないように努めた。

【守備の指導】

ゴロの捕球体制を指導している。



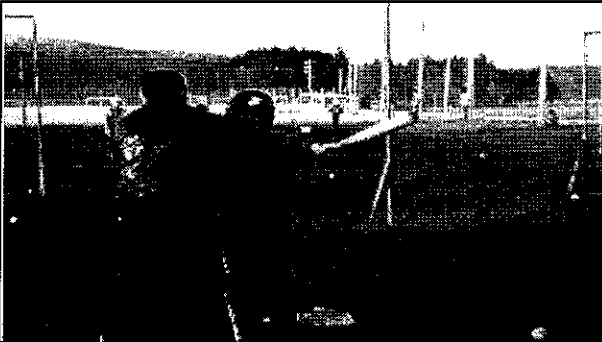
【投球フォームの指導】

投手のバックスイングの際の肘の使い方の指導をしている。



【右打者の指導】

ミートポイントやインパクトの瞬間の肘の使い方を指導している。



【左打者の指導】

バッティングと同じに、ネットへの配慮を指導している。



【生徒のアンケート集計】

部員全員が、プラスになったと感じている。うれしい限りである。

- 質問1 「外部指導者や顧問は、あなたの部活動に対する想いや要望を理解して指導していたと思いますか。」 (思う 34名)
質問2 「外部指導者や顧問は、活動にあたって安全に配慮して指導していたと思いますか。」 (思う 34名)
質問3 「部活動をとおして、専門的な技能は高まったと思いますか。」 (思う 34名)
質問4 「部活動をとおして、体力や運動能力は高まったと思いますか。」 (思う 34名)
質問5 「部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。」 (思う 34名)
質問6 「外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思えますか。」 (思う 34名)
質問7 「部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示されていたと思いますか。」 (思う 34名)

【生徒と顧問の感想】

説明文：指導を受けた生徒と顧問の感想

生徒：外部コーチの鈴木悦男さんは、長い間西郷一中の指導を行っており、全ての野球部員全員が尊敬している人物である。厳しさや優しさの両面をもち、いつもだれよりも西郷一中野球部のことを考えてくれている。

顧問：「野球を通じた人間力の育成」に優れ、生徒、保護者はもちろん卒業生や地域からの信頼もたいへん厚い方である。経験も豊かで、顧問の方針や立場を理解した上で、技術面、精神面の両面の指導に誠意と熱意をもってあたっている。

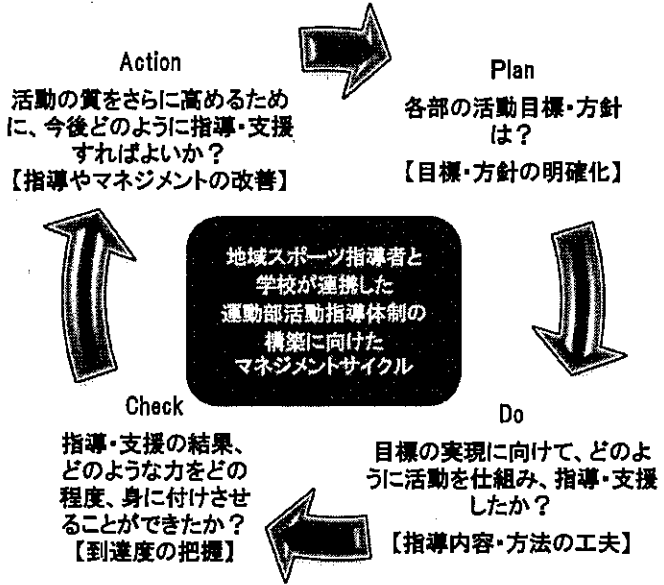
事業報告書(様式5)

サッカーの基礎的技術の習得と技能や戦術の習得を目指した実践例

学校名	西郷村立西郷第一中学校
部活動名	サッカー部
部員数	26人(男子26人、女子0人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0248-25-2135
 学校Eメールアドレス:school@nishigo1-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

(1)初心者には基礎的なボールコントロールの技術を習得を目標に、反復練習を行った。
 (2)基礎的技術を習得した生徒には、集団での守備、攻撃の基本を習得する練習を行った。
 (3)各種大会では、実戦での心構え、競技で気をつけることについて指導を行った。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

(1)2015県南サッカーリーグ2部では、5勝7敗で7チーム中4位。
 (2)新人チームでは、東西しらかわ新人大会予選リーグ1勝1分、リーグ3位(勝ち点で並び、得失点差で勝ち上がれず)
 (3)2016県南サッカーリーグ2部では、2勝1敗で6チーム中現在3位(3月現在、8月まで開催)

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

(1)まずは、あいさつと礼儀を今以上に意識して行い、チームとしての動きを合わせていく。
 (2)公式大会以外にも練習試合を行い、実戦経験を積んでいく。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1)練習前のあいさつ時に、全員の体調を確認した。
 (2)練習中、接触プレーで転倒した時、首から上の打撲の場合は直ちに専門医の診断を受けるよう、学校と家庭とで連絡を取り合った。
 (3)グラウンドに異物が無いかを常に見て回り、取り除いた。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1)練習や大会日程を確認し、外部指導者が参加可能な日程の調整を行った。
 (2)顧問と外部指導者とで、心身の面で配慮が必要な生徒の情報交換を行い、その生徒に応じた対応を心がけた。

【個別指導】

ウォーミングアップで注意することを生徒の近くで助言



【ヘディング練習】

自らボールを上げ、ヘディングの注意点を助言



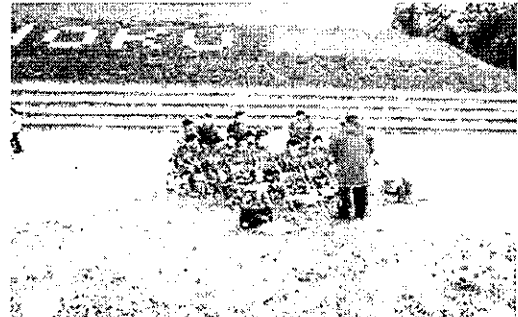
【正しい蹴り方】

声足を痛めないようなボールの蹴り方を指導している



【試合前の戦術確認】

公式戦で、試合前に作戦盤を用いて具体的に指導している



【生徒のアンケート集計】

生徒のアンケートを集計した結果である。生徒全員がプラスになったと感じている。

- 質問1 「外部指導者や顧問は、あなたの部活動に対する想いや要望を理解して指導していたと思いますか。」 (思う 26名)
質問2 「外部指導者や顧問は、活動にあたって安全に配慮して指導していたと思いますか。」 (思う 26名)
質問3 「部活動をとおして、専門的な技能は高まったと思いますか。」 (思う 26名)
質問4 「部活動をとおして、体力や運動能力は高まったと思いますか。」 (思う 26名)
質問5 「部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。」 (思う 26名)
質問6 「外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思えますか。」 (思う 26名)
質問7 「部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示されていたと思えますか。」 (思う 26名)

【生徒と顧問の感想】

指導を受けた生徒の感想と、顧問の感想である。

外部コーチの緑川光春さんは、コーチとして、そして今年度はPTA会長として本校の生徒の健全な育成にご尽力いただいた。本校サッカー部には、在校生の保護者という立場でご援助、ご指導を下さいました、

緑川さんは、生徒にわかりやすい指導を行ってくださり、さらにご自身でも手本を示して指導していただいております。それぞれの生徒のレベルに応じて、できたところ、成長したところを上手に褒めてくれるので、生徒からも信頼されています。

顧問としても、生徒に適切な指導をしてくださり、公式戦では審判も担当して下さり、本当に助かりました。生徒だけでなく、顧問に対しても戦略、戦術を教えていただき、とても参考になりました。

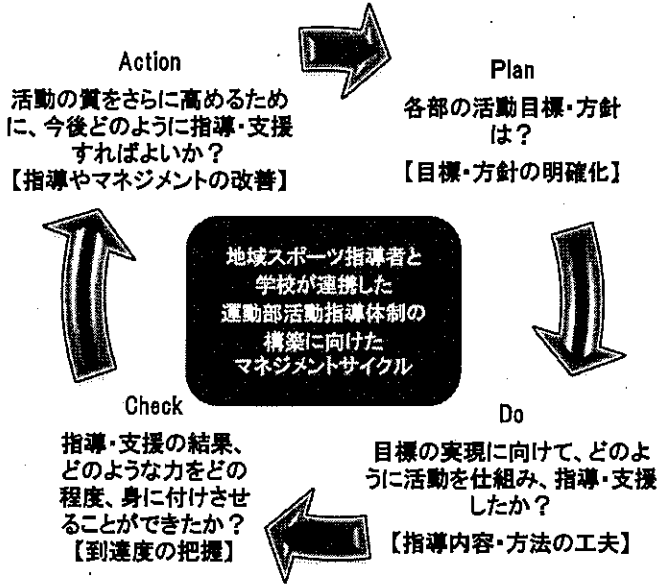
事業報告書(様式5)

外部コーチと顧問が連携し、バレーボールの基本を徹底して習得させた実践例

学校名	西郷村立西郷第二中学校
部活動名	女子バレーボール部
部員数	16名

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0248-25-2050
 学校Eメールアドレス: school@nishigo2-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

- 大きなあいさつを行い、礼儀を徹底させたことにより、保護者やコーチ、支援者に感謝の気持ちを持たせた。
- 練習を時間通りに始まり、終わる時間にきちっと終わることにより、集中して練習に取り組み、効率の良い練習を心がけた。
- 保護者会の理解を得て、練習試合を多く行う事によって、試合経験を多く積ませる。
- 練習の大部分をバレーボールの基礎練習に時間を割き、基本の徹底を行った。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

- 今までは、サーブも入らない部員がほとんどだったが、練習を続けた結果、サーブが正確に入るようになり、更に相手の陣形を崩すような強いサーブができる生徒が出てきた。
- パスの技術が高まり、クイック攻撃など、早い攻撃ができるようになった。
- 顧問やコーチの指導に対して、大きな返事ができ、高い技術を習得しようと集中して練習に取り組むことができた。

- 基本を大切にしながら、レシーブの技術を高め、防御に対してボールへの執着心を強く持たせていくことが必要である。
- あいさつを一番の大切なものとし、他への感謝の気持ちを更に持たせ、バレーボール以外の片付けや清掃活動への心こもった活動ができるようにする。
- 練習試合を多く行う事によって更に経験を積み、様々な状況の中でも自分たちの練習してきた事を生かしていけるようにする。

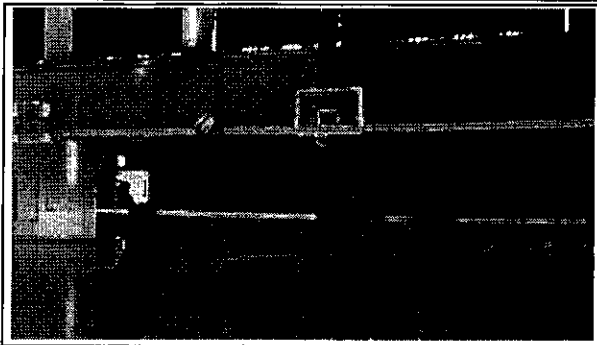
生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- バレーボールのひもやワイヤで手をけがしないように手袋をさせている。
- 生徒のけがを防ぐために、準備体操や、ストレッチに十分な時間をとる。
- 支柱の準備や後片付けは必ず四人で行わせ、十分に気をつけさせる。

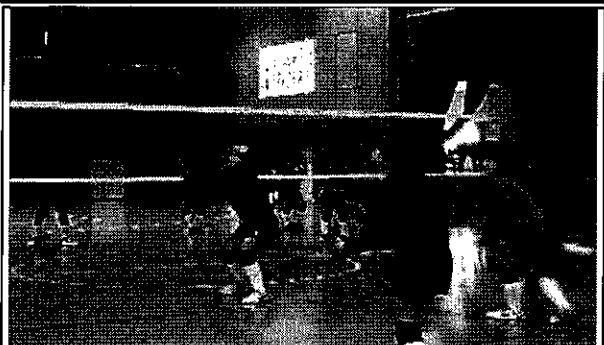
顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- 顧問と外部指導者が練習内容や、練習に対する考え方を十分に話し合い、生徒の前では、同じ指導ができるようにしている。
- 顧問が外部コーチに練習試合や練習日程について連絡を密に行った。
- 顧問は生徒に対して、練習に対する気持ち、相手への感謝の気持ちなどを担当し、外部コーチは、主にバレーボールの技術指導を分担した。

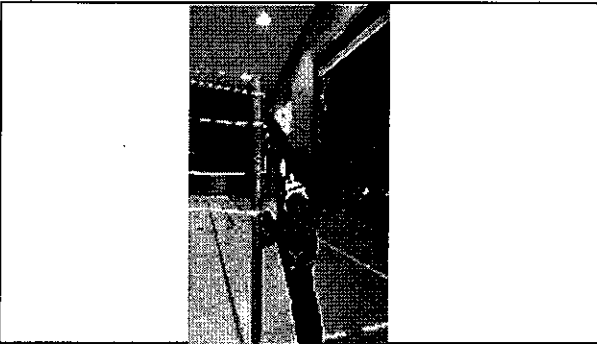
【基本練習の徹底】
レシーブの基本練習を手呈して行っているところ



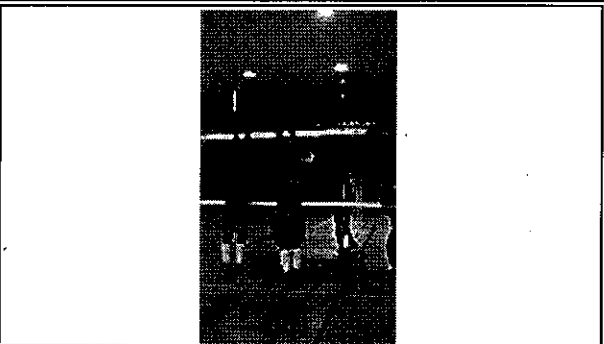
【チームプレイの練習】
チームとして防御から攻撃へ移る練習



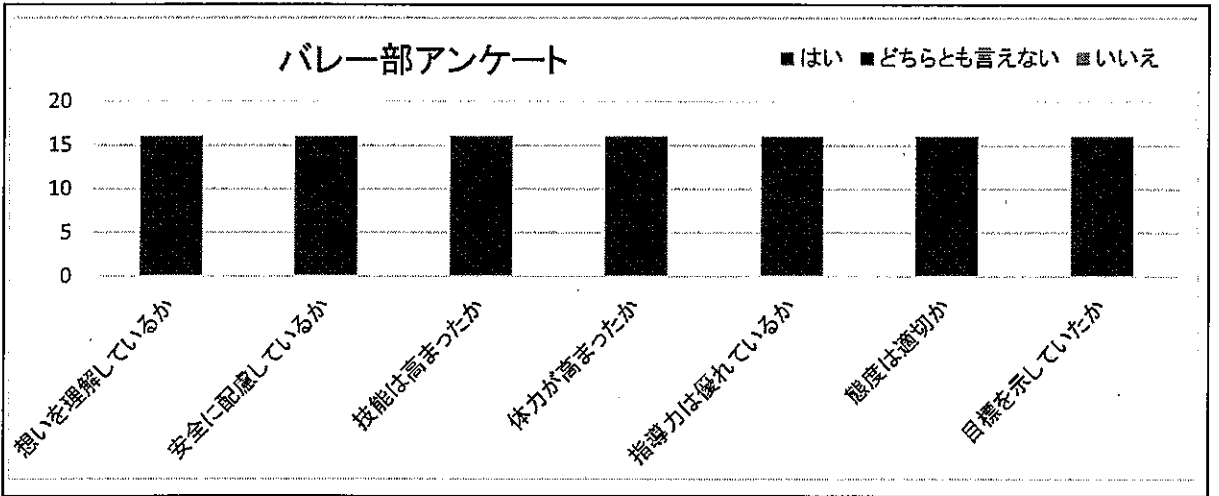
【ネットを張るときの安全】
ネットを張るときにけがをしないように手袋をしている



【台を使っての練習】
台を使ってコートにボールを入れ、練習をさせている様子



【バレー部員のアンケート結果】
バレー部の16人全員が外部人材を入れたこと肯定的である。



【今年度の成果】

顧問と保護者会、そして、外部コーチが子ども達のために、協力して取り組むことができた。その結果、子ども達は上達が早さが加速し、地元の大会では、決勝戦まで進み、第2位を獲得するまでになった。この事業によって、ますます子ども達が意欲的に練習を行い、心も体も大変成長していると言える。部活動の目標である人間形成を十分に達成していると考え、来年度もぜひ、この事業を希望し、さらによりよい部活動を行っていきたいと考える。

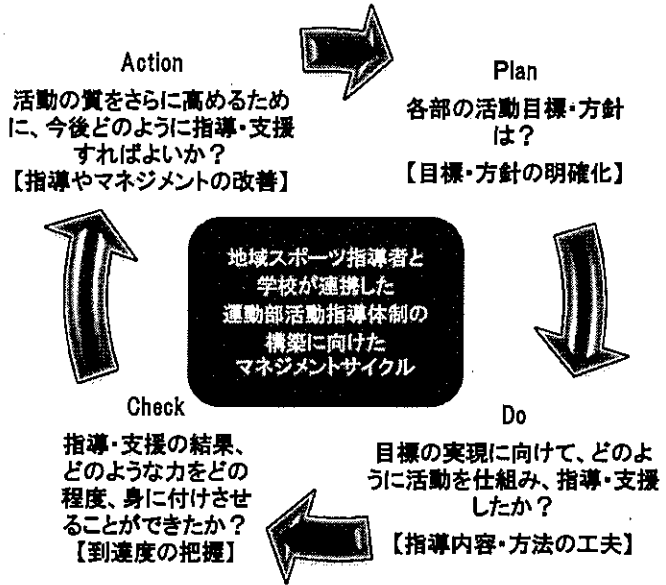
事業報告書(様式5)

専門的な技術指導を通して、柔道部の練習意欲を高めた実践例

学校名	西郷村立西郷第二中学校
部活動名	柔道部
部員数	7人(男子4人、女子3人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0248-25-2050
学校Eメールアドレス:school@nishigo2-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

(1) 大きなあいさつを行うなど武道の礼儀作法を徹底して指導した。
 (2) 練習を時間通りに始まり、決められた時間の中で練習することによって、練習の工夫が生まれ、集中して練習を行う事ができた。
 (3) 大会や練習試合を有意義なものとするために、計画的に練習を組み立て、目標に向けて意欲を高めた。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

(1) 受け身を練習のはじめに必ず行い、徹底することにより大きなけがを防ぐことができた。
 (2) ランニングや自重による筋トレやサーキットトレーニングなど行う事によって、基礎体力を高めることができた。
 (3) 打ち込みや寝技の練習、乱取りを行う事によって、自分の得意な投げ技や寝技を習得することができた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

(1) 道場の清掃活動を更に進んで行い、更にボランティア活動につながるように支援していく。
 (2) けがを防ぐために更にストレッチや受け身の練習を徹底していく。
 (3) 自分の得意とする技を習得しながら、連携した技を賭けられるようにしていく。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

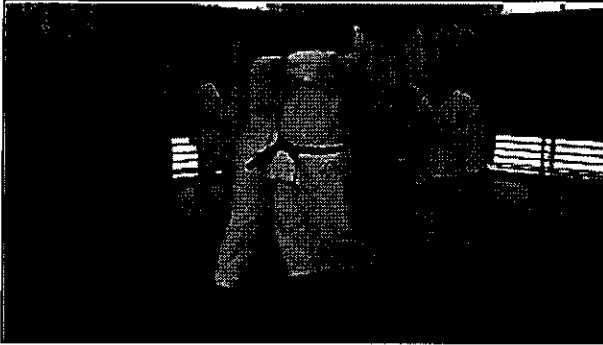
(1) 受け身の徹底
 (2) 道場の整理整頓
 (3) 練習時の人と人との感覚を確認しながら練習させる。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1) 指導方針や練習内容の確認など十分に話し合いながら進めていけるよう工夫した。顧問は、練習に対する姿勢や態度について指導し、外部指導者は柔道の技術指導を行った。
 (2) 大会や練習試合の連絡など早めに連絡し、外部指導者が参加できるように配慮した。

【柔道の技能を教えている場面】

生徒に柔道の弾き手と釣り手を教えているところ



【演示指導】

実際に投げて、生徒に技を教えている様子



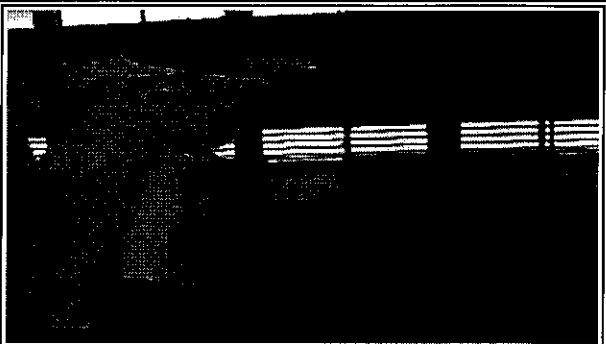
【けがの防止】

けがを防止するためにマットを敷いているところ



【けがをしないための道具】

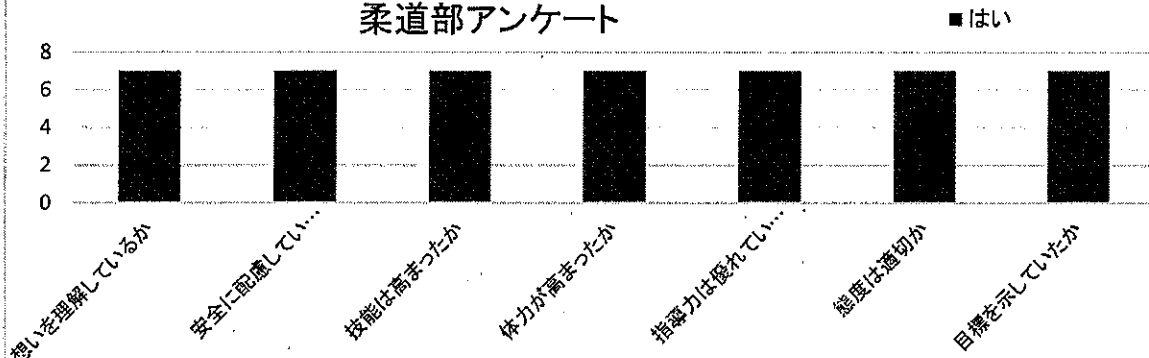
保健体育用マットよりは薄く、弾力性のあるマットを使用している



【アンケート調査】

全員の生徒が外部指導者に指導していただいてよかったというアンケート結果になった。

柔道部アンケート



【今年度の成果】

本校の柔道部の顧問は専門ではないため、柔道の技術指導ができなかった。本事業を利用し、地元の指導者との連携し、子ども達のために、練習の指導を行うことによって、子ども達の心身の発達において、多大なる良い影響を与えることができた。生徒の意欲を高め、積極的に練習に取り組む姿を見ることができたのは、本事業の影響が大きい。来年度もぜひ活用していきたいと考えている。

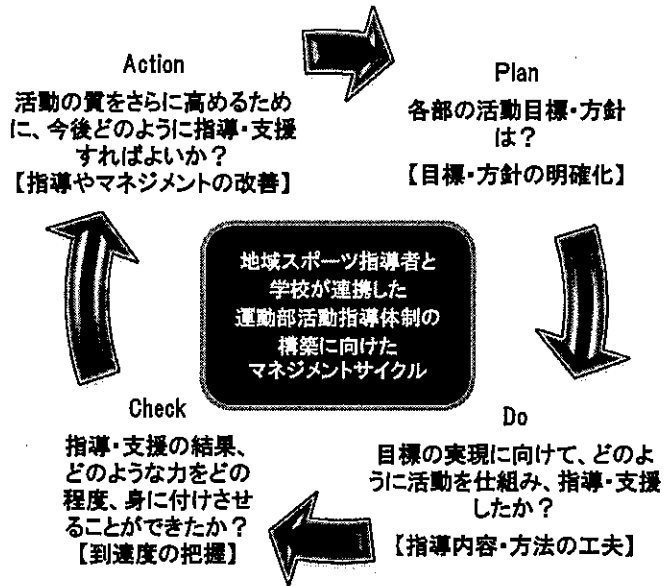
事業報告書(様式5)

地域スポーツ人材を活用した部活動

学校名	泉崎村立泉崎中学校
部活動名	3人
部員数	3人(男子3人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0248-53-2412
学校Eメールアドレス:izumijhs01@vill.izumizaki.huku



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

- (1)段階に応じた指導と練習方法を実施することで、生徒に関心を持って部活動に取り組み、技術向上を目指す。
- (2)休日に外部指導者が指導した内容をもとに、平日の練習は顧問が反復指導を図ることで、技術の向上を目指す。
- (3)ロードコースを周回することで、交通ルールを守る規範意識を育てる。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

- (1)競技用自転車の乗り方や練習方法などの技術や知識を身につけることができた。
- (2)安全な乗り方や交通ルールを学ぶことで、意識を高めることができた。
- (3)練習を積み重ねることで自分の能力が伸ばされ、可能性を追求する態度が養われた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

- (1)長期的目標と短期的目標をわかりやすい形で生徒に提起し、意欲を高める。
- (2)練習方法(特に冬期)の工夫・改善を図る。
- (3)個に応じた指導を行う。

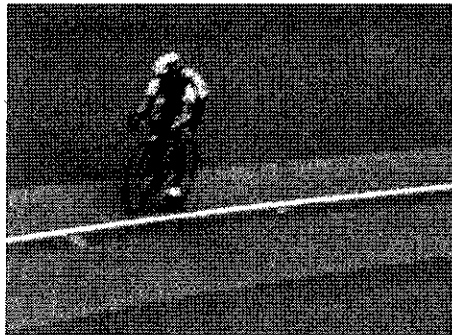
生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1)部員は初心者からスタートするため、段階に応じて練習場所や指導方法を変えた。
- (2)ロードコースでは時間帯とコースに配慮し、必ず指導者の車(バイク)が伴走した。
- (3)自転車の特性や自動車の動き方など身を守るための知識が身につくように配慮した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1)外部指導者が技術指導、顧問が基本(反復)練習やファンダメンタルを担当した。
- (2)連絡を密にし、指導法や練習内容の反省、改善を行った。

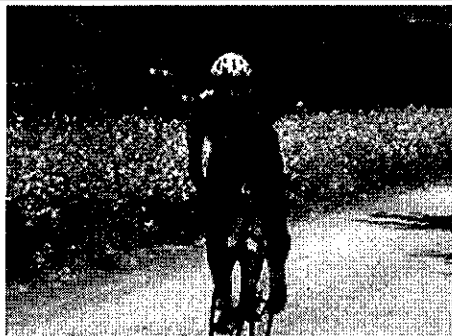
【県総合体育大会での競技】
3年生にとって最後の大会となる競技風景



【冬期練習のようす】
屋内でのローラーを使った練習風景



【ロードコースでの練習風景】
安全を考慮したコースの選択



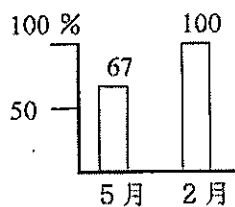
【平成27年度の主な成績】
中学生では競技人口が少ないため、記録の向上を目標とした。

平成27年度 福島県総合体育大会 自転車競技

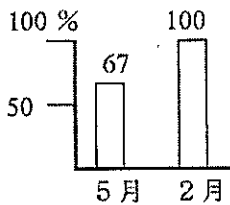
- 1kmTT スポ少男子 第3位
- 2kmIP スポ少男子 第3位
- 個人RR スポ少男子 第3位

【アンケート調査の結果】
意識の変容

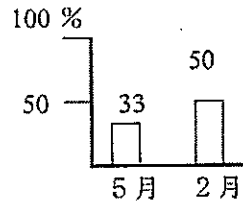
目的を持って部活動に
取り組んでいる (はい)



部活動は充実している
(はい)



練習の成果を実感
している (はい)



【成果と課題】
今年の成果と課題

年度始めの人事異動により、顧問が替わり新たなスタートになった。しかし、顧問も自転車競技に関しては全くの素人であり、部活動内での分担を明確にして効果的に指導ができることを念頭に置いた。また、昨年度からの方針である「自転車競技の楽しさを実感し、基礎的な技術を習得する。」を継承しつつ、部活動を通して「人格の形成」に役立つ運営を心がけた。

また、競技の性質から、安全面に十分な配慮と専門的な技術指導力は不可欠と思える。また、生徒も経験者が皆無であるため、互いに意識はしても学び合うところまではいかない状況である。外部指導者が不在の時に、いかに意識を高め、質の高い練習ができるかが重要である。

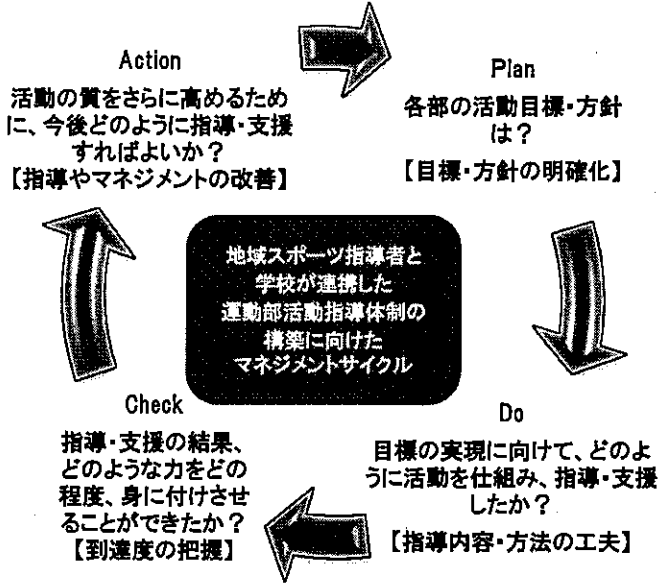
事業報告書(様式5)

全国大会出場を目標に生徒が熱心に取組む運動部活動を目指した実践例

学校名	棚倉町立棚倉中学校
部活動名	女子ホッケー部
部員数	12名

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0247-33-3176
 学校Eメールアドレス:school@tanagura-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

(1)持久力や瞬発力の向上を目指し、ランニングや体幹トレーニングを行った。
 (2)各自の特性を生かし、個に応じて高めさせたい技能の習得に向けたトレーニングを行った。
 (3)練習試合や公式試合をビデオで撮影し、試合後振り返りを行うことで、戦術理解の向上を図った。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

(1)当たり負けしない体幹を鍛えることができた。
 (2)他のチームの選手に劣らない高い技能を習得することができた。
 (3)戦術の理解度が高まり、練習の合間でもお互いに気づいたことを話し合うことができるようになった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

(1)他チームと比べ、持久力が劣っていたので、継続してトレーニングを行い、さらに持久力を高めさせたい。
 (2)高めた技能を実践で活かせるように、試合を意識した場面設定を行うなど、実践力を高めさせたい。
 (3)練習や試合中においても、他者に対して大きな声で指示を出すことができるよう、より積極性を高めたい。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1)練習前と後に健康状態を確認し、体調に異常がないか確認した。
 (2)ウォーミングアップやクールダウンに時間をかけ、身体のケアをするとともに、集中して練習に取り組ませた。
 (3)スティックやキーパー防具等の用具の手入れやグラウンド整備など、生徒の怪我につながるような要因の排除に努めた。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1)顧問は毎日の練習の支援や練習試合の引率などを行う。外部指導者は、技術的な指導を中心に行った。また、試合形式の練習などでは、実践での指導やゲームでの指示、アンパイア等も積極的に行った。
 (2)外部指導者と顧問との打合せや連携を密にして、それぞれの部員の活動状況についても十分に情報交換を行った。

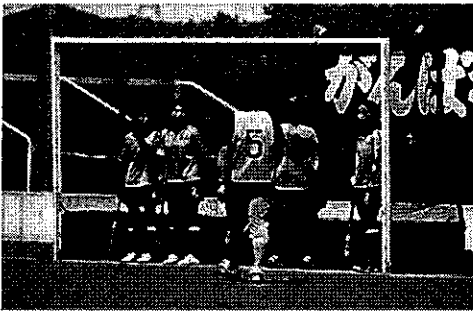
【指導の様子】
個々に応じた細かいアドバイスをを行った。



【技能や戦術の指導】
指導者の経験を生かし、生徒たちに楽しさを伝えた。



【試合形式の練習】
試合形式での練習ではアンバィアを行いながら指導を行った。

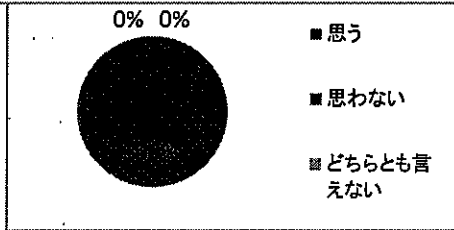


【大会での活躍】
2年連続全国大会出場。ベスト16入りに大きく貢献した。

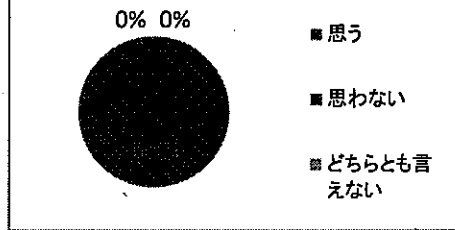


【事後アンケート調査結果について】
12月に今年度の活動を振り返り、アンケート調査を実施した。

質問1
顧問や外部指導者は、あなたの部活動に対する思いや要望を理解して指導していましたか。



質問2
部活動を通して、専門的な技能が高まりましたか。



【外部指導者との連携】
生徒、顧問、外部指導者の連携を密に取り、好成績を収めることができた。

日本で一般的に認知度の低いホッケーは競技人口も多くはないが、本校では地元出身のホッケー経験者の協力を得て、生徒たちに専門的な知識や技術を学ばせることができた。また、スポーツ少年団等の指導経験もあり、生徒たちが楽しく練習に取り組めるような工夫も見られ、練習への意欲が高まり、技術面、戦術面での向上が見られた。結果として、今年度の第45回全日本中学生ホッケー選手権大会においては、昨年度のベスト8に引き続き、ベスト16入りと好成績を収めることができた。さらに、技術面だけでなくよき相談役として、本校の活動目標である「望ましい人格の形成を図るとともに、集団内での望ましい人間関係の育成を図る」ことにも良い影響を与えた。今後ぜひ継続し、支援をしていただきたい。

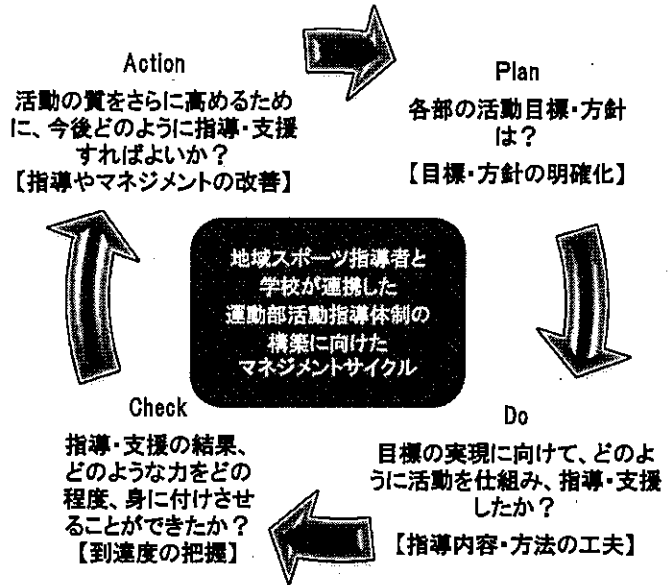
事業報告書(様式5)

地域の指導者人材を活用し生徒が生き生きと活動する運動部を目指した実践例

学校名	会津若松市立河東中学校
部活動名	弓道部
部員数	35人(男子19人、女子16人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0242-75-3011
学校Eメールアドレス:school@kawahigashi-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

- 年度始めに生徒一人一人に目標を明確に持たせて、活動の意欲づけを行った。
- 定期的に練習試合を設定し、各自に練習の成果を実感させるようにした。
- 外部指導者と連携を図り、一人一人のニーズに対応した指導を心がけ、目標達成に向けての意欲を継続させた。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

- 生徒一人一人に基礎・基本の技術を定着させた結果、大会で部員同士がお互いの技術の向上を確かめ合うことができた。
念願であった全国大会に全員で出場し、技能の向上を各生徒が実感できた。
- 練習で基礎・基本を繰り返し指導したことで、多くの生徒が昇段審査で目標とする段や級を取得した。
- 大会後や練習試合後に生徒によるミーティングを行わせ、生徒自身に部活動を運営する力をつけさせた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

- 顧問と外部指導者が生徒一人一人の個性と能力を把握し、指導を工夫することにより、より高い技術を身につけさせる。
- 部長を中心に生徒自身で話し合い等をさせて、周囲に気を配りながら行動できる力を高めさせる。
- 保護者に試合結果や生徒の成長ぶりを適時知らせることで、部活動に対する保護者の関心を高め協力体制を確立する。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- 矢を使った練習の時には、必ず顧問や外部指導者が生徒の動きに目を配り、生徒の安全確保を徹底する。
- 上級生や部長を中心に、生徒同士がお互いの安全に気を配って練習するように、顧問からきめ細かな指示を与える。
- 指導者講習会等の講習内容を生徒に伝達し、技術面の向上だけでなく安全確保についてもきちんと伝達し実践させる。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- 顧問と外部指導者が生徒一人一人の個性や能力について共通理解を持つために適宜打ち合わせを行った。
- 生徒の技術指導に当たるときには、役割分担を明確にして指導に当たり、効率的な指導を行った。
- 顧問が主導権を取って、外部指導者に指導の重点事項を伝え、指導の一貫性を保つよう心がけた。

【地域スポーツ人材指導者の指導の様子1】
生徒一人一人の射形を改善するためにアドバイスをしている。



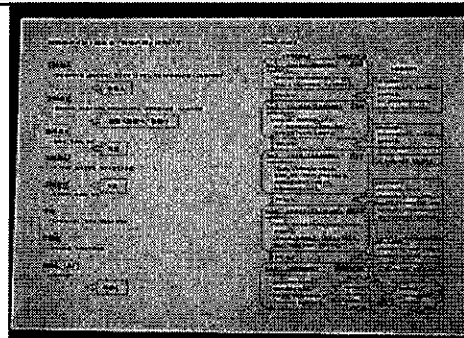
【地域スポーツ人材指導者の指導の様子2】
外部指導者の全体指導に耳を傾けている。



【矢を射るときの射場の安全確保をしている様子】
矢を射るときに死角を作らないように気を配っている様子



【基本を徹底させるための自作指導資料】
弓道の基礎・基本を学ぶための資料



【外部指導者の指導に関するアンケート結果】
地域スポーツ指導者を活用した結果、生徒がどう感じたかを調査したアンケート

<外部指導者活用に関するアンケート>

- ① 外部指導者や顧問は、あなたの部活動に対する思いや要望を理解して指導していたと思いますか。 はい → 32/35人 91%
- ② 外部指導者や顧問は、活動にあたって安全に配慮して指導していたと思いますか。 はい → 32/35人 91%
- ③ 部活動をとおして、専門的な技能は高まったと思いますか。 はい → 31/35人 89%
- ④ 部活動をとおして、体力や運動能力は高まったと思いますか。 はい → 23/35人 66%
- ⑤ 部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。 はい → 33/35人 94%
- ⑥ 外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思いますか。 はい → 27/35人 77%
- ⑦ 部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示されていたと思いますか。 はい → 27/35人 77%

<成果>

【部活動における地域との連携】

河東地区は伝統的に弓道とのつながりが強い地域であり、その地域性を効果的に活用して部活動を活性化させる。

○ 河東地区は平成7年の国体で弓道競技会場になったこともあり、弓道とのつながりが強い地域である。また、地域には弓道競技の指導者が数多くおり、地域に河東弓道会という団体もある。その地域的な利点を活用し、弓道の部活動を活性化することは、生徒自身の心身の健全な成長に貢献するばかりでなく、地域スポーツに関しても大きく貢献することになる。本事業終了後も地域の指導者人材を活用し、部活動の活性化を図ろうと計画している。

来年度も河東弓道会の指導者に協力を仰ぎながら、子どもたちの部活動を活性化し、ひいては河東地区のスポーツ振興にも貢献したいと考えている。

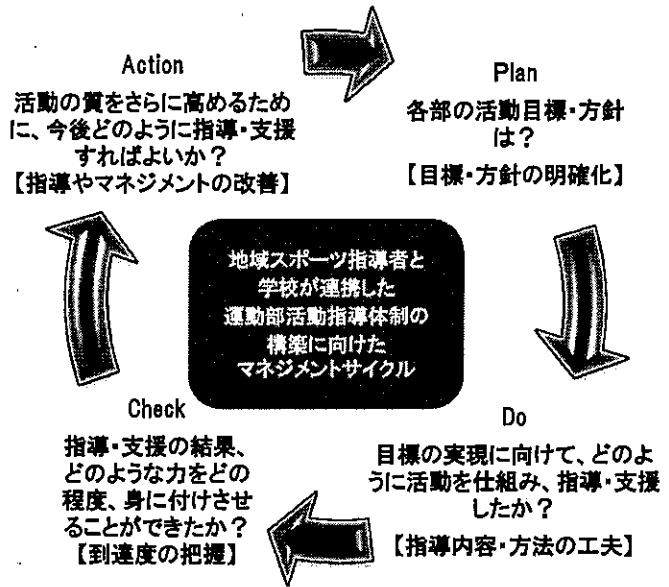
事業報告書(様式5)

学校組織並び保護者と連携を通して、生徒が輝く運動部活動を目指した実践例

学校名	喜多方市立第一中学校
部活動名	陸上部
部員数	20人(男子10人、女子10人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0241-22-0274
学校Eメールアドレス: school@kitakata1-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

- (1)施設の充実した場所での練習を通して、記録の向上と技能の向上を目指した指導の実践
- (2)高い専門性を生かした指導の実践
- (3)送迎、食事面での保護者の協力を得た指導の実践

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

- (1)タータン競技場での練習を通して走力の向上を図ることができ、100mで県大会5位、走り高跳び東北大会優勝、ジュニアオリンピック出場を果たす力を身に付けた。
- (2)多くの練習会への送迎など、保護者の協力を得て、安心して練習に集中することができた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

- (1)シーズンオフ中の練習メニューの工夫と、冬の強化練習会へ参加を多くする工夫。(保護者との連携)
- (2)個の力の強化に努め、全体的な走力の向上を図るための個に応じた指導内容の工夫。
- (3)生徒間、対指導者とのコミュニケーション能力を高める工夫。

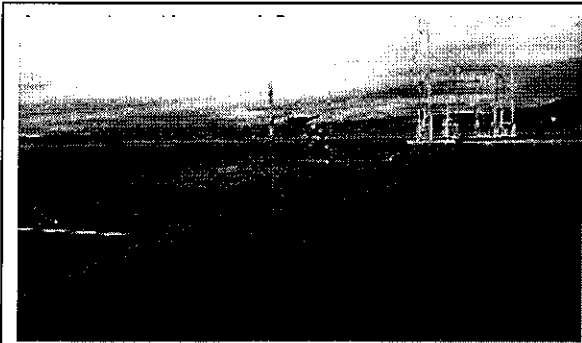
生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1)けがや体調管理に配慮し、大会後の休養日、週一度の休養日を必ず設けた。
- (2)主に土日の練習は、施設・設備等の安全面を考慮してタータン競技場を借りて練習を行った。
- (3)生徒の能力差を考慮し、練習メニューを工夫した。

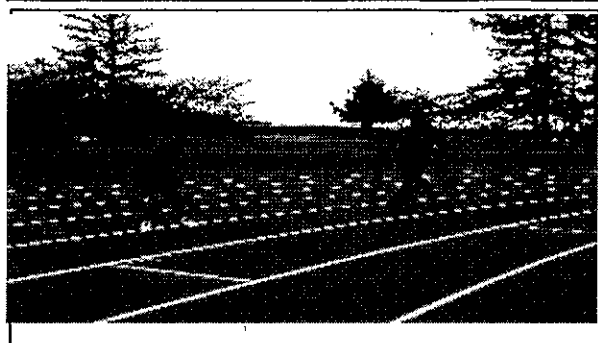
顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1)外部指導者と連絡を密に取りながら、主に土日をタータン競技場での練習日に設定し、本番を意識した練習内容を工夫した。
- (2)大会前に練習会を設定し、外部指導者の専門性を生かすことに努力した。
- (3)顧問は主に全体的な練習計画をつくり、外部指導者はその中での専門的な指導というような分担のもとに行った。

【外部講師の専門性を生かした指導】
跳躍専門の指導者による効果的な跳躍技術の指導。



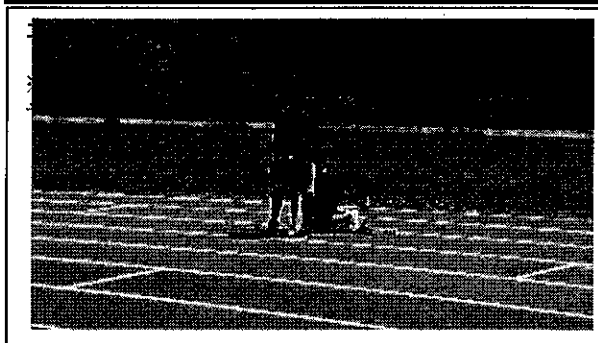
【効果的なバトンパスの指導】
ブルーラインを使ったバトンパスの練習



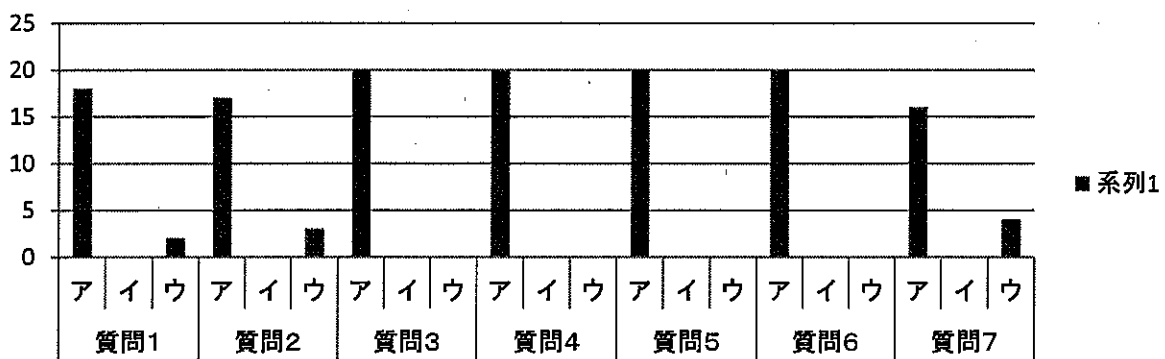
【効果的なバトンパスの練習】
タータンレーンでのスピードに乗ったバトンパスの練習。



【全天候型競技場での練習】
スタブ路を使った200mのスタート練習。



【外部指導者の有効性】
地域スポーツ人材の活用実践事業アンケートから、今年度の活動の有効性を確認することができた。



本校陸上部のこれからの取り組み
部員減少が予想される中での、今後の取り組みと方向性

本校の陸上部は、昨年同様毎年減少傾向にある。特に今年の新入部員は9名。うち純粋な陸上部は6名という状態であり、残り3名はスポーツ少年団に入り、硬式野球少年団、サッカークラブで活動している。そのため土、日の部活動には全く参加できず、協会主催の大会への参加もできない状態である。毎年部員が減少する中でモチベーションを上げて活動していくためには、やはり個の力の向上を目指した、専門性の高い指導を受け、個がそれぞれ上位大会入賞するという目的・目標を持って活動することが大切になってくる。そのためにも今後とも人材派遣事業を活用していく方向で進めていきたいと考える。

事業報告書(様式5)

学校、地域の指導者、部活動保護者会の三者が連携を図り、生徒の技能向上を図った実践例

学校名	喜多方市立第一中学校
部活動名	バレーボール部
部員数	女子 31名

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0241-22-0274

学校Eメールアドレス: school@kitakata1-j.fks.ed.jp

Action
活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？
【指導やマネジメントの改善】

Plan
各部の活動目標・方針は？
【目標・方針の明確化】



地域スポーツ指導者と学校が連携した運動部活動指導体制の構築に向けたマネジメントサイクル



Check
指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？
【到達度の把握】

Do
目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？
【指導内容・方法の工夫】

Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

- (1) 学校、外部指導者、保護者会の三者がそれぞれの立場で役割を分担しながら、生徒活動のバックアップを行った。
- (2) 学校は他の二者と連携をもちながら、部活動の運営にあたった。
- (3) 外部指導者は専門的な知識をもとに、生徒の技能を伸ばすために指導を行った。
- (4) 保護者会はスポ少を立ち上げ、希望生徒には学校外の練習の機会を確保したり、物品面の支援を行ったりするなど、活動の場の確保と資金面から援助した。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

- (1) 大会実績では、以前は支部大会で初戦敗退をくり返すなど、なかなか思うような成績が上げられなかったが、6月の支部中体連大会では1勝、新人戦では3位入賞を達成した。地区大会にも耶麻支部3位として出場し、健闘した。
- (2) 中学になり、初めてバレーボールを始めた生徒も技能的に大変向上し、全体的な技能のアップが達成できた。
- (3) 小学校でバレーボールを経験してきた生徒は、一層技能の向上が見られ、チームの中心として活躍した。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

- (1) 11月から2か月ほど、外部指導者の都合により指導できない時期が発生した。(ご不幸があり、長期の活動不能な時期が発生した) その間、保護者会が当番制でスポ少等の対応をしたが、限界があり、練習の維持が難しくなった。また冬季ということでスポ少への生徒の参加も減少し、最終的に1月いっぱいをもってスポ少の活動については終了させることになった。
- (2) 学校、外部指導者、保護者会の連携の形は、年度当初に計画したものを変更する必要がでた。現在は学校が中心となり指導を行い、外部指導者に練習のアドバイスをもらうなどしながら、また保護者会には同様に活動の支援をいただきながら、日々の指導に努めている。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1) 生徒の状態(けがなど)については情報交換を密に行った。
- (2) スポーツ保険加入は保護者会が中心に行った。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1) 活動方針、練習の方法、選手選考など、十分に相談しながら共通理解を図りながら取り組んだ。
- (2) 練習設定については、部活動関係は全て学校の責任で行う。また希望する生徒がスポ少に参加する場合はスポ少の責任で行うこととし、責任の所在を明確にした。ただし、前述の通り、顧問と外部指導者の連携を取りながら行った。

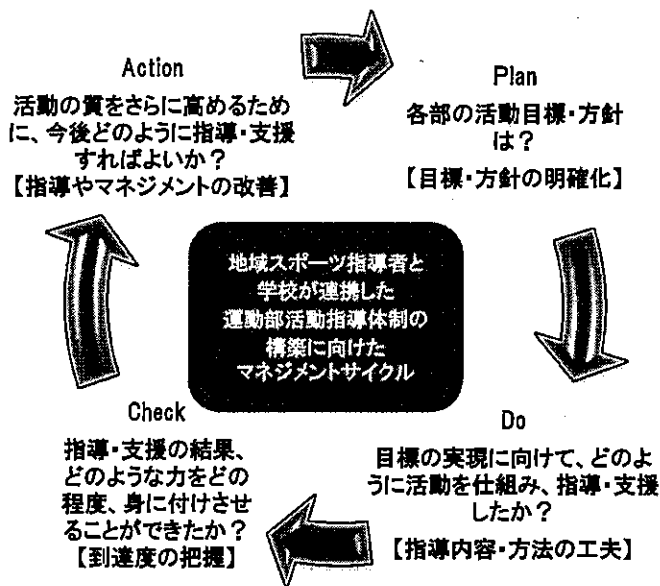
事業報告書(様式5)

少人数でも、意欲を高め、勝利を目指す
チーム作りの在り方

学校名	喜多方市立会北中学校
部活動名	野球部
部員数	8名(男子8名)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0241-36-2038
学校Eメールアドレス:school@kaihoku-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】

(1)チームの最初の体力作りから外部指導者がついて、顧問と一緒に指導・支援を行った。
 (2)野球の技術的な面について、指導・支援を行った。
 (3)これまでの先輩の活躍について話してもらうなど、身近な先輩の練習の様子などから学べるよう指導・支援を行った。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】

(1)正しいキャッチボールの仕方を身につけ、ミスなしにキャッチボールができるようになった。
 (2)野球のルールもわからない生徒に、ルールや動きについて詳しく説明してくれ、基本的なルールを身につけることができた。
 (3)正しい打撃フォームを指導したために、きれいなフォームでボールを打つことができるようになった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】

(1)生徒同士の心の交流を図り、お互いに向上し合う、認め合う人間関係を醸成していく。
 (2)対外試合等を多くして、他チームから学べる機会を多くする。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1)防護ネットを活用した。
 (2)十分に準備運動を行わせた。
 (3)練習の中で、危険なことを予想させ、十分に注意を払うよう指導した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1)練習計画や対外試合の計画を連絡し、効果的な指導・支援ができるよう工夫した。
 (2)外部指導者が参加した時に、練習計画等について詳しく話し、基本的な動作ができない生徒を特によく見てもらった。

体力作りの指導の様子
走っている生徒を励ましている



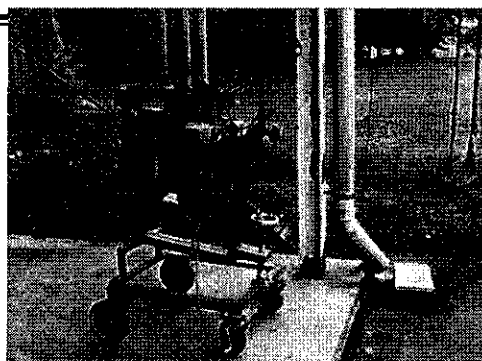
フリー打撃練習のときの様子
一人一人の生徒に、打ち方の指導中



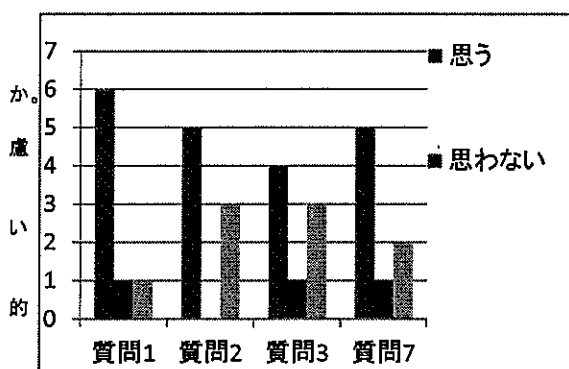
防球ネットの使用
フリー打撃では打球が投手に当たらないようネットを使用



ピッチングマシンの有効利用
人数が少ないのでピッチングマシンをノックの代用に使用



アンケート結果
今回の目標に関連した質問事項にしぼって、結果をグラフ化しました。



質問1 外部指導者や顧問は、あなたの部活動に対する
想いや要望を理解して指導していたと思います

質問2 外部指導者や顧問は、活動にあたって安全に配
して指導していたと思いますか。

質問3 部活動をとおして、専門的な技能は高まったと思
いますか。

質問4 部活動の目標や方針、計画や練習内容等、具体
に示されていたと思いますか。

今後の方向性
幅広くこうした人材を活用していければ良い。

今後は、地域の有効な人材を幅広い競技で活用できれば、生徒の成長にも役立つのではないか。
地域社会の中で、検討していきたい課題である。

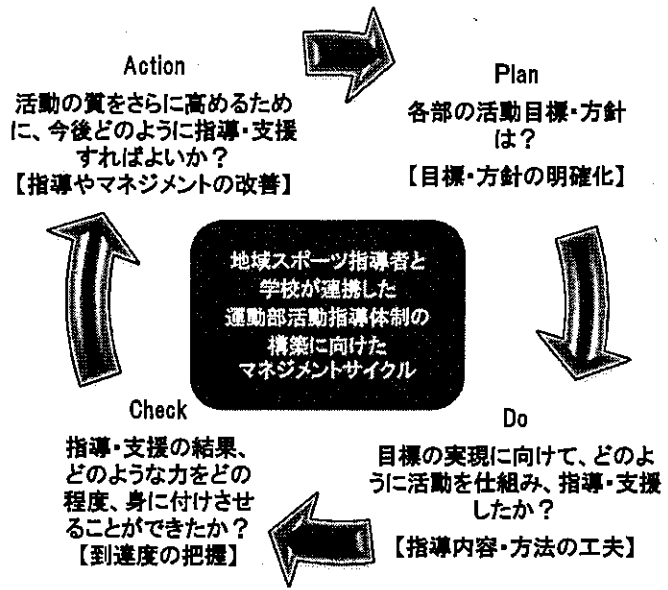
事業報告書(様式5)

地域の指導者による部活動実技指導で生徒のモチベーションと運動技能を高めた実践例

学校名	北塩原村立第一中学校
部活動名	卓球部
部員数	16名(男子7人 女子9人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0241-24-3321
 学校Eメールアドレス:school@kitashiobara1-j.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

- 地域の優秀な外部スポーツ人材を、より専門性の高い運動部活動の指導者として迎え、生徒の技能と体力・モチベーションの向上を図るとともに、生涯を通じて運動に親しむ資質や態度を育てる指導をし
- 指導経験が豊富な外部スポーツ人材と当該部活動顧問が連携・協力しながら、生徒一人ひとりの個性・行動特性等に応じた望ましい指導の在り方を探った。
- 部員一人一人に具体的な行動目標を待たせ、技能の習得に努めた。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

- 外部指導者のこれまでの経験を生かし、生徒一人ひとりの個性や能力に応じた指導を行ったことで、サーブ・スマッシュ・カットの基本動作を身に付けさせることができた。
- 実践形式のリーグ戦や練習試合をとおして、実践的なオフェンス、ディフェンス技術が身に付いた。
- 実践的な練習を繰り返すことで、試合感覚や試合に対する心構えが形成され、試合場の雰囲気左右されることなく実力を発揮できるようになった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

- 短時間で集中した練習を構築し、顧問と外部コーチが指導方法について相互理解を図る。
- 技術の高い生徒は、外部コーチのもと打法や打法のスピードについて技能向上を図る。
- ベンチコーチとして継続してアドバイスすることにより生徒の個性や技量に応じた助言に努める。

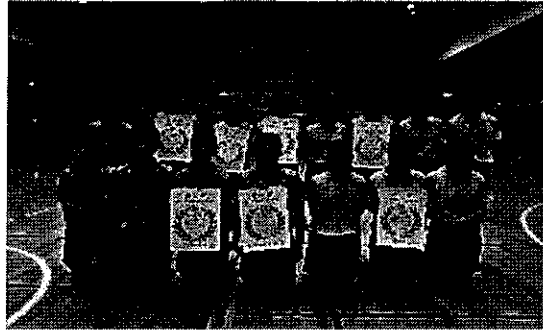
生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- 当該部活動顧問とともに指導し、つねに指導者の管理下で活動させる。
- 水分補給、休憩や休息を適度にとり、健康面に十分配慮する。
- 家庭と連携し、活動終了後の安全な下校の徹底を図る。

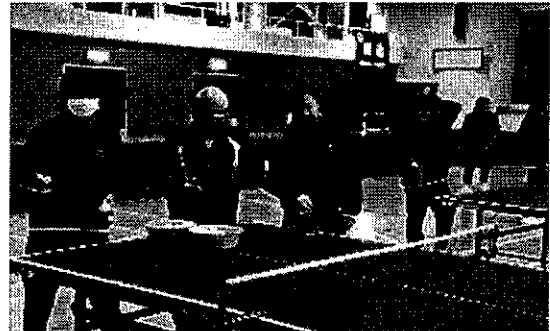
顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- 指導方法について意見交換を行い、相互理解を図るように努めている。
- 指導内容については、顧問から外部コーチに対し、より具体的な指導をお願いし、繰り返すことで確実な技能として身に付くようにしている。
- 大会の間際には、できるだけ実践的な練習が行えるように外部指導者に多く来ていただけるよう働きかけている。

【福島県中学校新人卓球大会出場】 全会津新人大会で、女子団体が3位入賞を果たし、新人県大会へと駒を進めました。



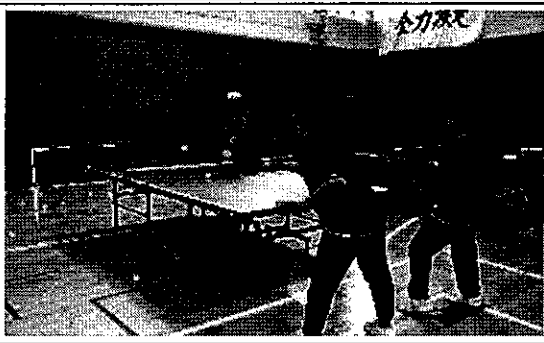
【技術指導】 コーチ（外部指導者）から、サーブ、スマッシュなどの基礎的な技能についてアドバイスを受けました。



【冷水麦茶の設置】
水分補給、熱中症予防のため、冷たい麦茶を置きました。
(6月～9月)



【ラリーの練習】 スマッシュで決めるだけでなく、ラリーによって相手のミス誘う練習もしています。



【部活動アンケート】 優れた指導力で専門的な技能が高まっています。

【部活動アンケート】(生徒16人)

	思う	思わない	どちらとも言えない
○専門的な技能は高まったか。	13	1	2
○体力や運動能力は高まったか。	9	3	4
○指導者の指導力は優れているか。	15	0	1
○言葉遣い・態度は適切か。	12	0	4
○目標や方針、計画等が具体的か。	12	1	3

【基本動作の確実な定着・実践練習の継続】 反復練習により基本動作の定着を図っています。

6月の耶麻管内の大会では、男女団体ともに3位以内の入賞を果たすことができた。9月の新人戦でも男女とも3位以内の入賞を果たし、女子団体は全会津新人大会でも3位入賞を果たし、県大会出場を成し遂げた。部員も増加傾向にあり、基礎的・専門的な技能を高めるためにも来年度も本事業を活用したいと考える。

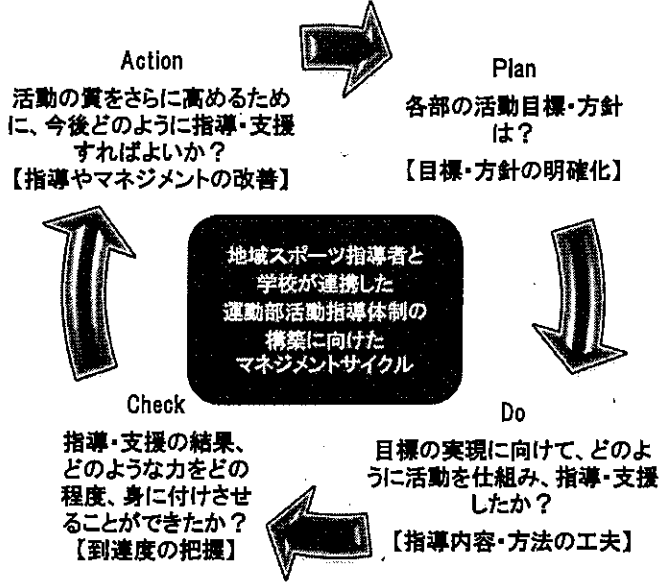
事業報告書(様式5)

武道の精神を基に、自他を尊重する態度を養い、自己実現を図る部活指導

学校名	会津坂下町立坂下中学校
部活動名	柔道部
部員数	14人(男子9人、女子5人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0242-83-2356
学校Eメールアドレス:bangecyu@town.aizubange.fukushima.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

(1) 県内、及び東北でも上位成績のとれるような技能の習得、競技力を習得するために個人の到達度を正確に見極め、弱いところを重点的に反復練習できる練習プログラムを組んだ。
 (2) 遠征の際に個人の目標・そのための重点的練習内容明確にし、スモールステップで目標実現を図ってきた。
 (3) 落ち着きがなく粗暴な生徒がいるため、自他への思いやり・尊重の精神を身につけさせるため、練習前後に自らの行動を振り返る時間を設けた。特に該当生徒とは、個別の面談を取り入れ学校生活を含めた助言と指導を行った。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

(1) 県内では優勝、東北大会でも強豪校と互角に戦う力を身につけた。
 (2) 全国中学校柔道大会出場者全員が行う体力診断テストでは、どの種目も概ね良い記録を残せた。
 (3) 粗暴な生徒も、まだ不十分であるが、問題行動が少なくなり、部活動や学校生活でも他者の話を聴き、相手の立場を考えて行動する姿が多く見られるようになった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

(1) 昨年度変更されたルール変更を十分に消化した上での技能の習得、戦い方の指導
 (2) 全国上位の生徒との交流を図りレベルの向上を図る。
 (3) 研究心を高めるとともに、個のレベルに応じた一層の個別練習内容の工夫
 (4) 自分の練習・試合での行動を客観視できるメンタル面の強化
 (5) 指導内容と生徒の状況を保護者に伝え、家庭での生活面・しつけ面での協力を得る。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1) 生徒の状態(けがなど)について本人・保護者と情報交換を密にした。
 (2) 畳止めを最新のものとした。畳のずれによる負傷を無くした。
 (3) 水分補給をまめに行い熱中症防止を行った。
 (4) 本人の体力や技能に応じた練習内容の提示

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1) 新ルールを外部指導者が研究し、生徒や顧問に伝達を行った。
 (2) 試合等で外部コーチとして、精神面や技術面で個に応じた適切なアドバイスを行った。
 (3) 外部指導者が入った時は短時間でも打合せの時間をもち、各個人の技能レベル、性格、行動などの情報を共有化し、技能面・精神面の指導の一体化を図った。

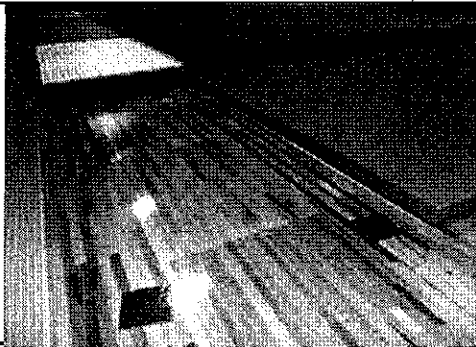
試合形式で行うルールの確認



試合形式で行うルールの確認



最新式の畳止め



練習後の黙想・・取り組み姿勢や行動の振り返り



【生徒アンケート・顧問アンケートから】

- ・結果から多くの生徒が外部指導者を、指導者たる態度を身につけ、かつ優秀な指導者と認めていることが分かる。生徒の信頼が大きいのは、指導を真摯に行う態度と共に、専門的な指導を通じて、生徒の力を十分伸ばしていることからきていると思われる。
- ・教員との共通歩調がとれているのも、生徒の信頼を築いている原因の一つと言えよう。教員、外部指導者が十分に共通理解を図りながら、取り組んでいるため、学校の立場を理解した上での指導が進められている。
- ・生徒のみならず、教師側もその力量を高く評価している相互の緊密なコミュニケーションがその根底にあると思われる。

事業で学んだ成果を今後の取り組みに生かす工夫

- 本人のレベルに応じたスモールステップで目標を持たせ、それが達成されたときに、賞賛し、自信を持たせていきたい。それにより自己肯定感が高まり、柔道だけでなく、中学生として人間として成長するものだと感じる。
- 自他を尊重することは、柔道の根本精神に通じるものであり、お互いを活かす事になる。部活動指導と生徒指導は乖離するものではないので今後もこの点を大切にして、人間教育の一環としての柔道指導であることを忘れずに指導を進めたい。
- 練習を基礎基本、試合を到達度テスト・自己表現、試合や練習後の振り返りは自己評価と捉えることができる。学習理論がそのまま当てはまるので、この面をもっと系統的・効果的に適用できないか、研鑽していきたい。

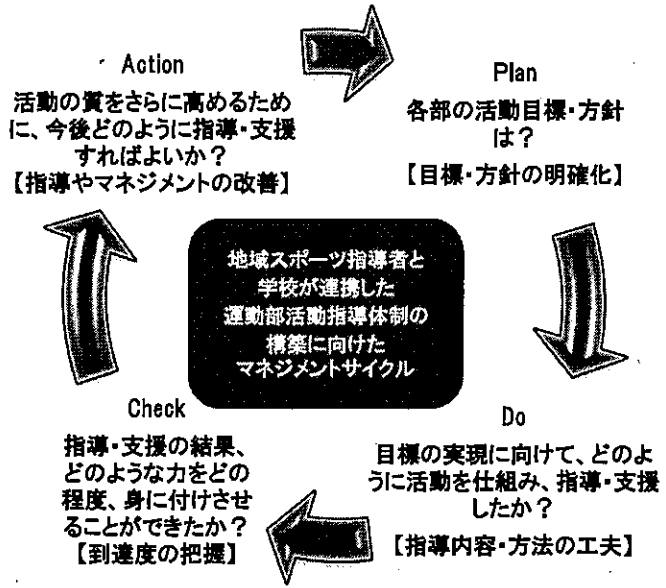
事業報告書(様式5)

学校、地域の指導者、部活動保護者会の三者が連携を図り、生徒の技術向上を図った実践

学校名	会津坂下町立坂下中学校
部活動名	バドミントン部
部員数	61人(男子26人、女子35人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0242-83-2356
学校Eメールアドレス:bangeocyu@town.aizubange.fukushima.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

(1)学校が中心となり、外部指導者、保護者会と連携しながら生徒活動のバックアップを行った。
 (2)学校、保護者会連名で、地域のスポーツ少年団である、NPO法人スポーツクラブバンビに指導者派遣を依頼した。
 (3)指導者は、専門的知識が豊富で、地域の中で密着した活動をそれまで行っていた人材である。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

(1)団体戦では、男女団体のコーチとしてベンチに入り、適切なコーチングを行ってくれた。その結果、地区大会で上位入賞し、男女で県大会出場を果たした。
 (2)個人戦では、新人戦の男子ダブルスで東北大会出場をはじめとし、地区大会でも上位入賞を果たした。
 (3)指導に携わってもらうことで生徒たちのスキルアップにつながり、更に高みを目指そうとする向上心を持つようになった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

(1)顧問が変わっても、地域に根付いた人材であるために継続した指導が可能である。今後も学校、保護者会、外部指導者との連携のシステムを継続していくことが重要である。
 (2)活動の質を高めるためには、指導していただく機会を増やすことも重要である。今後も予算の確保をお願いしたい。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1)生徒のけがなどに対応できるように、指導者や監督者がいないときの活動は行わなかった。
 (2)生徒の状態をしっかりと把握できるように、情報交換を密にし、オーバーワークにならないように努めた。
 (3)スポーツ保険加入を保護者会を中心に行った。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1)連絡先を交換し、活動方針や選手の選考など、連絡を密にしながら同一步調で取り組んだ。
 (2)大会時のオーダーなどは顧問が中心となって選手選考し、外部指導者にはコーチングやサポートの立場で支援してもらった。
 (3)保護者会主催の練習会(部活動外)の指導をお願いし、専門的な知識や技術を生かして、生徒の発達段階に応じた指導をしてもらった。

【大会の様子】

説明文：ベンチ入りして的確なアドバイスをいただきました。



【支部中体連の結果より】

説明文：全種目において上位入賞を果たしました。



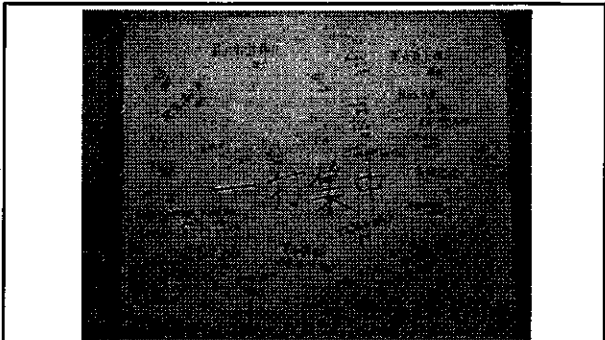
【練習の様子】

説明文：安全面にも配慮して練習しています。



【目的意識を高めるために】

説明文：個人の目標を書き、部室に掲示してあります。



【生徒アンケートの結果から】

説明文：1・2年生41名に実施

- (1) 外部指導者を十分に信頼し、かつ優秀な指導者と認めている。
- (2) 外部指導者の導入により、自分の技術を高められていると感じる生徒が多い。
- (3) 外部指導者は、学校の立場を理解した上で指導を行ってくれている。ことなどがわかった。

部員数	質問1			質問2			質問3			質問4			質問5			質問6			質問7		
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
41	40	0	1	41	0	0	38	0	3	37	0	4	41	0	0	41	0	0	37	0	4

【今後の取り組みの方向性】

説明文：地域特有の競技を目指して

- (1) 事業終了後もコーチのご厚意で、指導を継続していただけることになっている。
- (2) 現状である「学校・外部指導者・保護者会」の三者の連携による生徒支援は今後も継続し、生徒達の指導に取り組んでいきたい。
- (3) 意欲のある生徒は、外部指導者所属のスポ少での練習にも参加している。地域特有のスポーツとしても根付くように、ジュニアから大人までの幅広い関係のつながりを大切にしていきたい。

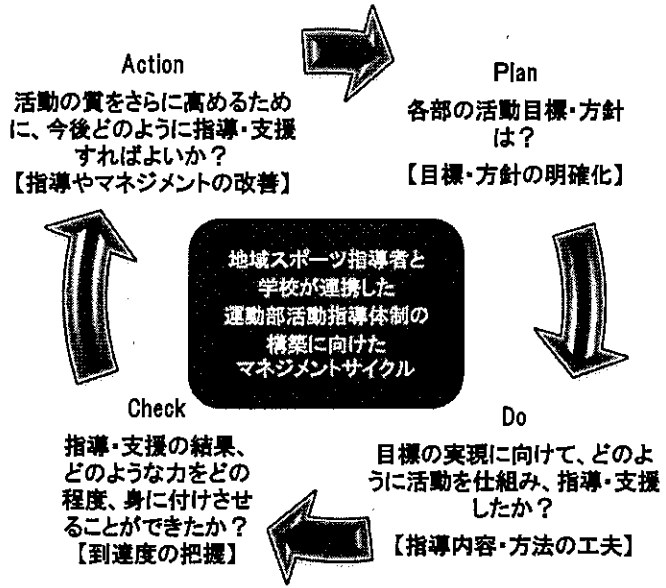
事業報告書(様式5)

卓球の楽しさと基本的な技術の向上を目指した実践

学校名	会津坂下町立坂下中学校
部活動名	卓球部
部員数	26人(男子16人、女子10人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0242-83-2356
学校Eメールアドレス: bangecyu@town.aizubange.fukushima.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】

(1) 学校(部活動)が中心となり、顧問と外部指導者がそれぞれの立場で役割分担しながら、生徒の長所を伸ばすよう指導した。
 (2) 外部指導者は、元高校教師で部活動指導でも実績があり、今も現役でプレーしている経験豊富な人材である。
 (3) 大会等の結果だけを求めるのではなく、卓球の楽しさが実感でき、自信をつけさせる指導に重点を置いた。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】

(1) ほぼ全員が中学校で初めて卓球を始めており、正しいフォームを早く身につけられるようになった。
 (2) 個人指導により、球の回転の見極め方やその対応の仕方など、基本的な技術の向上につながった。
 (3) 大会でも個人戦で県大会出場を果たすなど、徐々に効果が出てきた。団体戦でもそれを狙える段階まで持って行きたい。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】

(1) 外部指導者の指導・支援が月2回程度に限られているので、さらに技術面の向上と指導の継続性、外部指導者と生徒との信頼感を高めていくには、週2回程度の指導・支援があったほうがよい。現状はやや中途半端な感じがする。

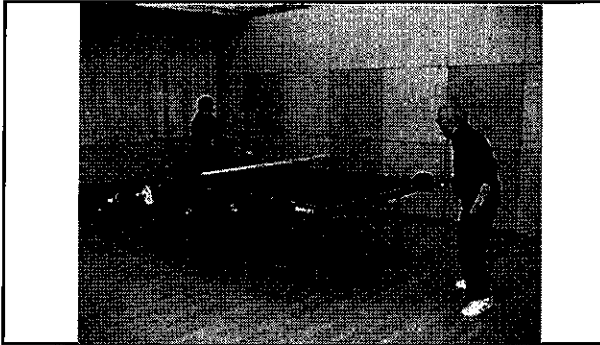
生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1) 練習中のけがにつながらないように、ストレッチなどに十分時間をとるようにした。
 (2) 外部指導者と生徒の状態について情報交換し合い、練習メニューを組み立てた。
 (3) 練習場所の広さが十分ではないので、卓球台を置く位置を工夫したりして卓球台の間隔をできる限り広くとるようにした。

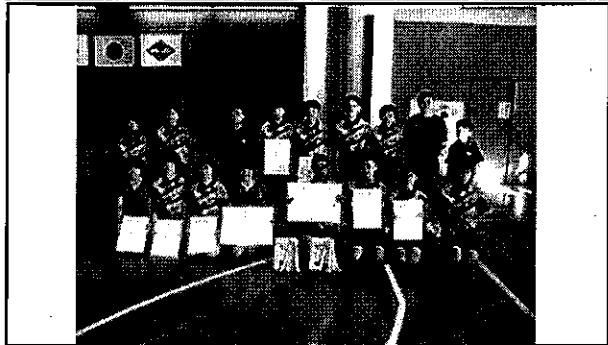
顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1) 外部指導者とメールで連絡を取り合い、練習計画を事前に見てもらって指導・支援していただいた。
 (2) 選手起用については、顧問の判断でメンバーを組むようにし、外部指導者からは戦術的なアドバイスをもらうようにした。

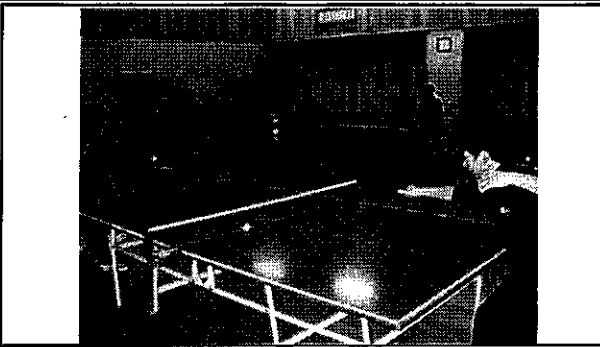
【日頃の練習の様子】
試合形式の練習の中で、個別指導している場面



【両沼支部中体連大会で優勝】
高田中で行われた大会で男女とも優勝したときの記念写真



【卓球台の置き方を工夫】
練習中に接触事故が起きないように、台の向きを変えて設置



【ボール拾い網】
ボール拾い網は壊れやすいので、100円ショップで購入した魚とり網を使用



【生徒アンケート・顧問アンケートから】

- 生徒は外部指導者が来る日を楽しみにしている様子が見られ、いろいろアドバイスしてもらうことでやる気を見せている。
- 外部指導者が元高校教師であることから、学校の立場を十分理解した上で指導していただいております、生徒も信頼を置いている。
- 外部指導者から見れば、前回指導したことが身につけていないと感じることも多々あったので、それを顧問がどう継続して指導していくかが大切である。（顧問が外部指導者にやや頼りすぎてしまったのが反省材料である）

【今後の取り組みと課題】

- 地域の人材を積極的に活用し、部の顧問が替わっても継続的に指導していける体制をつくっていききたい。
- ほぼ全員が中学校で初めて卓球を始めている状態なので、小学校の段階から児童が卓球に親しんだり、指導を受けられるような地域の体制があればよいと思う。
- 今年度から坂下卓球協会が正式に発足したので、協会が核となり町内の小学校、中学校、高校の連携を図って卓球人口を増やしていければと思う。

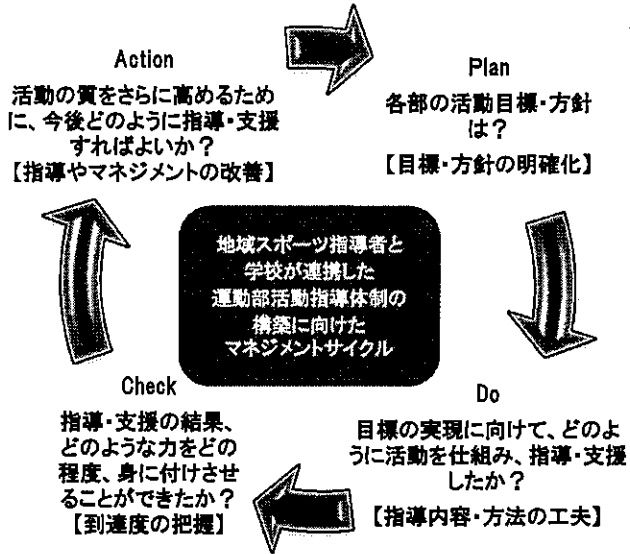
事業報告書(様式5)

地域と連携した活動により、生徒が夢をもって活動に取り組む実践例

学校名	只見町立只見中学校
部活動名	特設クロスカントリースキー部
部員数	15人(男子7人、女子8人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0241-84-2022
学校Eメールアドレス:tadacyuu@tadami.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

- (1) 外部指導者の協力を得て部活動指導することは大変効果が期待できる。しかし、地域や外部指導者の職場の理解を得ることができないと、外部指導者の活用は難しいことから、地域で子どもたちを育てるしくみづくりが必要である。
- (2) 外部指導者の活用においては、総合型地域スポーツクラブの協力、練習会場の提供など指導者の協力を得ることができた。それにより、生徒に対する指導も充実したことが成果に繋がっている。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

- (1) 外部指導者の協力を得て部活動に取り組んだ結果、生徒の技術的なスキルの向上並びにメンタル面でのスキルの向上は、アンケートの結果からもわかる。
- (2) 外部指導者の協力を得て部活動に取り組む結果が現れたことにより、それぞれの生徒が部活動だけでなく、学校生活においてもリーダーとして活躍する場面が多くなった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

- (1) クロスカントリースキー競技においては、専門的な指導を行うことができる指導者が少ないことや活動の場所を確保することが難しい競技であるため、学校独自の部活動への取り組みには限界があり、地域の人材や団体の協力を得て活動することが質の高い指導につながる。
- (2) 今後、活動の質をさらに高めるためには、外部指導者の専門的な技術向上のための研修における研修費等を負担することによりさらに専門性が高まり、結果として生徒への効果的な指導につながると考える。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1) 冬期間の活動であり、自然環境がめまぐるしく変わる種目であるため、活動時の生徒の体調管理には万全を期した。特に、インフルエンザ対策においては、日頃からうがい、手洗い、マスクの着用を徹底させた。
- (2) 激しい練習環境や競技であることから、合宿や大会遠征でも、十分な休養と栄養補給に心がけた。
- (3) トレーニング内容においては、外部指導者との事前の打ち合わせを含めた十分なコンタクトをとりながら、生徒の体力面、精神面を考慮した練習メニューを組み立てて実践した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1) 特設クロカン部の活動がスタートする時点で今シーズンの活動方針や活動内容を指導者と情報交換し、練習や大会遠征等をスムーズに行えるように取り組んだ。
- (2) 外部指導者と顧問の役割分担として、外部指導者が専門的な技術指導、顧問が部活動として必要な連絡調整や生徒のメンタル面の指導を行った。

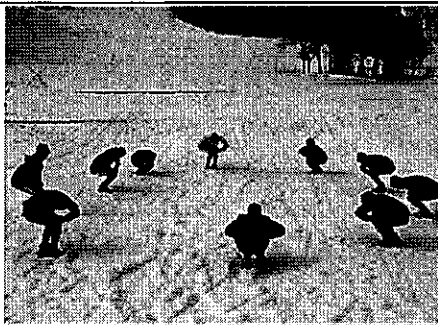
【雪上練習指導】
練習メニューの指示



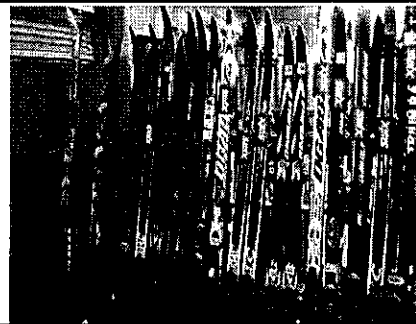
【雪上練習指導】
スキルアップトレーニング



【準備運動】
準備運動や整理運動の指導



【用具の支援】
地域スポーツクラブから用具を借用し、充実した練習ができた。



【アンケートのまとめ】

部活動に参加した生徒並びに教職員の感想をまとめました。

<生徒からの感想>

- 専門的な指導をしていただき、技術が向上した。
- 渡部さんの指導は、わかりやすく楽しく活動できました。
- クロスカントリースキーの技術だけでなく、ワックス技術も学ぶことができてよかった。

<教職員からの感想(関係した教職員)>

- クロスカントリースキーは、専門性が強く、専門的な指導ができる指導者が少ないことから、外部指導者の協力を得ることができ、成果を出すことができた。
- 外部指導者の協力を得て部活動を実施することについては、外部指導者と教師の情報交換を密にし、役割分担をしっかりと行うことが重要なポイントとなり、本校の外部指導者は、コミュニケーションスキルが高く、楽しく実施することができた。
- 外部指導者の協力を得ることができれば、他の部活動でも成果が期待できる。

【外部指導者を導入してからの成果】

東北大会や全国大会など、上部大会で活躍する生徒が多くなった。

第58回福島県中学校体育大会クロスカントリー競技

- フリー競技 女子3年 1位 2位
男子2年 9位 11位
- クラシカル競技 女子3年 1位 2位
男子2年 7位 11位
- 男子リレー 4位
- 女子リレー 1位
- 男女総合 3位
- ◎東北大会 8名出場 ◎全国大会 3名出場

第52回東北中学校スキー大会クロスカントリー競技

- フリー競技 女子3年 4位 29位
男子2年 46位 56位
- クラシカル競技 女子3年 29位 34位
男子2年 52位 58位
- リレー競技 女子7位

第53回全国中学校スキー大会クロスカントリー競技

- フリー競技 女子3年 27位 56位
- クラシカル競技 女子3年 58位 59位
男子2年 104位
- リレー競技 女子9位

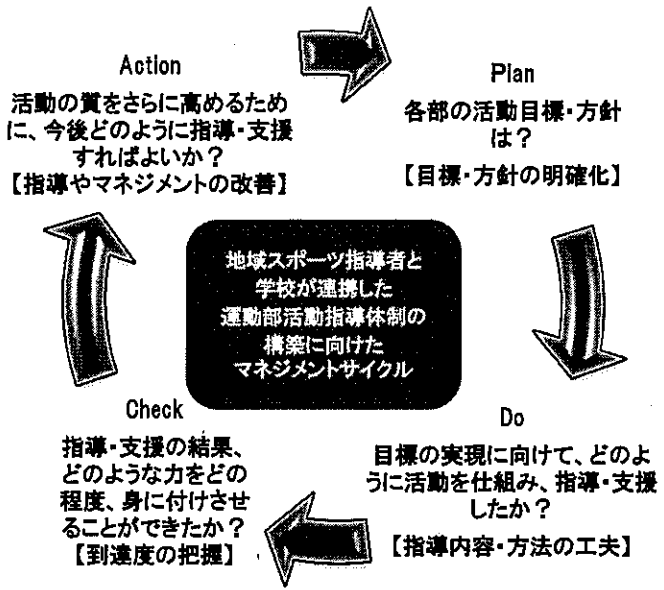
事業報告書(様式5)

武道を通じて、心身の調和的発達を促す部活動を目指した実践例。

学校名	大熊町立大熊中学校
部活動名	剣道部
部員数	3人(男子3人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0242-23-7214
学校Eメールアドレス: bz023205@bz04.plala.or.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

- (1)稽古の最後に、地稽古や打ち込み稽古の時間を設け心肺機能に負荷のかかる練習を行った。
- (2)外部指導者による講話の時間を設け、剣道の精神を理解するよう努めた。
- (3)外部指導者から竹刀や防具の手入れの方法を習い、個人で管理できるようにした。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

- (1)部員2名が初段を獲得することができた。また中体連では2勝することができた。
- (2)挨拶や大会時の準備など率先して行えるようになった。
- (3)休日を利用して竹刀の手入れを行い、安全管理に気をつけるようになった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

- (1)上位大会への出場をめざし、実践的な稽古を多く取り入れる。
- (2)練習時間を確保し、時間を有効に使えるよう、移動や着替えなどの行動を素早く行えるようにする。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1)体育館の支柱カバーが開かないよう、テープや段ボールで覆った。
- (2)竹刀によるケガを防止するため、竹刀の手入れを個人で行えるよう指導した。
- (3)夏場の練習では熱中症指数を測定し、熱中症への配慮をした。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1)毎月の練習計画を渡し、指導に来られる日は事前に連絡をいただくようにした。
- (2)欠席や病気、ケガなど部員の体調に変化があった場合は、顧問と部長の両方から外部指導者へ報告を行った。
- (3)外部指導者が来られなかった大会は動画を記録し、後日反省を行った。

【試合】

試合終了後、審判として参加していた外部指導者に指導を受けに行く。



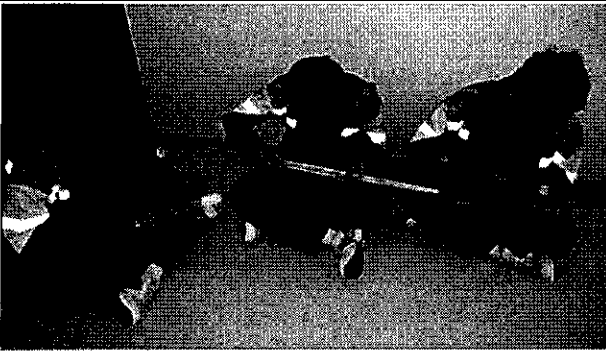
【団体戦】

出場最低人数の3名で団体戦に出場。



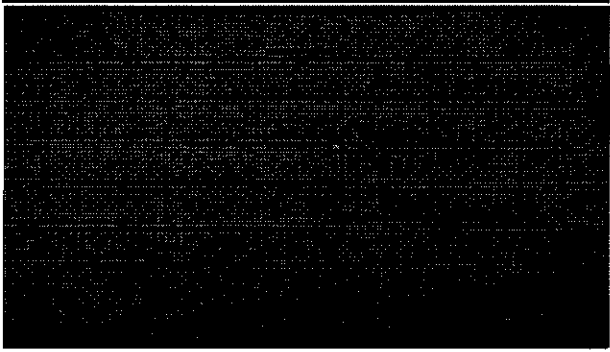
【竹刀の点検】

練習後に竹刀の点検整備をしている。



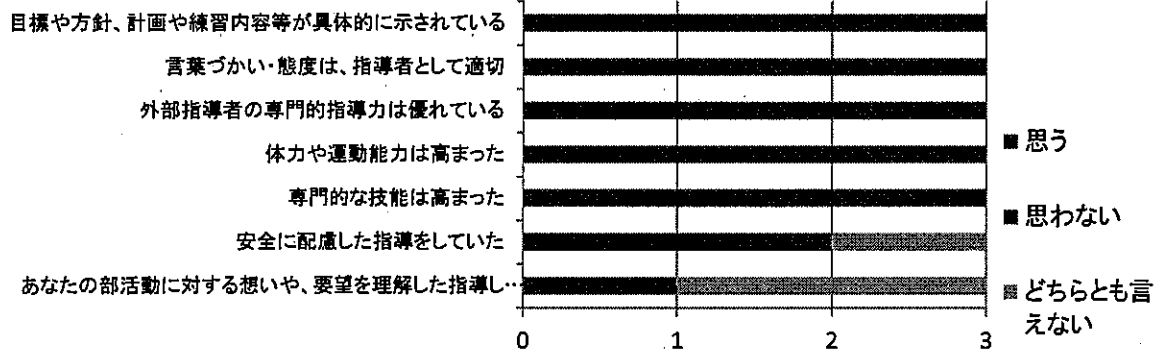
【練習計画】

月ごとに練習場所と時間を外部指導者にプリントで連絡した。



【地域スポーツ人材の活用実践支援授業アンケート】

生徒用のアンケートの集計結果をグラフ化した。満足度が高いことがうかがえる。



【外部指導者活用の成果】

外部指導者を活用した事による生徒の変容。

外部指導者を活用したことで、基本稽古だけでなく、かかり稽古や地稽古など発展的な練習を行う機会が増えたことで技術が向上した。また、技の行い方など休憩時間に質問をする姿が見られ、競技意欲の向上につながった。

また、部員が3名と少なく自分が休む事で予定していた練習が出来なくなり、他人に迷惑をかけることを自覚し、練習への参加率が高まった。また、欠席の際も事前の練習で外部指導者に自分で連絡を行うなど自主的に行えるようになった。

外部指導者にご協力頂き、競技力の向上はもちろんのこと、部活動への参加率向上など生活態度にも良い影響があったと考えられる。

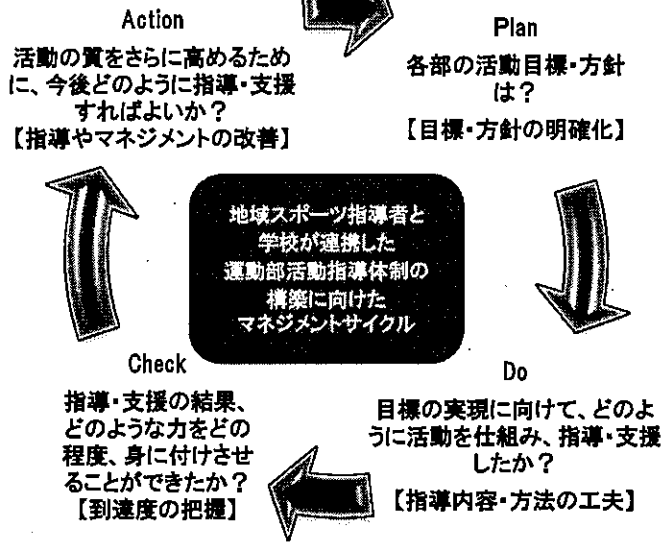
事業報告書(様式5)

武道を通じて、心身の調和的発達を促す部活動を目指した実践例。

学校名	大熊町立大熊中学校
部活動名	剣道部
部員数	3人(男子3人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0242-23-7214
 学校Eメールアドレス: bz023205@bz04.plala.or.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

- (1)稽古の最後に、地稽古や打ち込み稽古の時間を設け心肺機能に負荷のかかる練習を行った。
- (2)外部指導者による講話の時間を設け、剣道の精神を理解するよう努めた。
- (3)外部指導者から竹刀や防具の手入れの方法を習い、個人で管理できるようにした。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

- (1)部員2名が初段を獲得することができた。また中体連では2勝することができた。
- (2)挨拶や大会時の準備など率先して行えるようになった。
- (3)休日を利用して竹刀の手入れを行い、安全管理に気をつけるようになった。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

- (1)上位大会への出場をめざし、実践的な稽古を多く取り入れる。
- (2)練習時間を確保し、時間を有効に使えるよう、移動や着替えなどの行動を素早く行えるようにする。

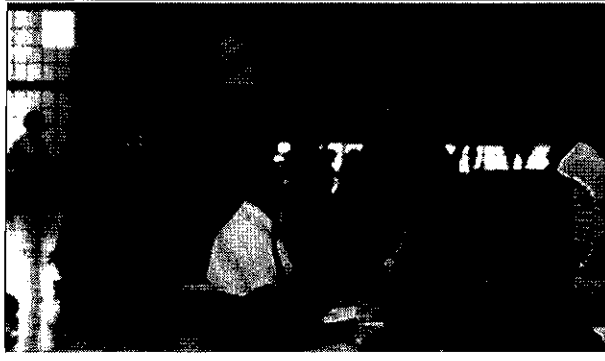
生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1)体育館の支柱カバーが開かないよう、テープや段ボールで覆った。
- (2)竹刀によるケガを防止するため、竹刀の手入れを個人で行えるよう指導した。
- (3)夏場の練習では熱中症指数を測定し、熱中症への配慮をした。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1)毎月の練習計画を渡し、指導に来られる日は事前に連絡をいただくようにした。
- (2)欠席や病気、ケガなど部員の体調に変化があった場合は、顧問と部長の両方から外部指導者へ報告を行った。
- (3)外部指導者が来られなかった大会は動画を記録し、後日反省を行った。

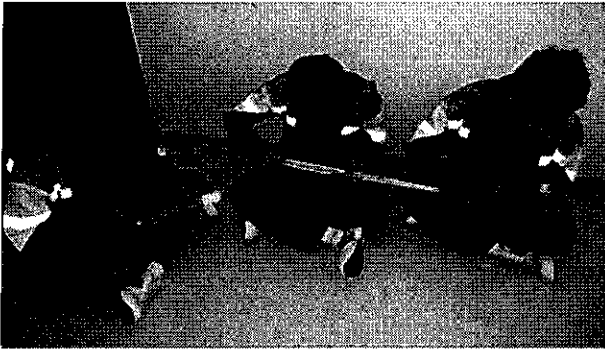
【試合】
試合終了後、審判として参加していた外部指導者に指導を受けに行く。



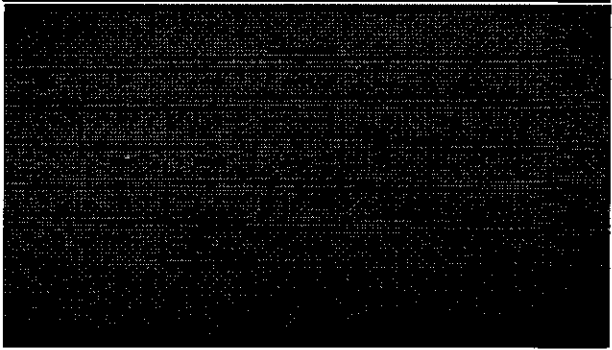
【団体戦】
出場最低人数の3名で団体戦に出場。



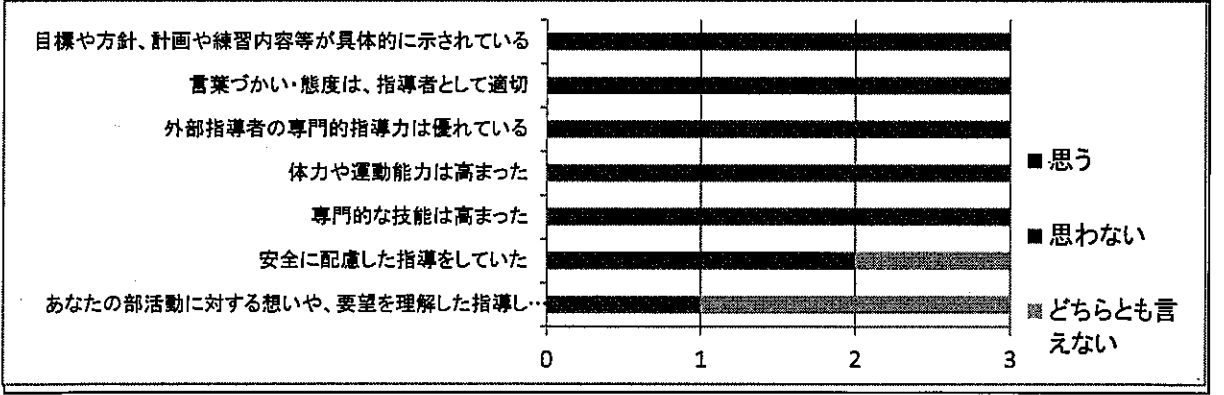
【竹刀の点検】
練習後に竹刀の点検整備をしている。



【練習計画】
月ごとに練習場所と時間を外部指導者にプリントで連絡した。



【地域スポーツ人材の活用実践支援授業アンケート】
生徒用のアンケートの集計結果をグラフ化した。満足度が高いことがうかがえる。



【外部指導者活用の成果】
外部指導者を活用した事による生徒の変容。

外部指導者を活用したことで、基本稽古だけでなく、かかり稽古や地稽古など発展的な練習を行う機会が増えたことで技術が向上した。また、技の行い方など休憩時間に質問をする姿が見られ、競技意欲の向上につながった。
また、部員が3名と少なく自分が休む事で予定していた練習が出来なくなり、他人に迷惑をかけることを自覚し、練習への参加率が高まった。また、欠席の際も事前の練習で外部指導者に自分で連絡を行うなど自主的に行えるようになった。
外部指導者にご協力頂き、競技力の向上はもちろんのこと、部活動への参加率向上など生活態度にも良い影響があったと考えられる。

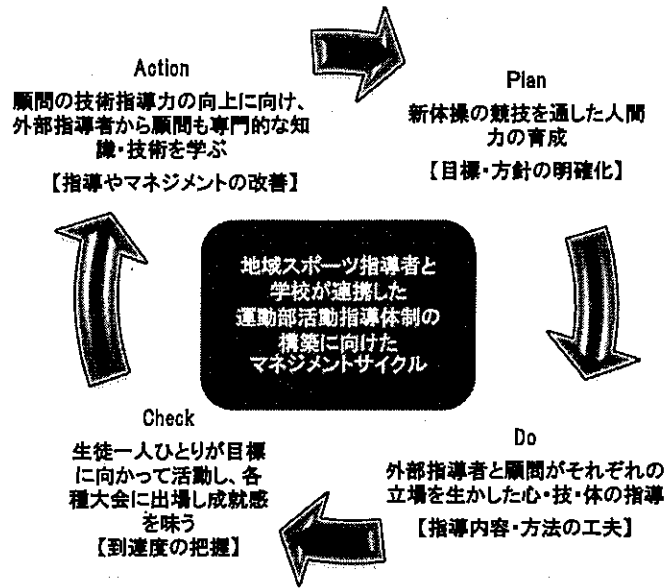
事業報告書(様式5)

地域スポーツ指導者と学校が一体となって生徒の心身の育成にあたる部活動の実践例

学校名	いわき市立平第一中学校
部活動名	新体操部
部員数	9人(女子9人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:(0246)23-1744
学校Eメールアドレス:taira1-ih@city.iwaki.hukushima.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

- (1)外部指導者の定期的な指導を受けながら、生徒一人ひとりが明確な目標をもって活動に取り組めるよう練習内容を構成した。
- (2)顧問は個人の目標達成に向けた活動の支援や部活動の意義、礼儀やあいさつなどに力を入れて指導した。
- (3)生徒の主体的な活動を促すために、外部指導者のアドバイスを受けながら生徒に演技を作らせた。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

- (1)部員9人中7人が新体操未経験者であったが、日々の活動を通して知識と技術を身につけ、各種大会に出場し堂々と演技することができた。
- (2)団体戦においては、外部指導者に演技構成を改良してもらいながら定期的に技術指導を受け、中体連県大会においては4位の成績を取ることができた。
- (3)個に応じた指導により、生徒は個人の能力に応じた目標をもって主体的に練習に取り組むことができた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

- (1)未経験者で入部した生徒は、新体操に必要な柔軟性も低く、できる技も限られてしまうため、体づくりなどの基礎的な練習を重点的に行う必要がある。
- (2)演技の指導だけでなく、部活動の意義や、取り組む姿勢、礼儀など、部活動を通して心の成長を促す。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

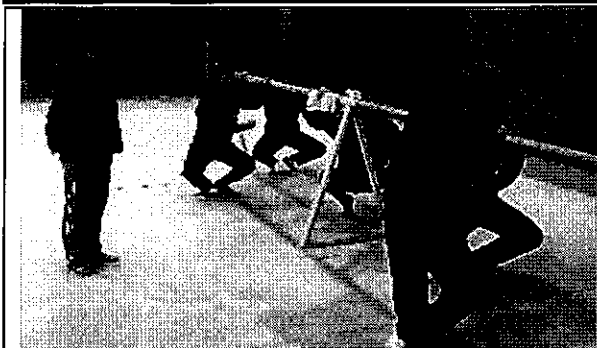
- (1)怪我の予防のため、練習はじめての柔軟体操を念入りに行った。
- (2)活動中は必ず顧問がついて、健康状態の把握や安全な活動に配慮した。
- (3)手具の投げの練習の際は十分なスペースを確保し、投げる方向や声かけなどを意識させた。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1)外部指導者の立てた練習メニューを顧問が普段の部活動で指導した。
- (2)専門的な知識がない顧問に代わり、外部指導者が演技構成と技術指導、申告書(大会に出場する際に必要な書類)の作成を行った。
- (3)大会後は外部指導者と情報交換を行い、指導方法の改善や、大会に向けた目標などの話し合いを行った。

【基礎練習の様子】

姿勢やポーズなど意識することを細かく指導



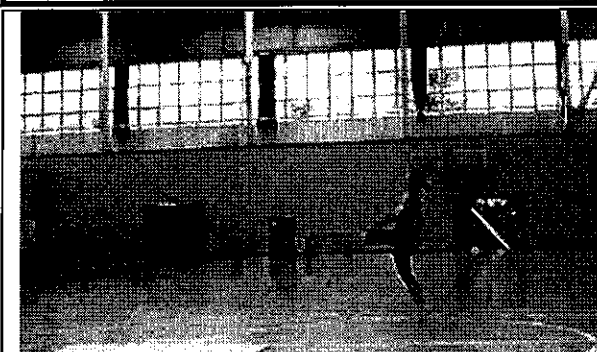
【団体演技の練習の様子】

投げや連携など、一つ一つの演技を確認



【広いスペースを確保した投げの練習の様子】

広いスペースの確保とケガ防止のためのマットの利用



【椅子を利用した柔軟体操の様子】

180度以上の開脚を目指した柔軟体操



【出場した大会の記録一覧】

外部指導者の指導により、確実に実力を伸ばすことができた。

日付	大会名	D(難度)点	E(芸術)点	減点	合計得点
H27 3月	いわき選手権大会	2.15	4.00	0	6.15
H27 5月	いわき市民スポーツ大会	1.90	4.15	0	6.05
H27 6月	中体連市大会	3.35	3.45	0	6.80
H27 7月	中体連県大会	2.55	4.50	0	7.05

【成果と今後の指導の課題】

外部指導者との連携と、生徒のより主体的な活動をめざして

特殊なスポーツであり、市内で部活動として活動している学校も本校だけであるため、他校と合同で練習したりすることもできず、一年を通して学校での活動である。専門的に演技の指導ができる教師もいないため、外部指導者の存在は、顧問にとっても生徒にとっても大きな支えとなった。限られた回数と時間の中で、生徒が主体的に活動を進められるように、外部指導者と顧問が密に連絡を取り合いながら、短期、長期の目標を明確に持たせ活動を進めた。その結果、新体操未経験の生徒も個々の能力に応じた演技を構成し、全員が各種大会に出場して演技することができた。大会に出場して演技したことで、成就感や達成感を味わい、さらに意欲が向上し、主体的な活動につながっていった。最後の中体連県大会では団体演技でチーム最高得点を獲得し、感動の涙を流す姿が見られた。新体操を通して、演技だけでなく、自己の目標に向かって努力する姿勢や、礼儀、感謝の心、仲間の大切さなど、大切なことを身につけ、成長する姿が見られた。来年度は、今年度の成果を生かし、顧問も、より専門的な知識や技術指導の習得を目指し、日々の指導にあたっていかなければならないと感じた。

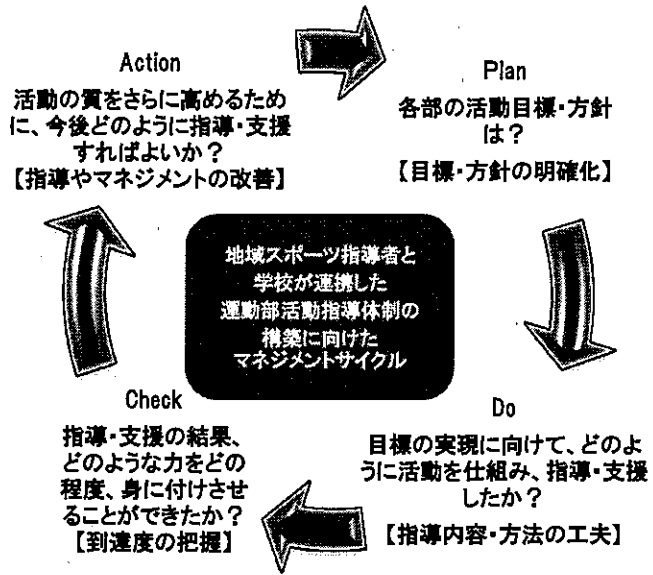
事業報告書(様式5)

地域の外部スポーツ人材を部活動指導者として招き、生涯スポーツのすばらしさを体感させ、健全な人間性の育成を図る実践例

学校名	いわき市立植田中学校(福島県)
部活動名	サッカー部
部員数	35人(男子32人、女子3人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0246(62)3521
学校Eメールアドレス:ueda-jh@iwaki.fukushima.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】

(1)サッカー部の指導を通して、健全な人間性の育成を図る。ピッチ上だけでなくピッチ外でよい習慣が定着するよう指導する。
 (2)サッカーの楽しさや厳しさを教え、向上心を持ってサッカーに取り組めるよう指導する。
 (3)「絶対に負けない」という戦う気持ちと弱音を吐かないたくましさを身につけるようにさせる。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】

(1)生徒の課題を把握しながら指導した結果、自ら解決していくという強い意志と実践力を身に付けることができた。
 (2)MTM方式を取り入れ、試合の中で何をできるようにすれば楽しく良い試合ができるかという課題のトレーニングを積極的に取り入れ、試合で確認することができた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】

(1)研修会への参加等を通じて、外部コーチとしての力量を高め効果的な指導・支援をする。
 (2)顧問と連携を密にし、役割分担を明確にして目的・目標を達成するような活動にしていく。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

(1)定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握した。
 (2)AEDや救命救急法の校内研修を実施し、緊急時の対応への備えを万全にした。
 (3)適切なテーピングやアイシングを生徒へ指導した。

顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

(1)外部指導者の指導日に顧問との打合せを行い、それぞれの部員の学校生活における状況について情報提供した。
 (2)外部指導者から科学的根拠に基づく練習内容や練習方法等の情報を入手した。

【ゴールキーパーへの指導】
ゴールキーパーのキャッチングの指導



【練習中のコーチング】
わかりやすい言葉



【試合の観戦時】
試合を観戦し、適切な指導を実施

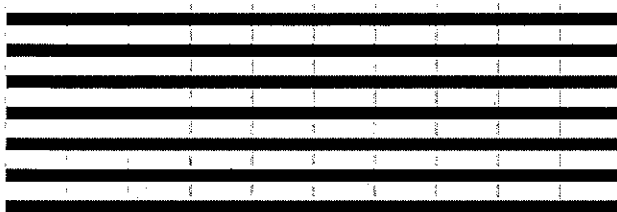


【けがに対するケア】
適切なテーピングでけがを防ぐ



【外部コーチと顧問への感想】
外部コーチと顧問の今年度の取組に対する生徒の感想

外部指導者や顧問は、あなたの部活動に対する想いや要望を理解して指導している。
外部指導者や顧問は、活動にあたって安全に配慮して指導していたと思いますか。
部活動ごととして、専門的な技能は高まった。
部活動をととして、体力や運動能力が高まった。
部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思う。
外部指導者の言葉遣い・態度は、指導者として適切だと思う。
部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示された。



■ 思う ■ 思わない ■ どちらとも言えない

【外部コーチに学ぶ】
顧問教師側の学びと次年度へつなぎ

大井川氏の指導の姿勢は、我われ顧問が陥りがちな指導者主導的な姿勢と相反するものである。サッカーでの実践場面を通して、次に何をすればよいのか、「気づき」の中で生徒に考えさせる姿勢である。我われ顧問はこのような姿勢に学び、結果だけを求めるのではなく、生徒の人間形成に資することのできる実践を行いたい。

大井川氏にはここ10年来サッカー部がお世話になっている。氏は卒業生が高校や社会人となってからもいろいろな関わりを持ってくださり、サッカー部を影で支えてくれている。植田中学校のサッカー部のよき伝統をこれからも継承できるように、顧問教師も氏の実践に学び、生徒とともに成長できる指導者でありたいと考える。

今年度は、大井川氏自身、県教委主催の研修会への参加は氏の都合上できなかったが、校長や部活動顧問から「体罰」「不適切な行動」には十分注意して指導を行うことの話合いを年度当初行った。次年度も外部コーチをお願いできれば、年度当初、同様の話し合いを持ち、事故防止につなげていきたい。